

# 永遠の水源地

*Origin* × **【3,500】** × *X* = *Sustainable*

水源に生きる【3,500】人、ひとりひとりの個性を最大化することが、

まちの持続可能性となる

第7次土佐町振興計画

副本編





# 目 次

序章 第7次土佐町振興計画について .....	1
1 計画策定の趣旨 .....	2
2 計画の構成 .....	2
3 計画策定のプロセス.....	2
第1章 土佐町の現在のすがた .....	3
1 土佐町の特徴.....	4
2 幸福度調査結果.....	5
3 町民アンケート結果.....	8
3 データでみる土佐町.....	30
2 産業に関するデータ.....	41
4 暮らしに関するデータ.....	61
5 財政に関するデータ.....	63
第2章 2030年の土佐町のビジョン.....	67
1 土佐町のビジョンを設定する上で大切にしたいこと .....	68
2 2030年の土佐町のビジョン .....	70
3 2030年のすがたを実現するための分野別ビジョン .....	72
第3章 2030年の土佐町にむけて .....	75
「教育・学び・子育て」 .....	76
「スポーツ」 .....	83
「文化、図書館、アート」 .....	89
「自然環境と農畜林業」 .....	95
「仕事・産業」 .....	102
「愛（地域愛）」 .....	109
「繋がり」 .....	115
「安心安全な暮らし」 .....	121
「人口減少」 .....	128
「その他（行財政）」 .....	133



## 序章 第7次土佐町振興計画について

# 1 計画策定の趣旨

人口減少や高齢化など、土佐町を取り巻く状況は複雑さを増し、対応すべき地域課題も増えてきています。その中でも、地域を次世代に繋ぎ、これからも持続可能な土佐町としていくことが必要です。

まちでは現在、2つの取組を軸にまちづくりを進めています。ひとつは2019年度に実施した「町民幸福度調査」。もうひとつは2015年に国連で採択され、2030年に達成を目指すSDGs（持続可能な開発目標）。これまで土佐町が大事にしてきた「昔からある暮らし」の価値をしっかりと次世代にも繋いでいくとともに、激動する世界の変化にも対応できる姿を目指します。「町民幸福度とSDGsに基づく持続可能なまちづくり」を通じて、「誰ひとり取り残さない」町政を実現していきます。

第7次土佐町振興計画は、町民と議会及び行政がしっかりと協働しながら、2030年に向けてこうしたまちづくりを実現していくための指針となるものです。可能な限り多くの町民の皆様の声を反映させるとともに、まちづくりに参画する住民の方が増えていくことを目指し、この度、新たな第7次土佐町振興計画を策定します。

# 2 計画の構成

本計画は、土佐町民がより豊かで幸せに暮らせるよう、また計画的で持続可能な行政運営を行っていくための方向性を示しています。

計画の期間は10年間（目標年度：2030年度）としています。

# 3 計画策定のプロセス

本計画は、令和元年度から令和2年度の期間で策定しました。

年	月	内容	
令和元年度	9月	現況把握 職員研修	○人口、産業、福祉等の各種統計データを整理 ○並行してクラウドファンディングや新規事業立案についての職員研修を実施
	10月		
	11月		
	12月		
	1月	アンケート 調査	○2月に無作為に18歳以上町民1,000人に対し、アンケート調査を実施（回収数427人）
	2月		
3月			
令和2年度	4月	現状分析	○6月に町職員対象に「ファシリテーション研修会」を実施
	5月		
	6月		
	7月	意見聴取	○8月に40歳代以下を対象とした「若手未来ミーティング」を2回実施 ○年内期間で、各地域でワークショップを開催（計26回）
	8月		
	9月		
	10月		
	11月		
	12月	計画書 作成	○2月にみなさんの意見を踏まえ、町のビジョンについて「第3回若手未来ミーティング」を実施 ○これらの意見をまとめ、計画書を作成
	1月		
	2月		
	3月		

## 第1章 土佐町の現在のすがた

## Ⅰ 土佐町の特徴

---

土佐町は四国の中央部、吉野川の現流域に位置する、山間の町です。

町のなりたちは古く、縄文土器、石斧等が各所から出土している。足利時代末期から戦国時代にかけて土豪の戦闘が繰り返された後、江戸時代に山内家の執政となった野中兼山の開田事業・用水事業により現在の町の基礎が形成されています

1955年土佐郡地蔵寺村及び森村、長岡郡田井村の合併により土佐村が発足し、その後、北部地域の編入合併を経て、1970年に町制を施行し土佐町となりました。平成の大合併においても、住民投票により単独自治体として残ることを選択し、現在に至ります

町の中心部には西日本最大級の多目的ダムであり、「四国の水がめ」とも称される早明浦ダムがあり、他の四国3県に水を送っています。また吉野川の支流である瀬戸川及び平石川から高知分水を通じて高知市鏡ダムへと水を送っており、高知市の水道水の約3割をまかなっています。平均年間降水量2,700mmと非常に雨が深い水源のまちであり、近年では「水で生きる」をコンセプトとしたまちづくりも行ってきました。こうした水源を守るため、中山間地域には珍しく、県内有数の下水道整備率を誇っています。

標高250～1,500mの起伏に富んだ山岳地形に棚田や山林が広がっている一方で、中心市街地には量販店や飲食店、病院などの生活サービスが徒歩圏にまとまっており、「豊かな自然環境」と「歩いて暮らせる町」の両方の側面を併せ持っています。四国4県の県庁所在地や空港へのアクセスも良く、全体として「暮らしやすい町」であると言えます。





## 2 幸福度調査結果

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の目的

土佐町に暮らす住民の誰もが幸せを実感できるまちづくり、また持続可能なまちづくりを目指して、土佐町住民がその暮らしの中で感じる幸福感について調査し、今後の町振興計画の策定や各種施策を通じてより良い町政の運営に繋げていくことを目的としています。

#### (2) 調査の概要

調査結果の概要は以下のとおり実施しました。

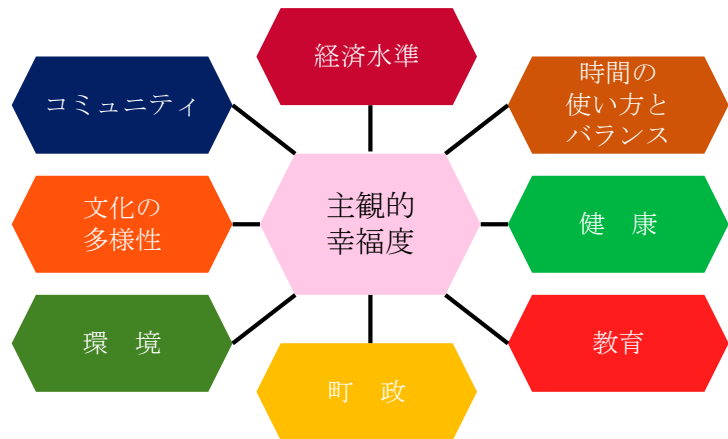
町民アンケート調査の概要

調査地域	土佐町全域
調査対象	町内に在住する住民
調査方法	役場職員等の訪問による調査票の配布及び回収 WEBサイト「とさちょうものがたり」によるアンケート入力
対象者数（配付数）	763人
有効回答数	604
有効回答率	79.2%
実施期間	2019年4月～5月

#### (3) 調査内容

調査の枠組みとして8つの要素が土佐町民の主観的な幸福度にどのような関連性があるか調査しました。

国内外で使用されている代表的な主観的な幸福度を図る尺度を用いるとともに、ブータン国に代表される国民幸福度（GNH）指標（一部改訂を含む）及び土佐町独自の尺度を用いて調査を実施しました。



## 2. 調査結果概要

### (1) 現在の幸福度及び5年後の幸福度について

現在の幸福感について10段階で回答してもらうものです。この尺度の構成要素には、例えば「家族と過ごしている」という種類の幸福や、「ライバルとの競争に勝った」という喜び、「宝くじに当たった」とラッキーといった感情が混在しています。この10段階のうち、7,8,9,10を「幸福」、4,5,6を「普通」、1,2,3を「不幸」に分類しました。

結果、回答者の49.7%が「幸福」、43%が「普通」、6.5%が「不幸」に分類し、回答者の92.7%が普通以上の幸福感を感じて生活している様子がうかがえます。

もう一つの尺度は、心理学者E・ディーナーが開発した「主観的幸福尺度（人生満足度）」です。この尺度は被験者が過去、現在、未来の主観的幸福を考えながら回答するもので、より心理的な状態が反映されやすいといった特徴があります。この尺度の最小値は5、最大値は35です。

結果、被験者の主観的幸福度の平均値は21.98でした。他の地域と比較することがあまり意味がないことを断ったうえで、この尺度による日本人の平均値はある調査で19であったため、アンケートに参加した土佐町の住民の幸福度はその日本人の平均値よりも高めの状態といえると考えられます。

〔現在の幸福度および5年後の幸福度（10段階尺度）〕

	幸福 (%)	普通 (%)	普通以上 (%)	不幸 (%)
現在の幸福度	49.7	43.0	92.7	6.5
5年後の幸福度	38.1	47.5	85.6	12.4
増減	-11.6	+4.5	-16.1	+5.9

幸福度（人生満足度）	平均値	21.98	中央値	22
------------	-----	-------	-----	----

## (2) 幸福度向上に関連すると考えられる要因

本調査から、土佐町における幸福度向上の主な特徴について、以下の社会・経済・環境での要因が考えられます。

〔幸福度向上に関連すると考えられる要因〕

社会	健康状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康状態が良好であるほど幸福度が高い人の割合が増加。併せて、「とてもよくない」の回答者には目立って「不幸」の割合が増える。身体的だけでなく、社会・精神的な良好を含むウェルビーイングの向上が幸福度に影響する可能性がある。</li> </ul>
	好奇心・新規性	<ul style="list-style-type: none"> <li>土佐町には異文化への好奇心や新技術への興味関心、チャレンジ精神が高い人が多い。地域社会の伝統等を大切にしながら、それらを残すための方策を探す「新規性・好奇心」、多様な人を包摂する社会環境の創造は「幸福」を増加させる可能性がある。</li> </ul>
	知識やスキル向上 読書習慣	<ul style="list-style-type: none"> <li>土佐町が「知的興味や知識、能力を磨いたり伸ばしたりする機会」に恵まれていると強く思っているほど、「幸福」に分類される人の割合が大きい。また、日常的な読書頻度に比例して幸福度が増す傾向も、一定の相関がある可能性がある。</li> </ul>
	次世代性向	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代性向とは「次世代の価値を生み出す行為に積極的に関わっていくこと」をいう。次世代性向が「高い」人の幸福は79.1%。地域の持続可能性に向けた行動をとる人ほど幸福度向上に顕著に関係している可能性がある。</li> </ul>
経済	生活水準 (所得水準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね所得水準が高くなると「幸福」の割合も増加する。ただし、所得が低いことが「幸福」「不幸」に分類される唯一の決定要因ではなく、他の要因から得られる幸福感を維持した上で、経済的な恩恵を受けるバランスの良い幸福感が必要である。</li> </ul>
環境	自然との共生・環境保全意識と行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>「私は自然の一部であり、自然の一部として生きることが幸せ」の回答に「とてもそう思う」とした人のうち「幸福」に分類された人の割合は74.8%と高い。自然を守るために適したライフスタイルを営むことによって実際に自然が保全されていると認識できる機会を増やすことによって「幸福」に分類される人の割合を増やすことにつながる事が予想される。</li> </ul>

「土佐町の暮らし」に対する満足感・愛着度＝土佐町で暮らしていくことへの幸福度

地元食材を食べる

コミュニティへの帰属意識

文化や特色への愛着

地域行事への参加

健康かつ一定の生活水準で暮らせること、自然との共生や、次世代を育てていくことへの関心と、幸福度との高い相関がありそうです。これらは土佐町の暮らしへの満足感や愛着にも繋がり、それが地域の食や暮らしを大事にすることにも繋がっていきます。そうした「地域社会における幸福資源」の好循環を捉え、今後の町振興計画の策定や各種施策を通じてより良い町政の運営に繋げていくことが求められます。

### 3 町民アンケート結果

#### 1. 調査の概要

##### (1) 調査の目的

町政運営の指針となる「土佐町第6次振興計画」の後期基本計画の進行状況を把握するとともに、令和3年度から始まる次期計画の策定に向けた基礎資料とすることを目的としています。

##### (2) 調査の概要

調査結果の概要は以下のとおり実施しました。

〔町民アンケート調査の概要〕

調査地域	土佐町全域
調査対象	町内に住所のある18歳以上の方の中から、無作為に1,000名
調査方法	郵送配付、郵送回収
対象者数（配付数）	1,000人
有効回答数	427
有効回答率	42.7%
実施期間	令和2年2月

##### (3) 調査内容

- 回答者の基本属性  
〔性別、年齢、職業、居住地区、同居家族（回答者含む）〕
- 町政について  
〔施策の実感度と重要度〕
- 土佐町のイメージについて  
〔土佐町の誇に思えるもの、良いところ、課題と思うところ〕

##### (4) 調査結果の留意点

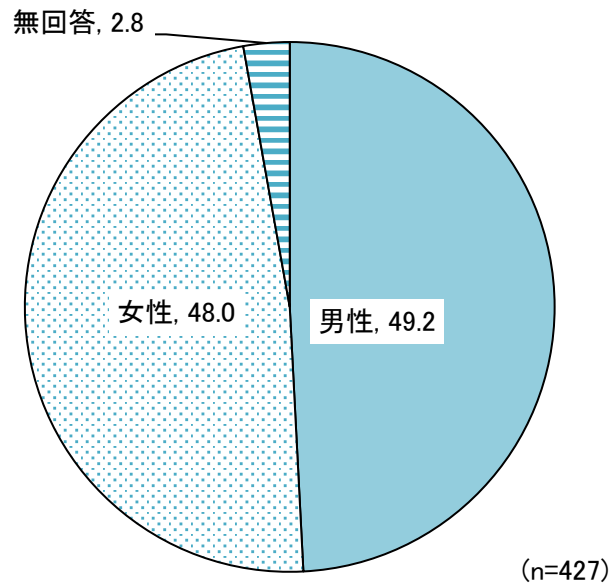
- ① 単数回答の場合の集計及び表示
  - ・設問どおり「1つ」を回答したものが対象となる。
  - ・単数回答の場合は、「全体」の値（無回答を含む）と合計値とが一致する。
- ② 複数回答の場合の集計及び表示
  - ・設問どおり「2つ」「3つ」等を回答したものが対象となる。
  - ・複数回答の場合、「全体」の値（無回答を含む）と合計値とは一致しない。
  - ・構成比は、各々の回答数を該当する「全体」数で除した値であり、合計値は100%にならない。
- ③ 構成比の算出及び表示
  - ・構成比は表内の各項目の値を「全体」の値で除して算出している。
  - ・小数点第2位を四捨五入しているため、各構成比と合計値は一致しない場合がある。
  - ・図表中の「N」は、該当質問における有効回答者総数を表す。

## 2. ご自身のことについて

問1 あなたの性別について、教えてください。

男性が49.2%（210人）、女性が48.0%（205人）となっています。

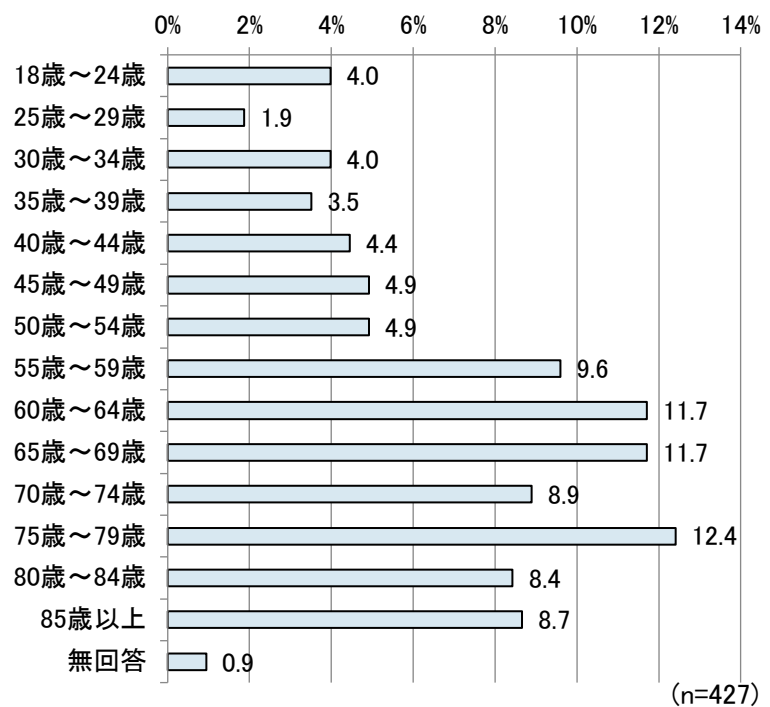
性別	回答数	割合
全体	427	100.0
男性	210	49.2
女性	205	48.0
無回答	12	2.8



問2 あなたの年齢について、教えてください。

75歳～79歳が12.4%と最も多く、次いで60歳～64歳、65～69歳が11.7%、55～59歳が9.6%などとなっている。高齢者が50.1%と約半数の回答割合となっています。

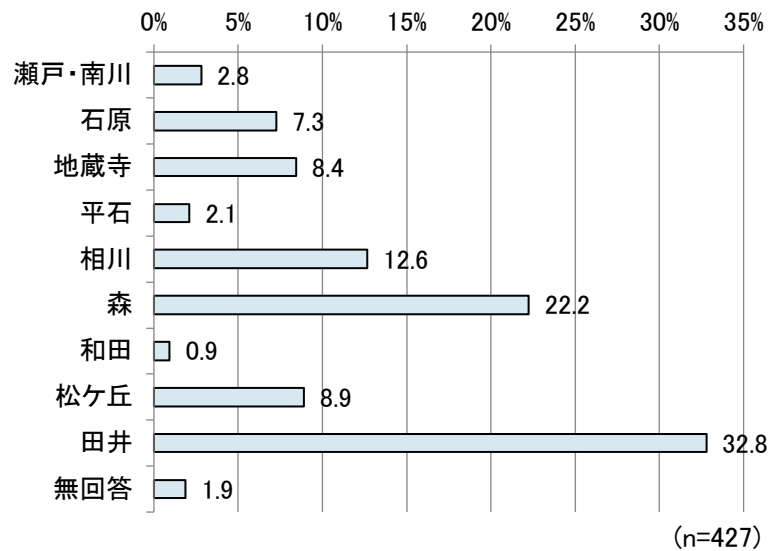
年齢別	回答数	割合
全体	427	100.0
18歳～24歳	17	4.0
25歳～29歳	8	1.9
30歳～34歳	17	4.0
35歳～39歳	15	3.5
40歳～44歳	19	4.4
45歳～49歳	21	4.9
50歳～54歳	21	4.9
55歳～59歳	41	9.6
60歳～64歳	50	11.7
65歳～69歳	50	11.7
70歳～74歳	38	8.9
75歳～79歳	53	12.4
80歳～84歳	36	8.4
85歳以上	37	8.7
無回答	4	0.9



問3 あなたの住んでいる地区について、教えてください。

田井地区が32.8%と最も多く、次いで森地区22.2%、相川12.6%、松ヶ丘8.9%などとなっています。

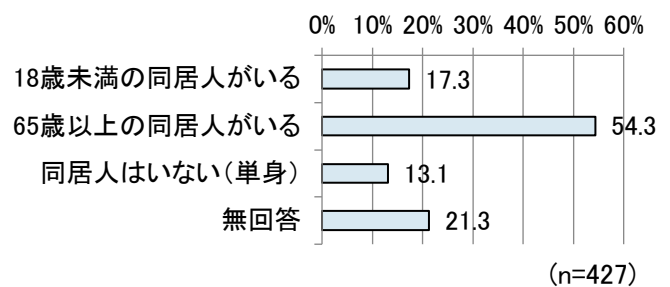
地区別	回答数	割合
全体	427	100.0
瀬戸・南川	12	2.8
石原	31	7.3
地藏寺	36	8.4
平石	9	2.1
相川	54	12.6
森	95	22.2
和田	4	0.9
松ヶ丘	38	8.9
田井	140	32.8
無回答	8	1.9



問4 あなたと同居している方について、教えてください。

「65歳以上の同居人がいる」が54.3%と最も多く、「18歳未満の同居人がいる」17.3%、「同居人はいない(単身)」が13.1%となっています。

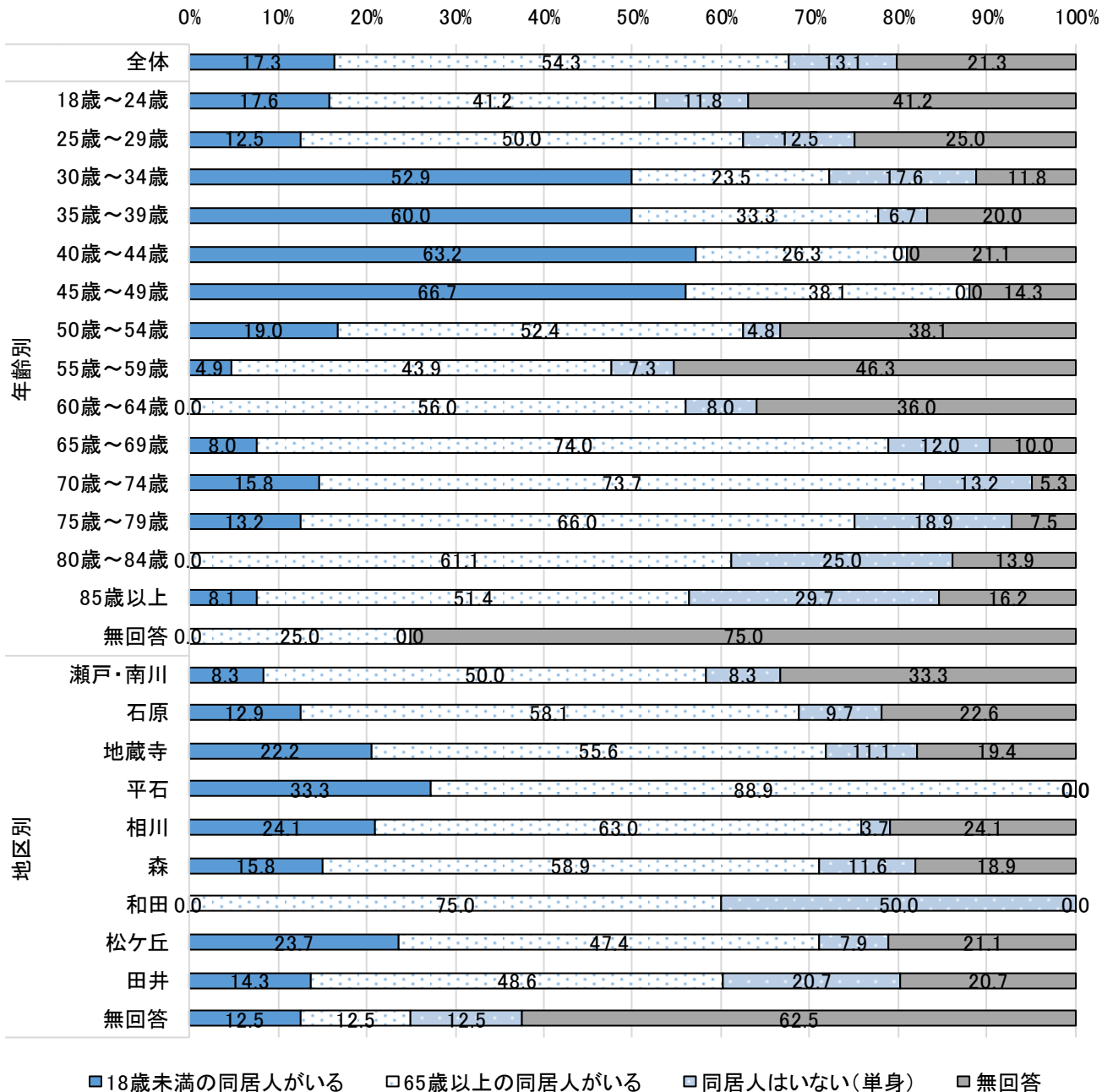
同居人	回答数	割合
全体	427	100.0
18歳未満の同居人がいる	74	17.3
65歳以上の同居人がいる	232	54.3
同居人はいない(単身)	56	13.1
無回答	91	21.3



クロス集計/年齢別・地区別

年齢別でみると、「18歳未満の同居人がいる」回答者は30歳～49歳に多い。「同居人がいない(単身)」は18歳～34歳で10%以上みられる他、65歳～69歳の12.0%から年代毎に増加し85歳以上で25.0%となっています。

地区別でみると、和田地区では「18歳未満の同居人がいる」の回答者が0.0%で、「同居人がいない(単身)」割合が50.0%と最も高いです。



## 4. 町政について

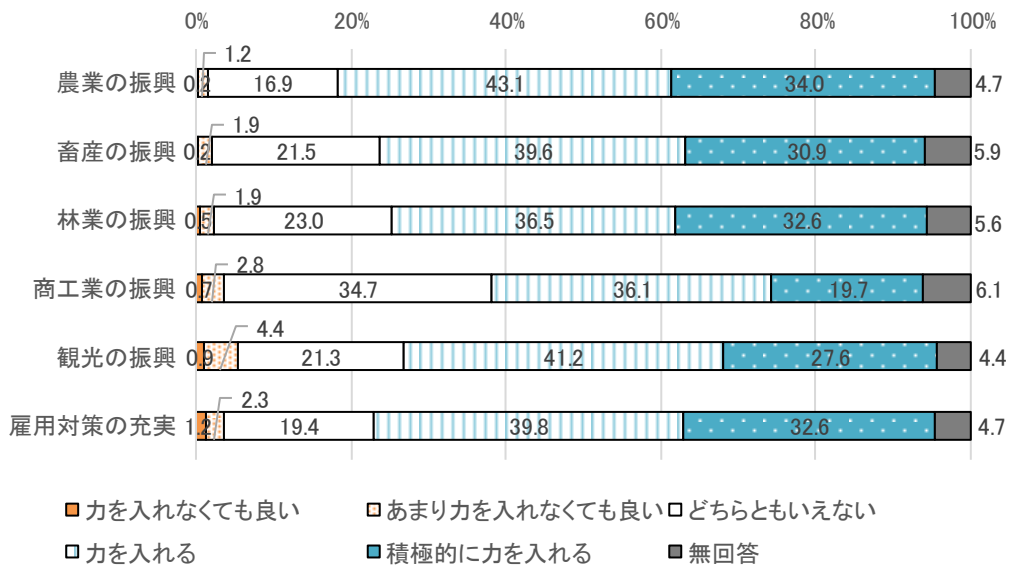
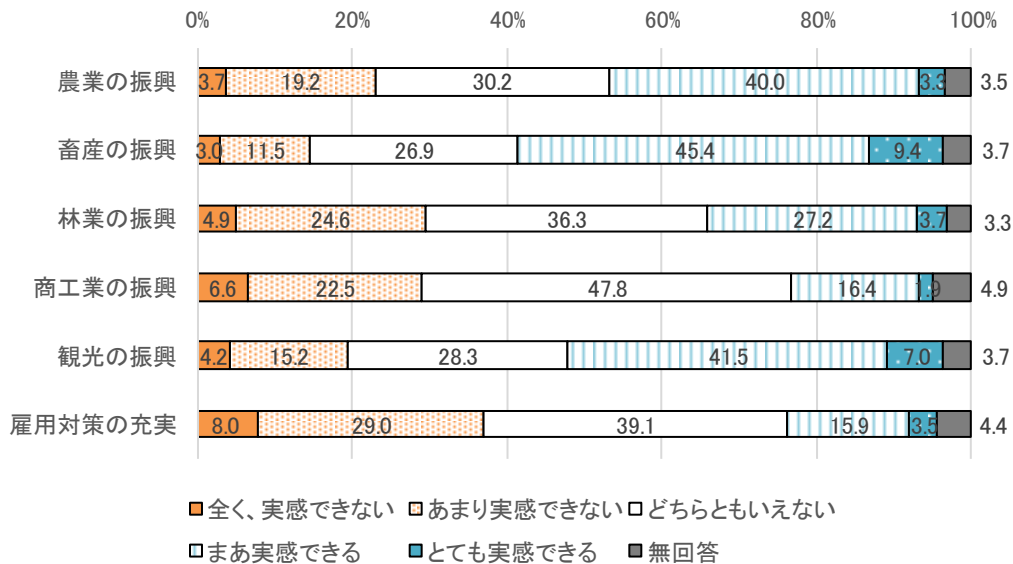
問5 現在、第6次土佐町振興計画では、以下に示す大綱を掲げています。それぞれの大綱について、①実感度、②今後の取り組みの度合い（重要度）についてお答えください。

### ① 豊かで活力に満ちた産業づくり

実感度について、『実感できる』（「とても実感できる」＋「まあ実感できる」）で「畜産の振興」が54.8%と最も多く、次いで「観光の振興」は48.5%と約半数を占めます。「雇用対策の充実」においては、『実感できない』（「全く、実感できない」＋「あまり実感できない」）が37%となっており、「林業の振興」「商工業の振興」は約3割となっています。

重要度において、『力を入れるべき』（「積極的に力を入れる」＋「力を入れる」）の割合が最も高いのは「農業の振興」となっており、次いで「雇用対策の充実」となっています。また、それぞれの項目において、「力をいれなくても良い」の割合は1割未満となっています。

【実感度】

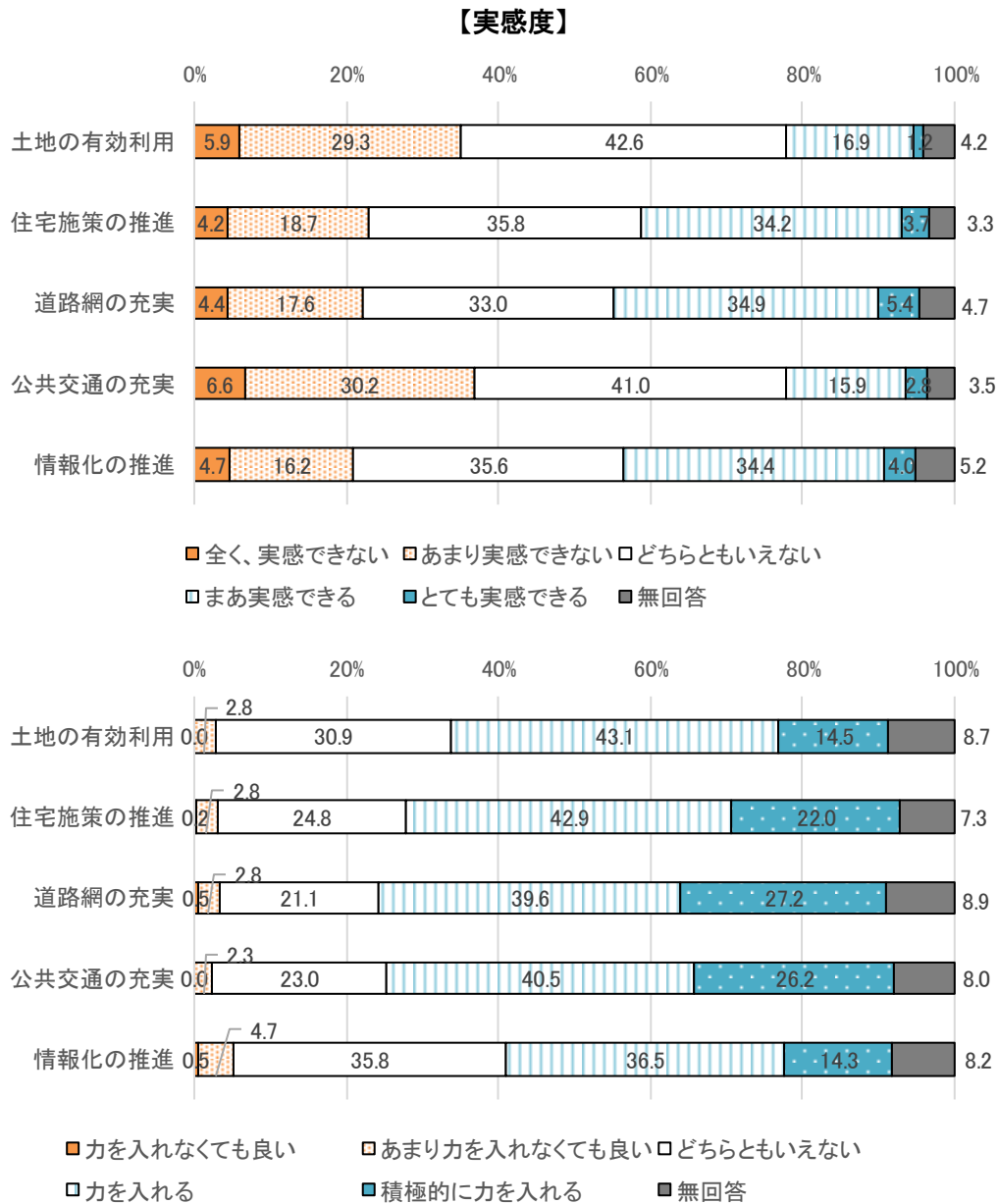




## ② 定住と交流を生み出す生活基盤づくり

実感度について、『実感できない』（「全く、実感できない」＋「あまり実感できない」）の割合が最も高いのは「公共交通の充実」36.8%となっており、次いで「土地の有効利用」35.1%となっています。

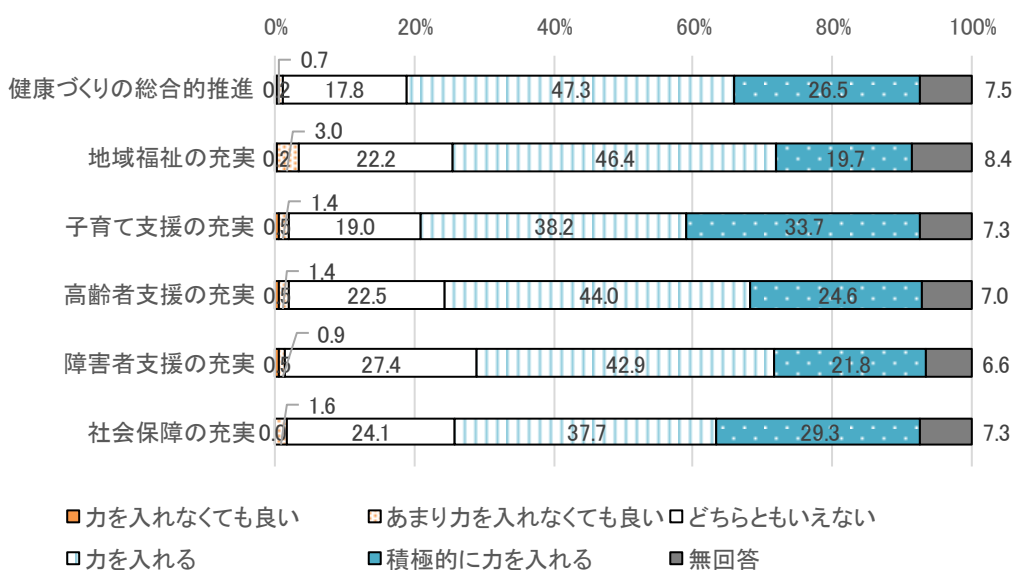
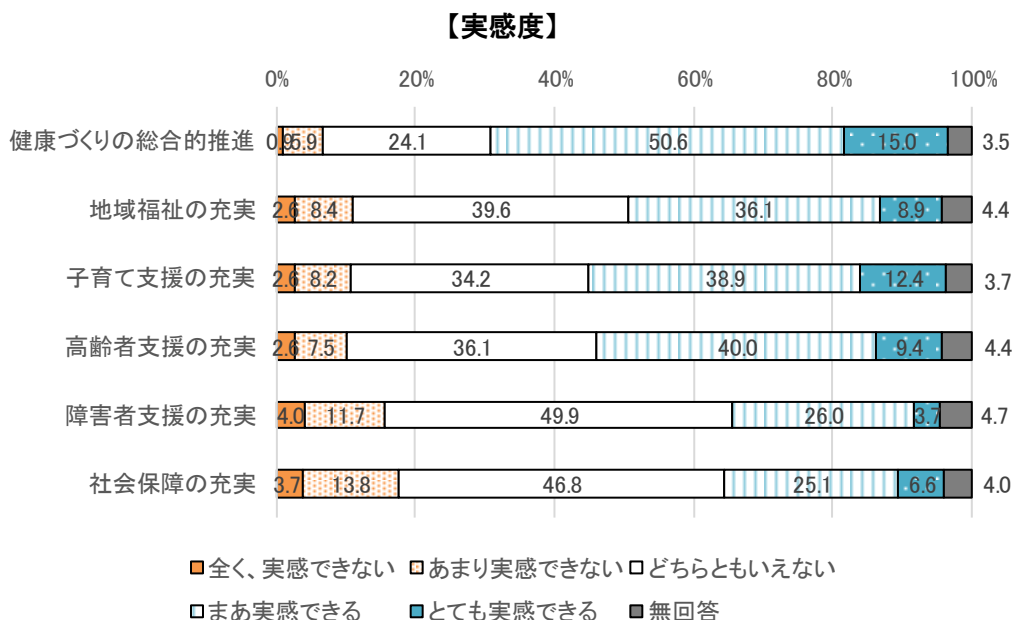
重要度において、『力を入れるべき』（「積極的に力を入れる」＋「力を入れる」）の割合が最も高いのは「道路網の充実」となっており、次いで「公共交通の充実」となっています。



### ③ 安心できる健康・福祉のまちづくり

実感度について、『実感できる』（「とても実感できる」＋「まあ実感できる」）の割合が最も高いのは、「健康づくりの総合的推進」65.6%で半数以上を占めます。

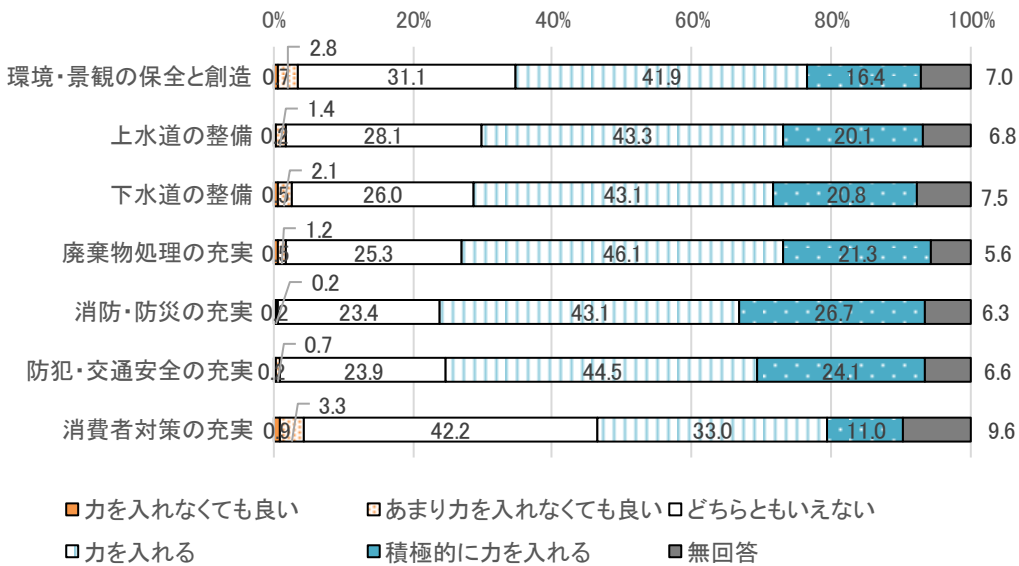
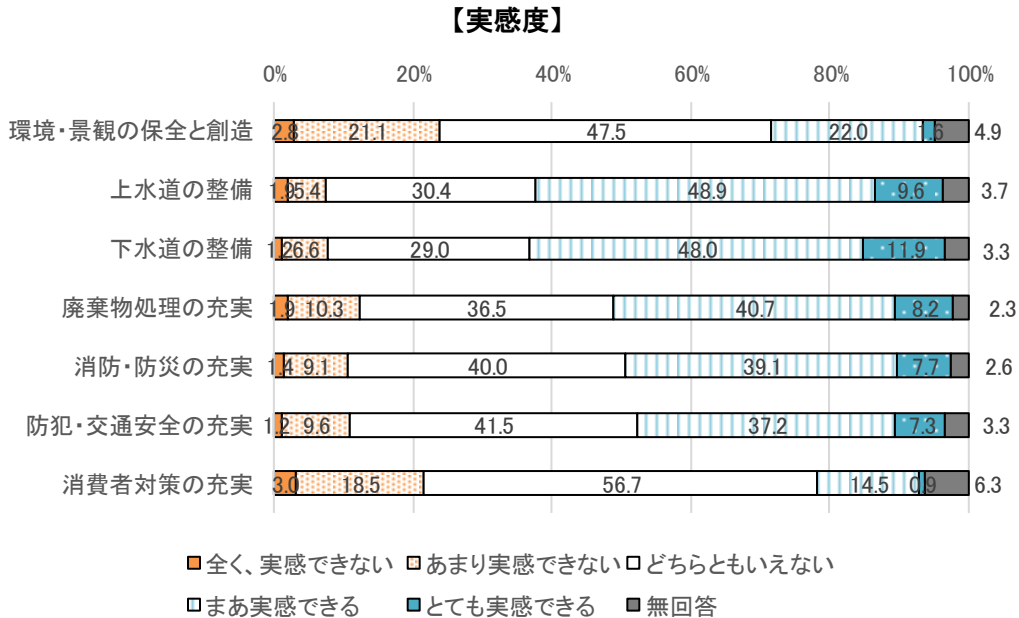
重要度において、『力を入れるべき』（「積極的に力を入れる」＋「力を入れる」）の割合が最も高いのも「健康づくりの総合的推進」となっており、次いで「子育て支援の充実」「高齢者支援の充実」などとなっています。



#### ④ 快適で安全な生活環境づくり

実感度について、『実感できる』（「とても実感できる」＋「まあ実感できる」）で「上水道の整備」「下水道の整備」が約半数を占めます。

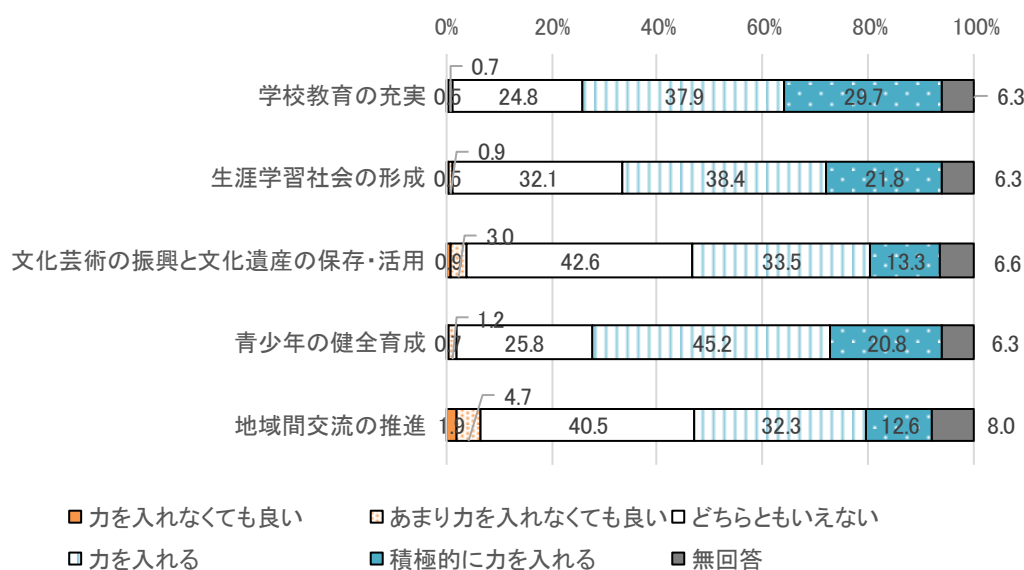
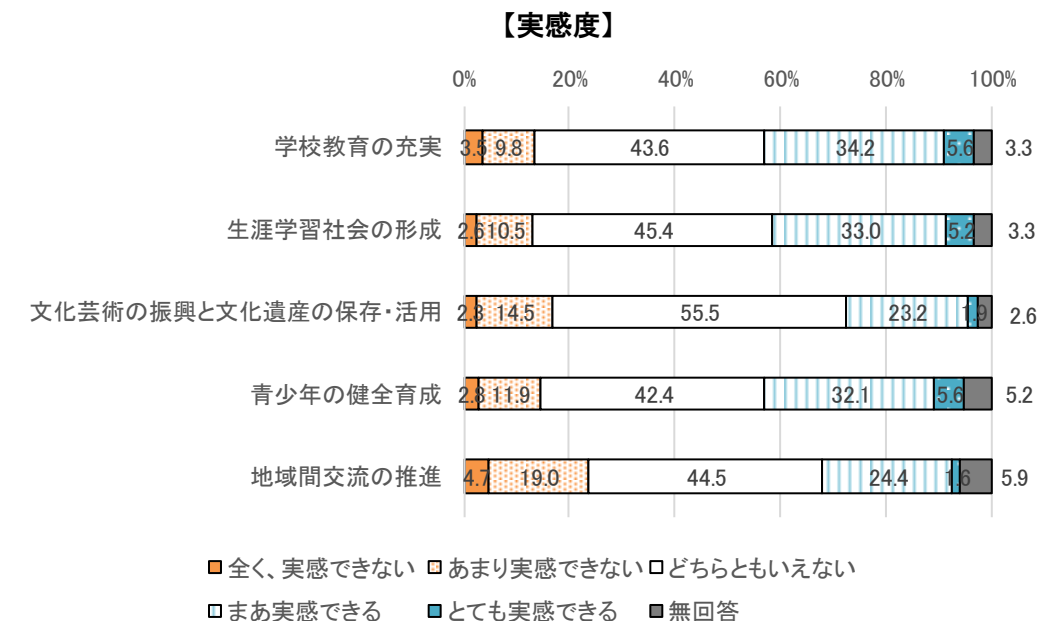
重要度において、『力を入れるべき』（「積極的に力を入れる」＋「力を入れる」）の割合が最も高いのは「消防・防犯の充実」となっており、次いで「防犯・交通安全の充実」「廃棄物処理の充実」などとなっています。



⑤ 人と文化が輝く教育・文化のまちづくり

実感度について、「学校教育の充実」「生涯学習社会の形成」「青少年の健全育成」は、『実感できる』（「とても実感できる」＋「まあ実感できる」）約4割、「どちらでもない」約4割となっています。

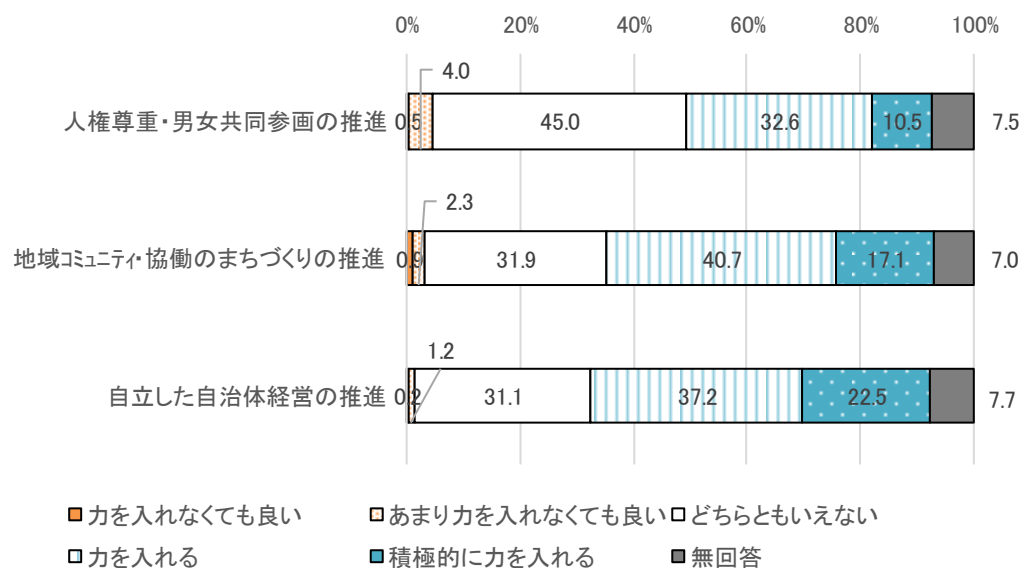
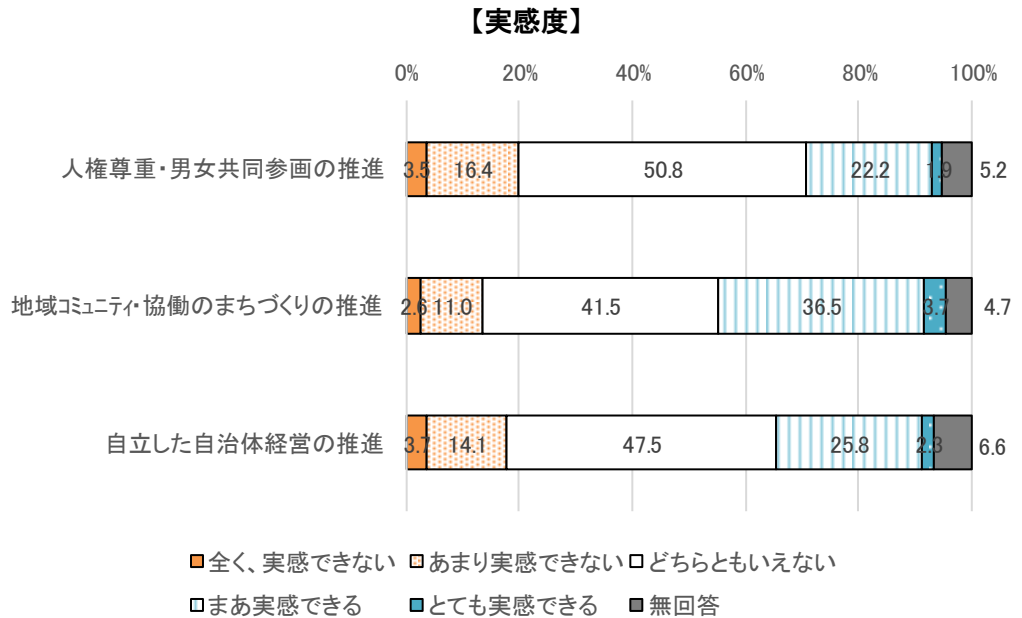
重要度において、『力を入れるべき』（「積極的に力を入れる」＋「力を入れる」）の割合が最も高いのは「学校教育の充実」となっており、次いで「青少年の健全育成」となっています。



### ⑥ みんなで進める協働のまちづくり

実感度について、全項目において「どちらでもない」の回答割合が高く約4～5割を占めます。

重要度において、『力を入れるべき』（「積極的に力を入れる」＋「力を入れる」）の割合が最も高いのは「自立した自治体経営の推進」59.7%、「地域コミュニティ・協働のまちづくりの推進」57.8%となっています。



### 【満足度と充実希望度の関係】

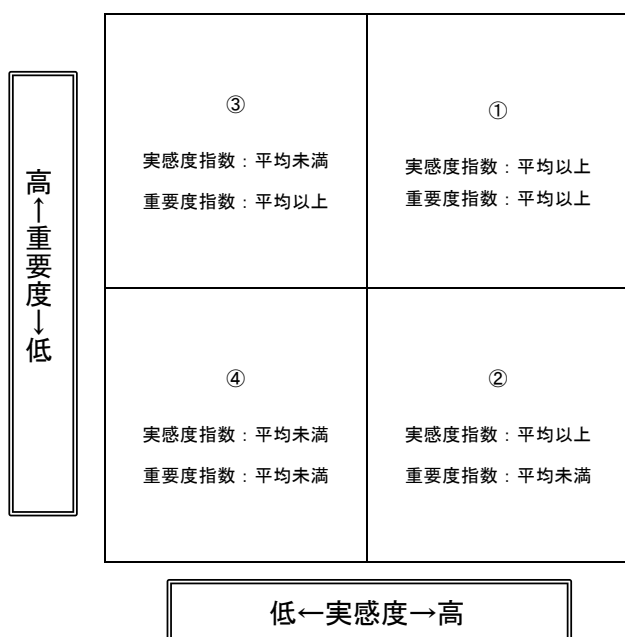
土佐町第6次振興計画後期基本計画の施策に関する32項目の実感度、重要度について指数化し、関係関係を4象限で表しました。

指数の計算方法、図の見方などは以下のとおりです。

#### □ 指標の算出について

- ✓ 実感度指数は各項目の回答を、とても実感できる（5点）、まあ実感できる（4点）、どちらともいえない（3点）、あまり実感できない（2点）、全く、実感できない（1点）として、その項目に対する回答者数の合計で除した。
- ✓ 重要度指数は各項目の回答を、積極的に力を入れる（5点）、力を入れる（4点）、どちらともいえない（3点）、あまり力を入れなくても良い（2点）、力を入れなくても良い（1点）として、その項目に対する回答者数の合計で除した。
- ✓ 図の原点は各指標の平均値となっている。

#### □ 図の見かた



#### ①実感度・重要度ともに高い

実感度を低下させないために、現在の水準を維持・向上させることが求められる可能性がある。

#### ②実感度は高く、重要度が低い

社会的意義や法律的な義務付け等への配慮は必要であるものの、財政状況によっては見直しを行う可能性がある。

#### ③実感度が低く、重要度は高い

住民の期待に対して十分対応できていないことが考えられ、住民満足度を向上するために優先して取り組まなければならない可能性がある。

#### ④実感度・重要度ともに低い

重要度（住民の期待）が低いいため、実感度を上げるための対策は必ずしも緊急ではない可能性がある。

#### □ 32の施策項目

- |           |               |                        |
|-----------|---------------|------------------------|
| 1農業の振興    | 12健康づくりの総合的推進 | 23防犯・交通安全の充実           |
| 2畜産の振興    | 13地域福祉の充実     | 24消費者対策の充実             |
| 3林業の振興    | 14子育て支援の充実    | 25学校教育の充実              |
| 4商工業の振興   | 15高齢者支援の充実    | 26生涯学習社会の形成            |
| 5観光の振興    | 16障害者支援の充実    | 27文化芸術の振興と文化遺産の保存・活用   |
| 6雇用対策の充実  | 17社会保障の充実     | 28青少年の健全育成             |
| 7土地の有効利用  | 18環境・景観の保全と創造 | 29地域間交流の推進             |
| 8住宅施策の推進  | 19上水道の整備      | 30人権尊重・男女共同参画の推進       |
| 9道路網の充実   | 20下水道の整備      | 31地域コミュニティ・協働のまちづくりの推進 |
| 10公共交通の充実 | 21廃棄物処理の充実    | 32自立した自治体経営の推進         |
| 11情報化の推進  | 22消防・防災の充実    |                        |

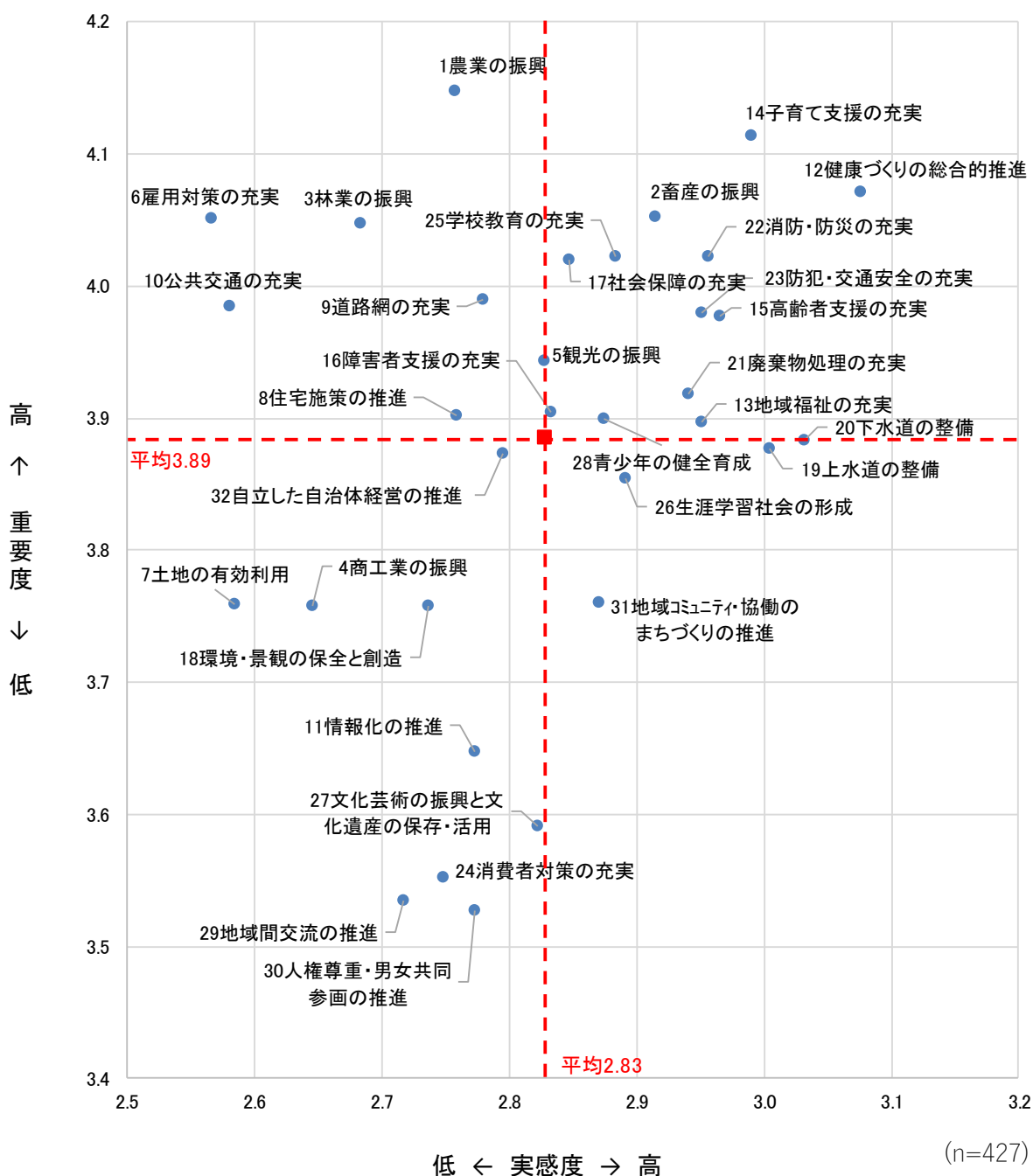
## 全体／施策の重要度と実感度の関係

実感度、重要度ともに高い項目は「12 健康づくりの総合的推進」「14 子育て支援の充実」などがあります。

実感度は高く、重要度が低い項目は「31 地域コミュニティ協働のまちづくり推進」「26 生涯学習社会の形成」などがあるが、項目は少なくなっています。

実感度が低く、重要度が高い項目は「6 雇用対策の充実」「10 公共交通の充実」「1 農業の振興」「3 林業の振興」などがあります。

実感度、重要度ともに低い項目は「29 地域間交流の推進」「30 人権尊重・男女共同参画の推進」「24 消費者対策の充実」などがあります。



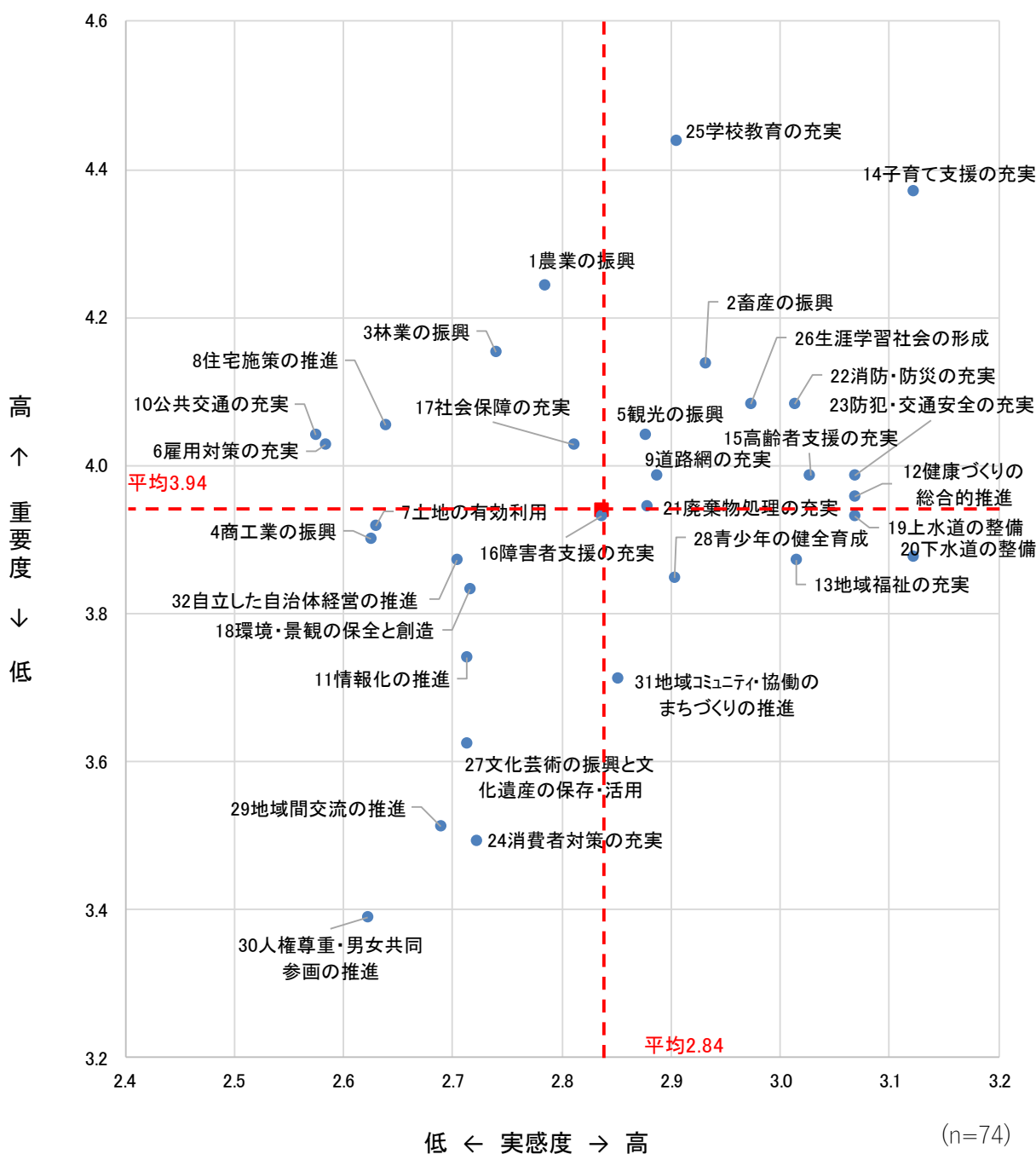
### 18歳未満の同居人がいる回答者／施策の重要度と実感度の関係

実感度、重要度ともに高い項目は「14 子育て支援の充実」「25 学校教育の充実」などがあります。

実感度は高く、重要度が低い項目は「31 地域コミュニティ協働のまちづくり推進」「20 下水道の整備」などがあります。

実感度が低く、重要度が高い項目は「10 公共交通の充実」「6 雇用対策の充実」「8 住宅施策の推進」「1 農業の振興」「3 林業の振興」などがあります。

実感度、重要度ともに低い項目は「30 人権尊重・男女共同参画の推進」「29 地域間交流の推進」「24 消費者対策の充実」などがあります。





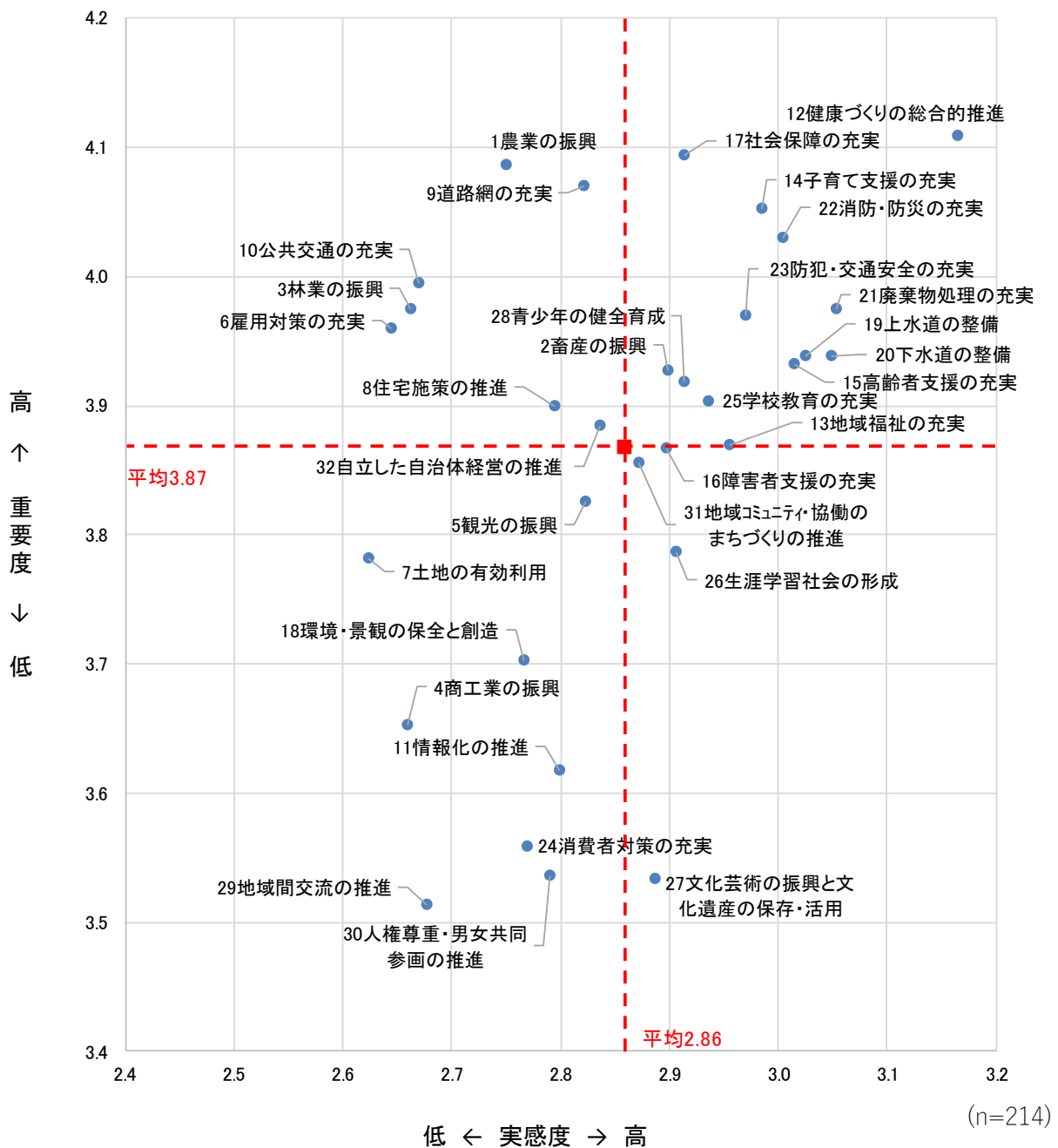
## 65歳以上／施策の重要度と実感度の関係

実感度、重要度ともに高い項目は「12 健康づくりの総合的推進」「14 子育て支援の充実」「17 社会保障の充実」「22 消防・防災の充実」などがあります。

実感度は高く、重要度が低い項目は「27 文化芸術の振興と文化遺産の保存・活用」「生涯学習社会の形成」などがあります。

実感度が低く、重要度が高い項目は「1 農業の振興」「10 公共交通の充実」「3 林業の振興」「6 雇用対策の充実」などがあります。

実感度、重要度ともに低い項目は「29 地域間交流の推進」「30 人権尊重・男女共同参画の推進」「24 消費者対策の充実」などがあります。



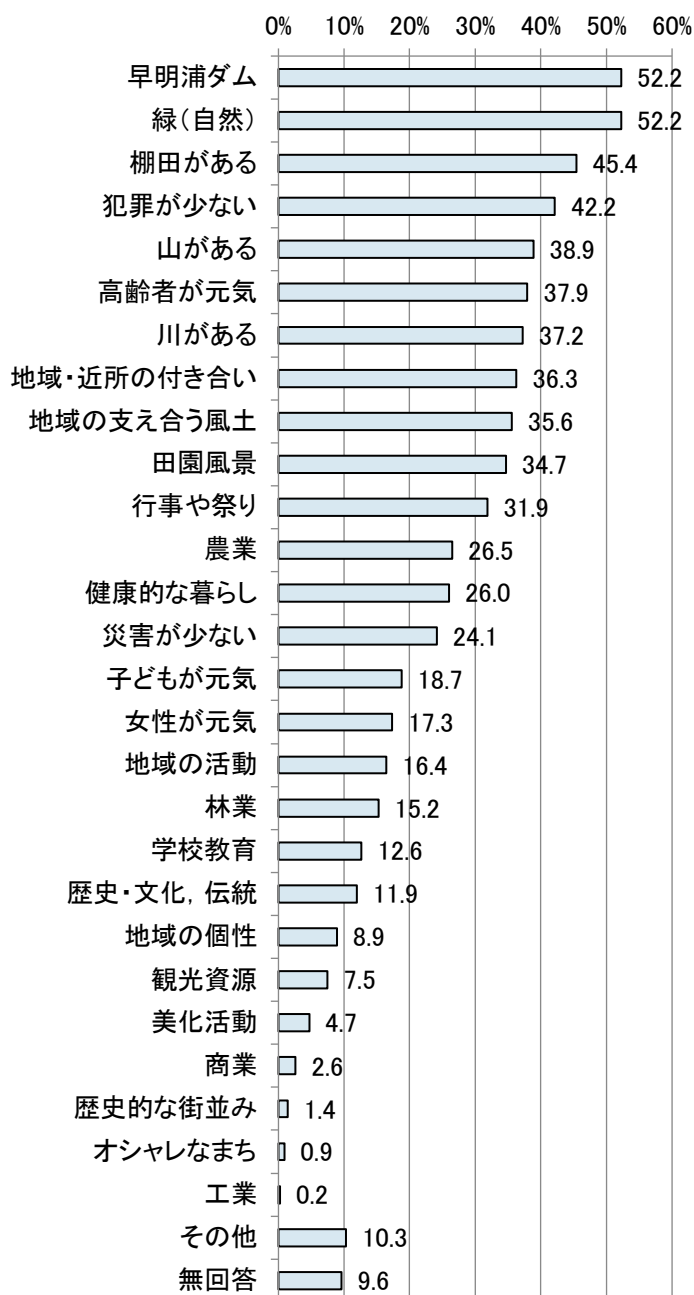
## 5. 土佐町のイメージについて

問6 土佐町の「誇（ほこり）」に思えるもの（自慢したいもの）は何ですか。  
当てはまるもの全てに○をつけて下さい。

### 土佐町の「誇（ほこり）」に思えるもの（自慢したいもの）

「早明浦ダム」、「緑（自然）」が52.2%と最も多く、次いで「棚田がある」45.4%、「犯罪が少ない」42.2%、「山がある」38.9%などとなっています。

土佐町の誇	回答数	割合
全体	427	100.0
早明浦ダム	223	52.2
緑(自然)	223	52.2
棚田がある	194	45.4
犯罪が少ない	180	42.2
山がある	166	38.9
高齢者が元気	162	37.9
川がある	159	37.2
地域・近所の付き合い	155	36.3
地域の支え合う風土	152	35.6
田園風景	148	34.7
行事や祭り	136	31.9
農業	113	26.5
健康的な暮らし	111	26.0
災害が少ない	103	24.1
子どもが元気	80	18.7
女性が元気	74	17.3
地域の活動	70	16.4
林業	65	15.2
学校教育	54	12.6
歴史・文化、伝統	51	11.9
地域の個性	38	8.9
観光資源	32	7.5
美化活動	20	4.7
商業	11	2.6
歴史的な街並み	6	1.4
オシャレなまち	4	0.9
工業	1	0.2
その他	44	10.3
無回答	41	9.6



(n=427)

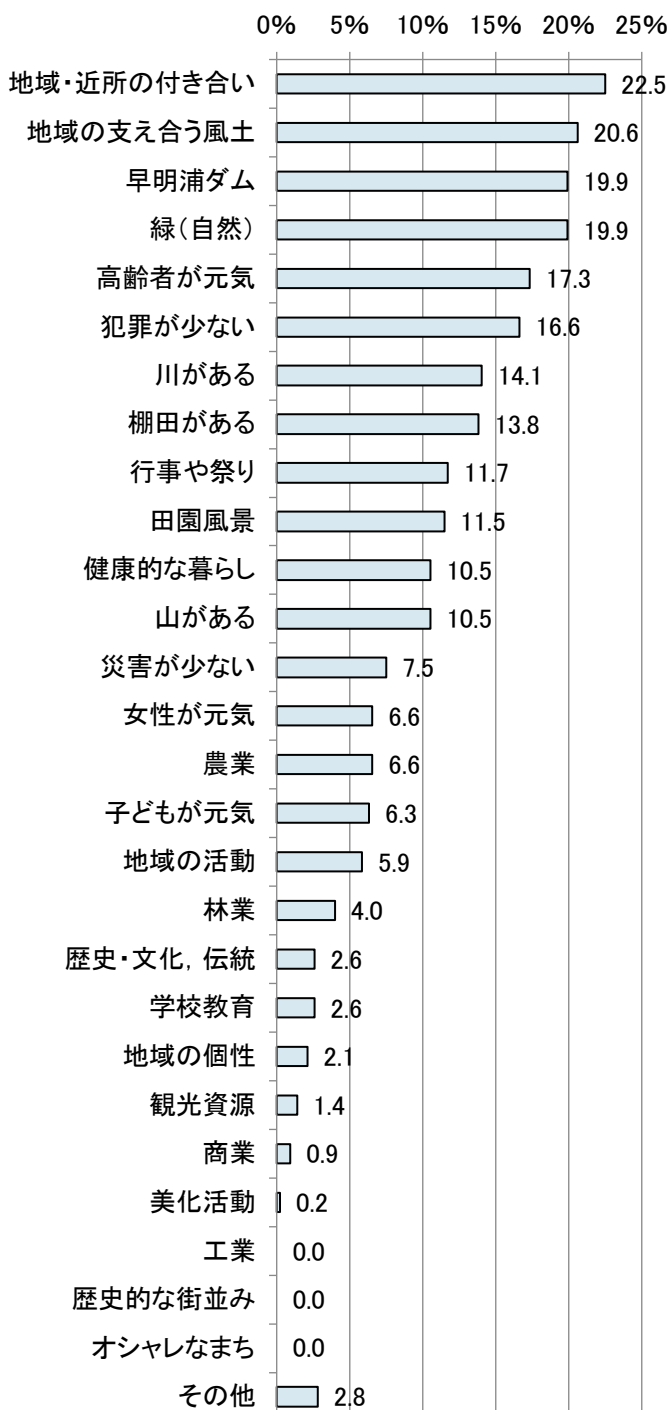
土佐町の良いところ、気になるところ（課題）

土佐町の良いところについて、「地域・近所の付き合い」が22.5%と最も多く、次いで「地域の支え合う風土」20.6%、「早明浦ダム」「緑（自然）」19.9%などとなっています。

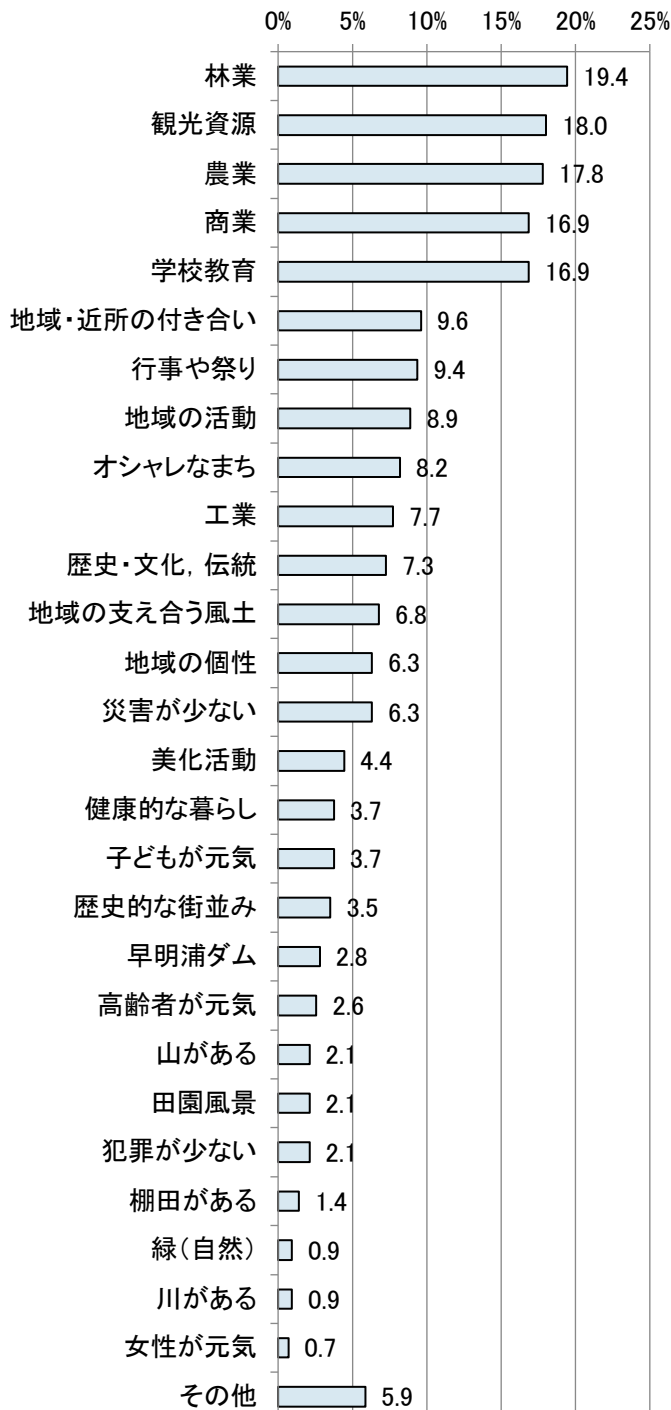
土佐町の気になるところ（課題）について、「林業」が19.4%と最も多く、「観光資源」18.0%、「農業」17.8%、「商業」「学校教育」16.9%などとなっており、以下10.0%以下となっている。産業や教育に関して課題の意向がみられます。

【良いところ】

【気になるところ（課題）】



(n=427)



(n=427)

【土佐町の良いところ】

項目	回答数	主な意見
農林畜産業	3	土佐赤牛、畜産、野菜や花や畑
商工業	1	美味しいお店がある
生活基盤	2	病院・スーパーがある等
福祉	1	とんからりんの家
子育て	2	子どもが安全に遊べる
生活環境	4	水がきれい、空気がおいしい、自然がある
文化	1	駅伝大会
コミュニティ	4	人間性、人が良い等

【土佐町の気になるところ（課題）】

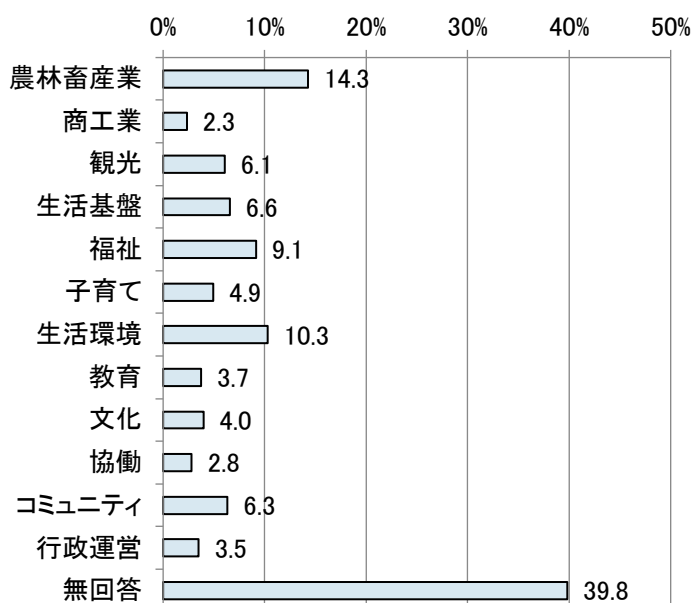
項目	回答数	主な意見
農林畜産業	1	農林業産業の衰退
商工業	2	店が閉まるのが早い
観光	1	嶺北地区を一覧した取り組みPR
生活基盤	9	交通の不便さ、夜街灯が少ない、空き家
生活環境	3	集落の活性化、戦闘機がうるさい
コミュニティ	7	人口減少、子どもが少ない等
行政運営	4	新規移住者重視、町税の使い方等

問7 ご自身や地域での取り組みについて、教えてください。

以下の「取り組みのジャンル」の中から1つ選んで○印をつけ、普段ご自身や地域で取り組んでいること、今後取り組んでみたいことについて記入してください。

農林畜産業が14.3%と最も多く、次いで生活環境（環境・景観・防災等）が10.3%、福祉が9.1%、コミュニティ6.3%などとなっています。

地域での取り組み	回答数	割合
全体	427	100.0
農林畜産業	61	14.3
商工業	10	2.3
観光	26	6.1
生活基盤(住宅・道路・交通等)	28	6.6
福祉	39	9.1
子育て	21	4.9
生活環境(環境・景観・防災等)	44	10.3
教育	16	3.7
文化	17	4.0
協働	12	2.8
コミュニティ	27	6.3
行政運営	15	3.5
無回答	170	39.8



(n=427)

ご自身や地域での取り組みについて、選択した「取り組みのジャンル」から普段ご自身で取り組んでいることや今後取り組んでみたいことについての自由意見について以下の通りとなっています。

ジャンル	自由回答
農林畜産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 農協の青壮年部に属している。やまびこカーニバルや土佐町産業文化祭等の催し事があるときには、焼き鳥等を焼いたりしている。農協の知名度を生かして、地域の活性化に役立つことを立案していきたいと思っている。</li> <li>• 農業 e t c、生計が出来る方向目ざして行く。次世代に渡して行く事。</li> <li>• 農林業の高齢化と耕作放棄地の進む中、地域の生活基盤をどうして行くか、大変な時が来たと思う。団塊世代の引退で後を継ぐ若者の人材も少なく、未来につなぐ夢が浮かばん、なにか目の前に光を見つけたい。</li> <li>• 若い人達が町内に残れる様に、働き場所を確保してほしいです。</li> <li>• スマート農業等、農業法人の設立</li> <li>• 持続可能な農業経営</li> <li>• 林業振興、山と自然、それから人の共生、人間の生活のあり方</li> <li>• 休耕地を利用した共同取組</li> <li>• 今後とも米作りに取り組み、田園風景を維持する。</li> <li>• 森林整備</li> <li>• 自家菜園を自家で消費。商品として出荷、加工品の製造をやってみたいが、製造、販売の知識がない。後継者が帰農するまでに期間が長いので、健康面に不安がある。</li> <li>• 心身健全に気をつけながら、若人の為に役立つ老人が多くなる事を望みます。</li> <li>• 耕作放棄地の防止。棚田を活用した果樹の栽培。集落の活性化を図るための花木（例：桜の苗木、花ももの苗木、けやきや紅葉樹の植栽など）の計画的な植樹。</li> <li>• おいしい米をいかに生産するか！</li> <li>• 畑で野菜を生産する。林業間伐。高齢化により、各地域での現道維持管理（草刈り、側溝そうじ）が難しくなっていると思います。協力し合い、助け合って、できればいいと思います。</li> <li>• 現在の農業の有り方ではとても駄目。作業方法、時間、経済的、成り立たない。体力、協働的町作り、楽しみ、お互いささえ合い、これは大事。考えないと農業はやがてつぶれます。</li> <li>• 地域の人達と一緒にやっていきたい</li> <li>• 営農</li> <li>• 農地の維持。地域行事への参加。道路の共同維持。</li> <li>• 徳島の上勝町の葉っぱビジネスのように、この地域の資源を生かして、地域の活性化につながるような取組をしてみたい。</li> <li>• できるだけ地元産の物を地域店等で購入し、利用する事により、外価の引き込みにつながる。地場での経済（現金等）の回転を良くする。</li> </ul>
商工業	<ul style="list-style-type: none"> <li>• もう少し、おしゃれな店ができたらいいかなあ。</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 登山道の整備をしてほしい。草刈りなど</li> <li>• 周りの人にきちんと良い所を伝えるために、積極的に観光地や食を自分で楽しむようにしている。夏にダムバナナボートやバランスボードなどをやってみたい。</li> <li>• 土佐町内の県道、町道、国道近くの滝を調査して、滝周辺を整備して駐車場やイスを置くと人來んかなあ？新緑、夏、紅葉、冬景いいなあ～！</li> <li>• 既存の宿泊施設なども活用し、インバウンドまでカバー可能な民泊を検討しています。</li> <li>• 土佐町を知ってもらう事（情報）で、産業（外価）につながると思う。</li> <li>• 土佐町は大豊、本山、田井に比べて特に目玉となるものがないと思う。強いて言えば早明浦</li> </ul>

ジャンル	自由回答
	<p>ダムかもしれないが、もっとPRすることができるのではないか。特に桜が咲く季節には展望台がきれいなのに、見る人はほとんどいないのはもったいないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域でのイベントには積極的に参加、土佐町には観光やイベントでまだまだアピールできる所がたくさんあると思います。</li> <li>• 早明浦ダムや棚田、アメガエリの滝など、観光資源はあるものの、土佐町自体の知名度が低く十分な宣伝ができていない。まずはその点を、自身のまわりから取り組みたい。</li> <li>• 福寿草まつり一薬師堂周辺の環境整備・桃公園の手入れ。</li> <li>• 観光について、土佐町ではあまり観光する場所がありません。田や空地を利用して、何かできないものかと思います。冬場は寒くて観光する人もいません。ダム以外に何かあればいいのにはと思います。花などは他の市町村に見に行く人もたくさんいると思います。冬の観光を何とかできないかな？と思います。</li> <li>• 町外から多くの方が美味しい食事目当てに来て下さるが、観光する所がないため、食べてすぐ帰る方がとても多い。何かもう少し滞在時間が長くなり、お金をおとして帰ってもらえれば、と思います。ツアーの受け入れなどを積極的に行っていきたいと思います。</li> <li>• 四国百山（本）にのっている笹ヶ峰ですが、本の中で道が悪いので気をつけて登ってくださいとあり残念です。汚名返上できないものか。</li> <li>• 土佐町の一番の魅力は安全、安心なところ。住むには良いが、観光はもうひとつ。将来的な人口減に対応するには、外から人を呼びしかない。非常に真面目なので、ちょっと遊び心があっても良いと思う。自分もその方面で模索中である。（今は守りの時期）</li> <li>• 県外の方だけでなく海外観光客も増えてほしいと感じるため、そのような活動に取り組んでみたい。</li> <li>• 次世代の意見、自分たちも家業である農業をしたいけど、町内に仕事（サラリー的）がない。それと新規就農者には、最初は給料もあり、仕事も地元であっせんしてくれるらしい。この差は何、自分たちも新規就農では？なぜ土佐町だけインフラ整備の負担金があるの、地区内の負担も、なぜ？移住者一家には優先的に家、職場、お祝い金があるの？</li> </ul>
生活基盤 （住宅・ 道路・交 通等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 高齢化になり、核家族の多い中、できるかぎり家で子供に迷惑をかけずに、自宅で安心してくらすたいと思う。元気で車も利用し、交通安全に注意していきたい。</li> <li>• 住宅：町営で田井より石原が高い料金何故！！20年超に成るが…若者の子育てが苦しい。 道路：東石原より地藏寺間の早期改良（R439）森林道の不足。地域の拠点に街灯及防犯カメラ設置（明るく住み良い町に）</li> <li>• 県道、町道、車の交通量にかかわらず、穴があいてる場所は、早めに修繕してもらいたい。</li> <li>• 高齢者になると車の運転も出来なくなる。そうなると山間部の高齢者は公共の交通機関が必要となるし、病院への通院も問題になってくると悩むこの頃である。</li> <li>• まだまだ空き家になっている住宅があるので、それをなくすために土佐町に興味ある人達を集めて、1軒でも空き家をなくしていきたいと思っています。</li> </ul>
福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 国民健康保険が高額</li> <li>• 福祉のまちづくりを推進している土佐町の取り組みは、とても素晴らしいと思います。自分もボランティアなどに積極的に取り組んでみたいと思います。福祉のまちづくりというスローガンの中で、もう少し、福祉に携わる人材の確保、啓発活動、サービスの充実があれば良いと思います。福祉の分野だけではなく、色々な分野の行事や、自分の生活（仕事をふくめ）を通して、土佐町の活性化の力になりたいと思います。</li> <li>• 取り組んでいることは特にありません。（土佐町に永住しているわけでもないのでも。）また、このアンケートの意図が分かりません。これだけの項目全てに手をまわすことも、予算および、人員の数からして難しいと思うからです。まずは、地域（高齢社会）になるのは分かっ</li> </ul>

ジャンル	自由回答
	<p>ていることです。そのため、子供および人材の育成に力をいれつつ、高齢者の方も住みやすい環境を整えていくべきだと考えています。そのため、事業のなんとやら、町のPRは二次でかまわないと考えます。期待しています。以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 高齢化が進み、近所の方もほぼ高齢者一人住いが増えて来ている中、自分自身も齢を重ね、いざという時、災害時、又、自分が病気になったときにどうすれば良いのか、自分の子どもも県外に出、近所の方と助け合いながらの生活を、どうあるべきか不安でもあり、地区で取り組むことが必要かと思えます。</li> <li>• 人口も減少しつつ、先細りの状況でさみしいと思う。土佐町を活性化するために、みんなで研究し合い、これからの町づくりをいかに推進していくか、課題だ。</li> <li>• 現在、地域の活動にはほとんど参加できていません（勤めに出ている為）今後、時間があれば、何か活動に参加していきたいと思っています。</li> <li>• 自宅近くの高齢者の方や、そのご家族と話す機会が多いが、少し離れると同じ地区でも会う事が少なくなるため、年に何回か集まる地区集会や掃除、イベントの機会を皆さんが大切にしている。私も維持できるようサポートして受け継いでいきたいです。</li> </ul>
子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ファミリーサポートセンターの設立</li> <li>• 自然環境を生かした子育て。オーガニック給食の推進。子供たちと畑をたがやし、野菜をつくり、食べ物はどこからきているのか、どのようにつくられているのかを教えたい。</li> <li>• 地元商品</li> <li>• 共働きの家庭が多いが、病気になった時、子供を看てくれる所がない。保育園、学校に病気の子供を看てくれる場所があれば良いと思う。退職後の人達が、そんな場所を作れば良いと思う。私も参加したいと思う。</li> <li>• 車の免許の返納＝車の便＝バスが通らない</li> <li>• 忙しい母親の手助けとして、手のあいたときの守り。病後保育など、おせっかいばあさんになってみたい。</li> <li>• まだ子供が小さいので、地域や教育機関などとのコミュニケーション・連携しながら、豊かな自然の中で、のびのびと成長、自立・自律していけるようにサポートしたい。</li> <li>• 学校行事への参加</li> <li>• 子供の交流の場に行く。</li> </ul>
生活環境 (環境・ 景観・防 災等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ジョギング中に、両手にひとつずつ、ゴミをひろって帰る。</li> <li>• 谷川の流石で暗漂の入口に積んでは流れを繰り返しているところあり、大降り時は1m程の急流となり、詰まれば大変、堤が10m位あります。</li> <li>• 学校行事に参加する事は無くなったが、昔と考え方も違ってくると思うが、何を学ばせたいのか、保護者が決める事であっても、教育って何なんだろうって考えさせられるので、地域の子どもには挨拶だったり、年中行事等（防災）一緒にやっていけたらいいなと思う。</li> <li>• 自主防を主体とした地区防災計画の検討・策定。</li> <li>• 地球温暖化による洪水や山林の崩壊対策として、保水力のある森林（山）を育てることが必要だと思うが、現状は植林された山には低木、下草がなく「死んだ山」がほとんどだと思われる。生きた、管理された山林を育てる活動に参加したいと思っている。</li> <li>• 地域性を生かした、生き生きとした。町づくり、人づくりをより前向きに進める。現風景を生かした。町づくりを</li> <li>• 環境、衛生、美化</li> <li>• 自宅の田や畑を荒らさないように耕作、草刈りをしている。町道、林道の手入れ見回りをしている。</li> <li>• 災害対策レベルを上げて、先進的に取り組んで下さると安心して生活できると思います。個</li> </ul>

ジャンル	自由回答
	<p>人での努力（備蓄等）もしていますが、限界があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 今でもまだ投げ捨てるペットボトルやビニール袋等を見かけます。皆んなで美観を心がけたいと思います。</li> <li>• 生活環境が整えば、幸福度は増すと思うから</li> <li>• 環境美化</li> <li>• この年になるまで、自分の生活に追われ、地域に貢献する事など殆どしていませんので、よくわからない事だらけです。でも高齢化で環境がみるみる変わってきたのはわかります。田や山が荒れれば、洪水等の災害、労働力不足、介護問題、土佐町だけでなく、日本中の問題です。どうしたら…何が出来るんだろう…と思うだけで…。</li> <li>• 地域の発展の為、何が出来るか考えていく</li> <li>• 家の廻りの清掃など</li> <li>• 自分で身近な所からきれいにしていくこと。</li> <li>• 身近な所からチェックしてみたい。</li> </ul>
教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 歴史やお金に関する教育の場</li> <li>• 課外学習</li> <li>• 学校応援団で、時おり小中の生徒さん達と調理実習をしています。皆さん素直で挨拶も良くできます。先生方の日頃の御指導のたまものと思います。人作りの大切さを改めて感じます。今後も一緒に楽しく実習をしてゆきたいと思います。</li> <li>• 高齢者向け健康教育：医療制度を適切に活用し、自助・協助（セルフケア）の総合的な健康寿命アップのための努力。ヨガの普及。</li> </ul>
文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 趣味で、楽器（ギター）をしている。発表の場があれば、嬉しい。</li> <li>• 月1回短歌会を開催し、短歌に興味を持っている人達の教養を深めています。</li> <li>• 土佐町の文化に興味がある。歴史的・文化的なものについて知りたいと思う。</li> <li>• 年齢的に自分自身の素直な声に耳を傾け、やりたいことを行動に起こしていきたいと思っています。現在は、趣味を通じて新たな交流ができ、その中で協力できることはお手伝いしたい。人生100年なら、まだまだ時間があるので研鑽を積みみたいと思います。</li> <li>• 幹勇館での講演や、サークルに参加していること。食改で、地域（つどい）への料理を提供していること。</li> <li>• 文化振興のイベントに取り組んでみたい。</li> <li>• 芝居や人形劇、ミュージカル等、人から人へ伝えるものには、心を動かされます。こども劇場はそのひとつになります。今後も、このような文化活動が浸透していけるような町づくり（人づくり）に期待します。</li> <li>• 図書館で今後勤めたいと思っています。今はパートで、今後も同じになると思いますが、全ての町民の皆様が活字に親しんでもらえるよう、努力したいと思っています。また、私は障害者でもあるので、その点で雇用してもらえる場所が増えていけば良いと思っています。</li> </ul>
協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 高齢のため近所の方々の第一の助けが必要で、助けて頂きたいと思う今日この頃</li> <li>• 現在、今後取り組みたいが、高齢者（要介護）を多くかかえていると、難しい。（老々介護）</li> </ul>
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スーパーや病院以外に、地域の住人（老若男女）が気軽に集える場所、高齢者の方が誰かの役に立っていると実感できることができる場所、そこに行けば誰かと話しができる場所、そんな場所作り。</li> <li>• 高齢者の集いの場を設け、健康体操や茶話会等行っている。参加者を増やし、高齢者の孤独感を防ぐようにしたい。</li> <li>• 土佐町内のコミュニティが徐々に減少している。これは、これまでコミュニティを形成してきた人たちが高齢化した事と共に、若者の参画者、リーダーが育っていない事もある。子ども</li> </ul>



ジャンル	自由回答
	<p>も・若者・中高年までの住民が積極的に参加できるコミュニティの形成と、リーダーの育成に寄与していきたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と集まり、会話を楽しむ場所、個々に培ってきた地域の方達と、知恵と技術の交流をすることで、刺激を受け、日々楽しく過ごして行きたい。</li> <li>・地域が元気で明るい中で、仲よく暮らせるように</li> <li>・農業で重労働である草刈（高令化）に良い方法（機械などに補助金など）があれば助かる。</li> <li>・第一は人に迷惑をかけない様に生活していくこと。そして（人口が少ない分、求められる事が多いですが）プレッシャーとまらない範囲で貢献できることをしていきたいと思っています。</li> <li>・八十路に入り十分な御答が出来ず申し訳なく思っています。医療費他、町に迷惑をかけない様、健康に気を付け日々過ごしています。若い人達の計画、集会所で10日に1度体操後、和気あいあい楽しく一時を過ごすのが唯一の楽しみです。</li> <li>・地域での行事、イベント、土佐町のイベントに参加しています。頑張っていますが、年と共に行動力が鈍くなってきた様な！商品開発したいですが、ヒント、指導してもらいたい。頑張れる時間は（年齢は）限られてきている。後継者とかは、生活スタイルが違うので、無理だと思えます。</li> <li>・今後、高齢化に伴い、人口も減少傾向になってきている。そこで、地域コミュニティを地域単位で作り上げ、共に支え合える地域づくりが今後より一層必要だと思う。</li> <li>・私共の地区は、子供が居ないので、老人たちを集会所に呼んで、健康ゲームを活用して、お年寄り（自分も含めて）の認知症の予防や、人と人とのつながり、チームづくりでの世代を超えた社会参加を目ざしたい。とりあえずは、古いゲームやオセロなどで皆さんを集めたいと思う。</li> <li>・地域を元気にするため、話し合いを行っており、今後実践につなげていく。</li> </ul>
行政運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老いてから車にのれなくなったことを考えたら不安。年々動物の被害が多くなり、山の農業はになりつつあります。植林が多くなった事が原因だと思います。雑木林を多くし自然の山にすれば…</li> <li>・移住の方のみに力を入れずに、もっと低所得者の方々の生活援助等に行政運営している方々に声を大にして言ってって行きたいです（障害者の方も含む）</li> <li>・役場の男性職員よ、しっかりせよ。土佐町をより良き土佐町に引っぱって行く職員が、どれだけいるか心配です。しっかりやっていただきたい。もう少し地に付いた行政をやってもらいたい。他の地域へ勉強に行って、いつまでもぬる湯につかっているのはだめ</li> <li>・移住者をふやし、人口減少に歯止めをかける。子育てしやすい、町づくりをめざす。よそ者、若者、ばか者によって、新しい町づくりの発想を期待したい。</li> <li>・教育関係＝とても重要なことだと考えます。問題をあぶり出し、責任の所在を明らかにし、責任をとる、行政のあり方であってほしい。ワンマンし過ぎるか？若い職員に活気がない。再考を願います。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありきたりのアンケートで予算を使うより、もっと住民目線に立つべき。このアンケート用式だと、ばくぜんとした意識アンケートだ。もっと地元のを、役場で活躍出来るように！移住者ばかりで、中身がない。もっと指導力のある人をトップにする事が急務だ。今の町長には、土佐町の良さがわかっていない。このままではダメ！！町出身の若い人を、もっと土佐町に！！学歴にとらわれた、行政は先が見えている。町長のやりたい事が見えない！！という事は、何の策もないという事でしょう！</li> </ul>

### 3 データでみる土佐町

#### 1 人口に関するデータ

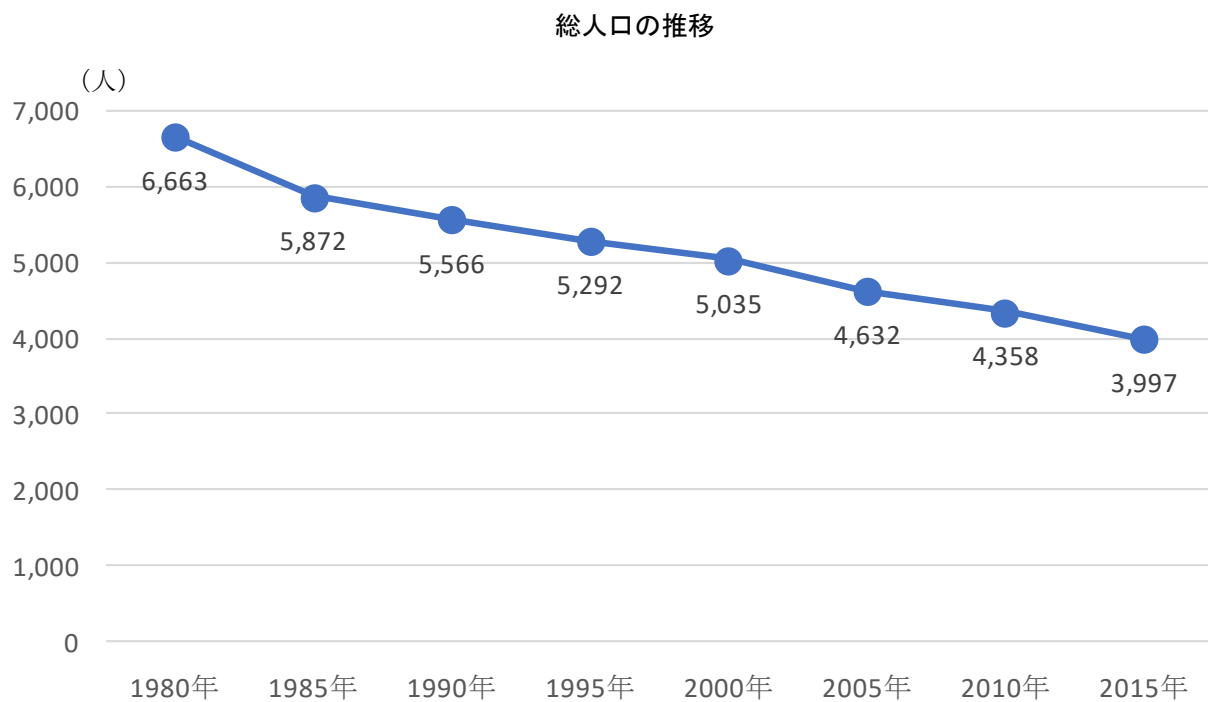
##### (1) 人口と世帯

###### (ア) 総人口の推移

下記のグラフは、土佐町の総人口の推移を示したものとなっています。

人口の推移をみると、1980年にはすでに人口減少の局面にはいっていたことがわかります。2005年には5,000人を切り、2015年には4,000人を切り、2020年に行われる国勢調査では、さらに人口減少が進んでいくものと予想されます。

2015年に行われた国勢調査では3,997人となっていますが、1980年の6,663人と比べて、約40%の減少となっています。



資料：国勢調査

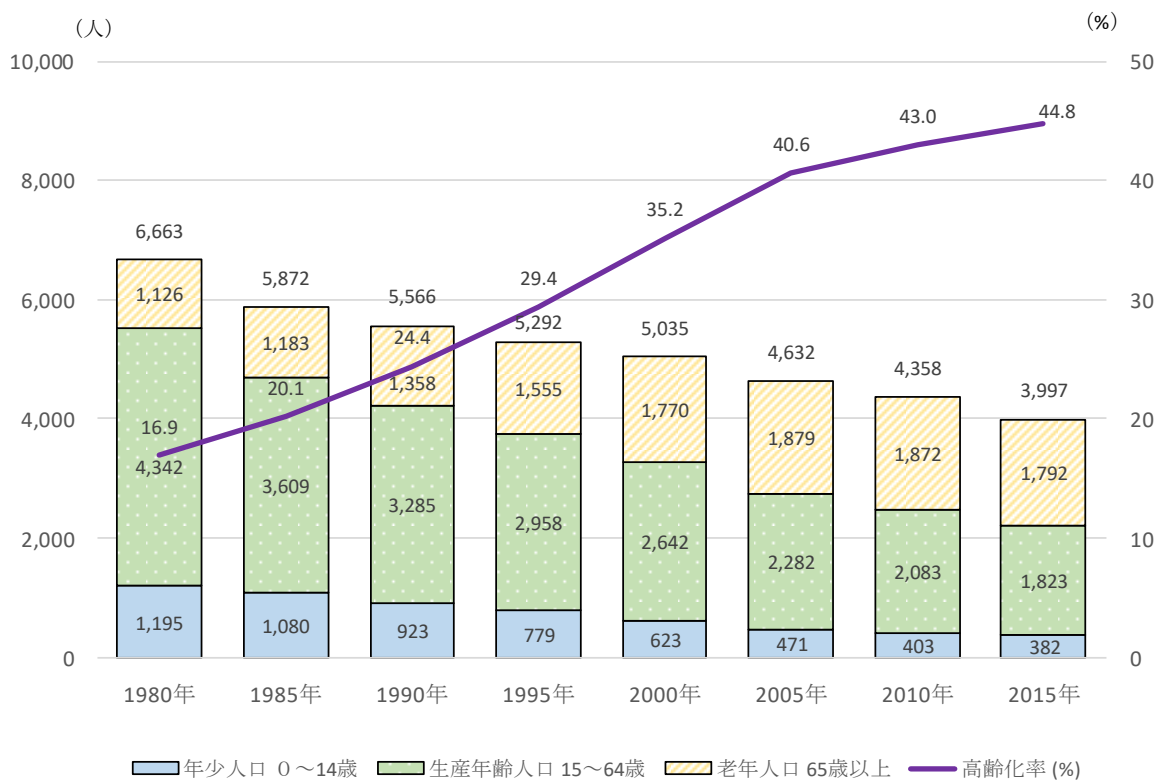
### (イ) 年齢3区分別人口と高齢化率の推移

年齢3区分別人口をみると、生産年齢人口（15～64歳）は1980年以降一貫して減少傾向にあります。2015年には1,823人となり、1980年から30年間で約58%の減少となりました。年少人口（0～14歳）についても同様に、2015年では382人と減少が緩やかになっています。

年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）が年々減少する一方で、老年人口（65歳以上）は増加しています。1985年には老年人口が年少人口を上回り、2015年には、老年人口が年少人口の約4.7倍となっています。

また、高齢化率も1980年の16.9%から年々上昇しており、1990年には超高齢化社会へと突入しています。2015年には44.8%となっていますが、これは生産年齢人口約1.2人で1人の老年人口を支えるという計算になります。

年齢3区分別人口及び高齢化率の推移



資料：国勢調査

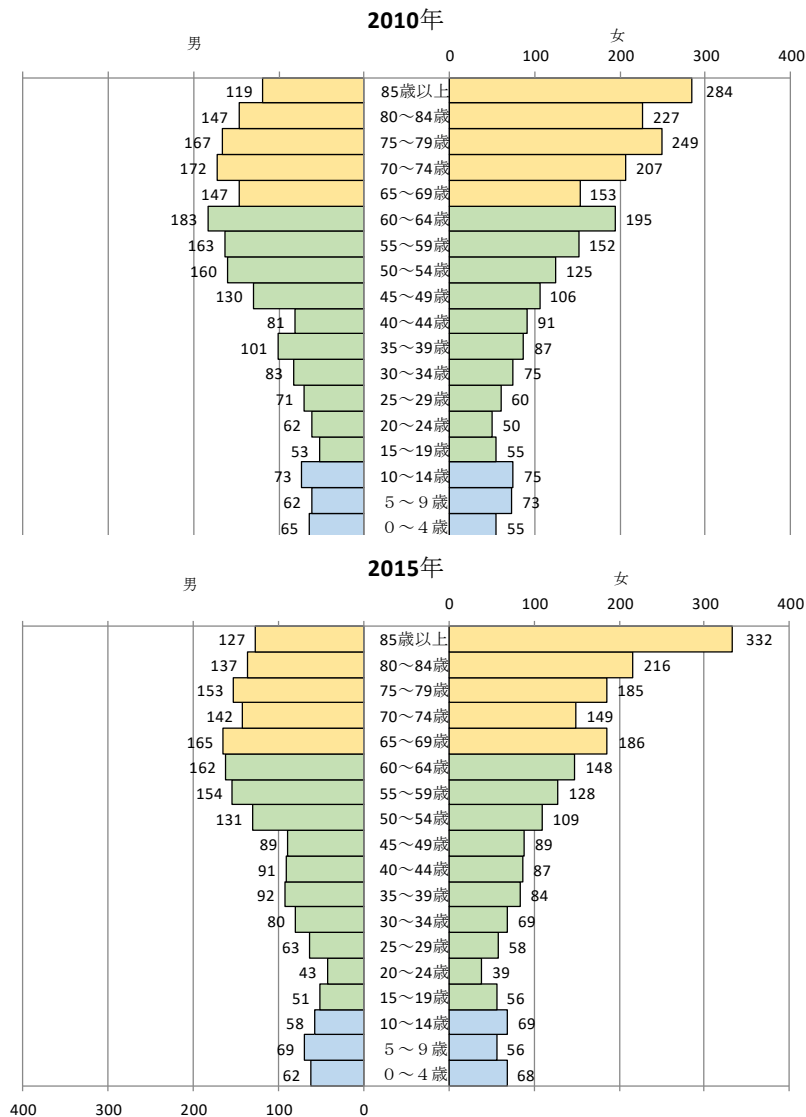
### (ウ) 年齢5歳階級別人口ピラミッドの推移

2010年から2015年までの5歳階級別人口ピラミッドの推移をみると、一定の人口規模を持つ団塊世代が65歳以上に転じることから、生産年齢人口の減少が著しく進んでいることがみられ、ピラミッドの形の「つぼ型」（少産少死型：年少人口が少なく、老年人口の多い型）が顕著にみられます。

一方、年少人口では、0～4歳の女性、5～9歳の男性では人口増が子育て世代の転入や子どもの出生数の増加がみられます。

85歳以上は、2015年で300人を超えており、2020年の国勢調査では、さらに急激な高齢化率の上昇が予想されます。

年齢5歳階級別人口ピラミッドの推移



出典：国勢調査

## (2) 人口の自然増減

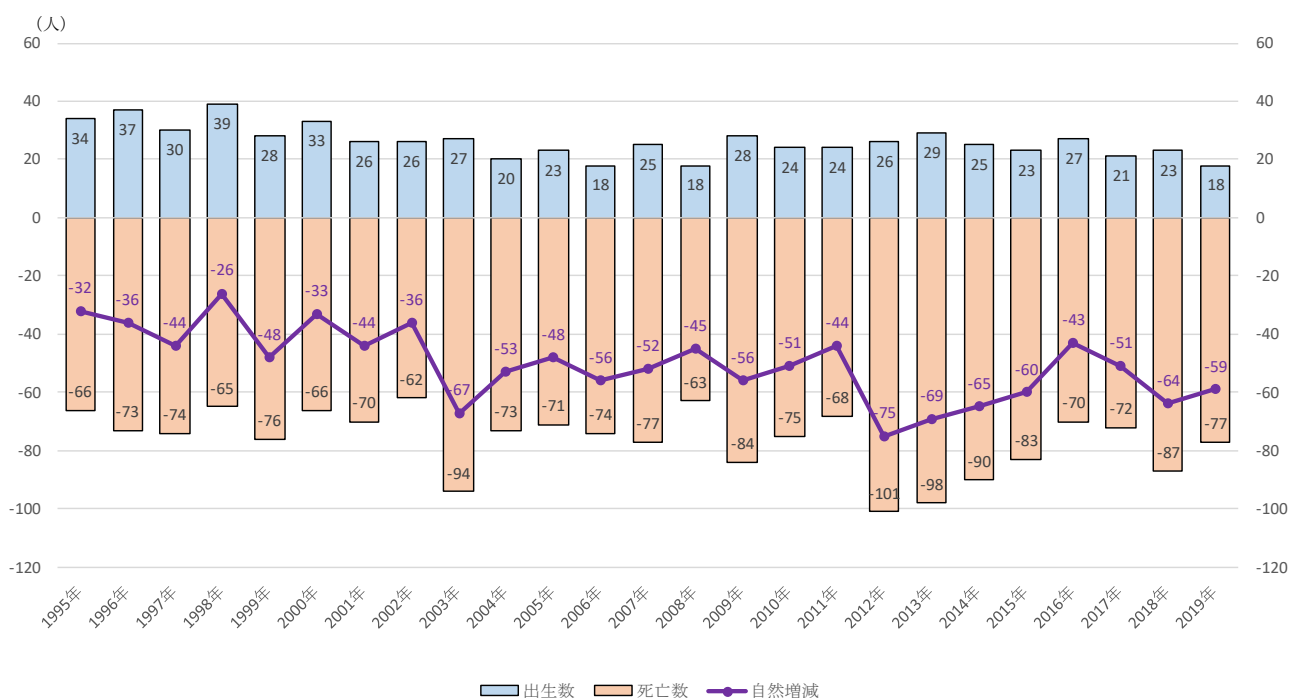
### (ア) 自然増減（出生及び死亡）の推移

本町の平成7（1995）年以降の出生数の推移をみると、平成7年（1995）年以降は常に50人以下となっています。出生数に大きな変動はなく、毎年一定して20人から30人程度となっています

死亡数は1995年から2019年まで、70人から90人程度を変動しており、2012年の102をピークに減少傾向になっています。

自然増減（出生数マイナス死亡数）の推移をみると、平成7（1995）年以降、一貫して自然減となっています。死亡数の増加に伴い、徐々に減少幅が大きくなる傾向がありますが、今後も高齢化と少子化による自然減がより進行していくと考えられます。

出生数、死亡数及び自然増減の推移



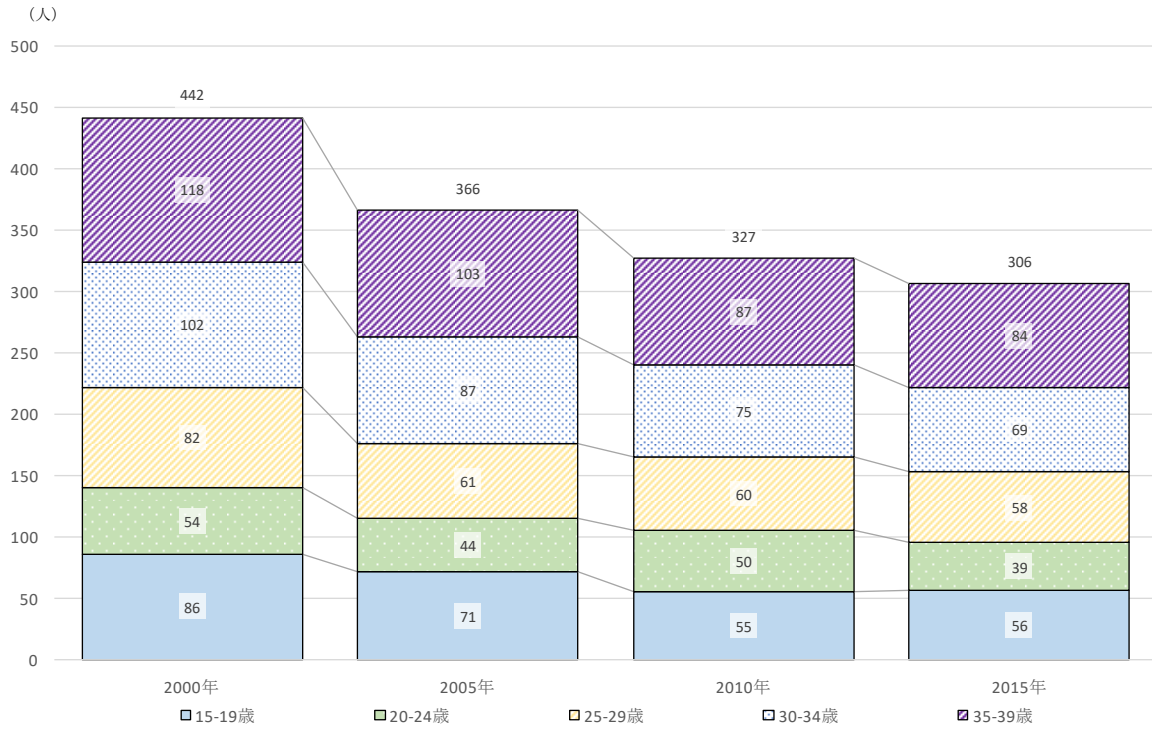
出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（各年3月31日時点）

※平成25年以降は各年1月1日時点

### (イ) 15歳～39歳女性人口の推移

15歳から39歳までの女性の人口をみると、2000年には442人から減少傾向で、2015年には306人まで減少しています。

15歳～39歳女性人口の推移



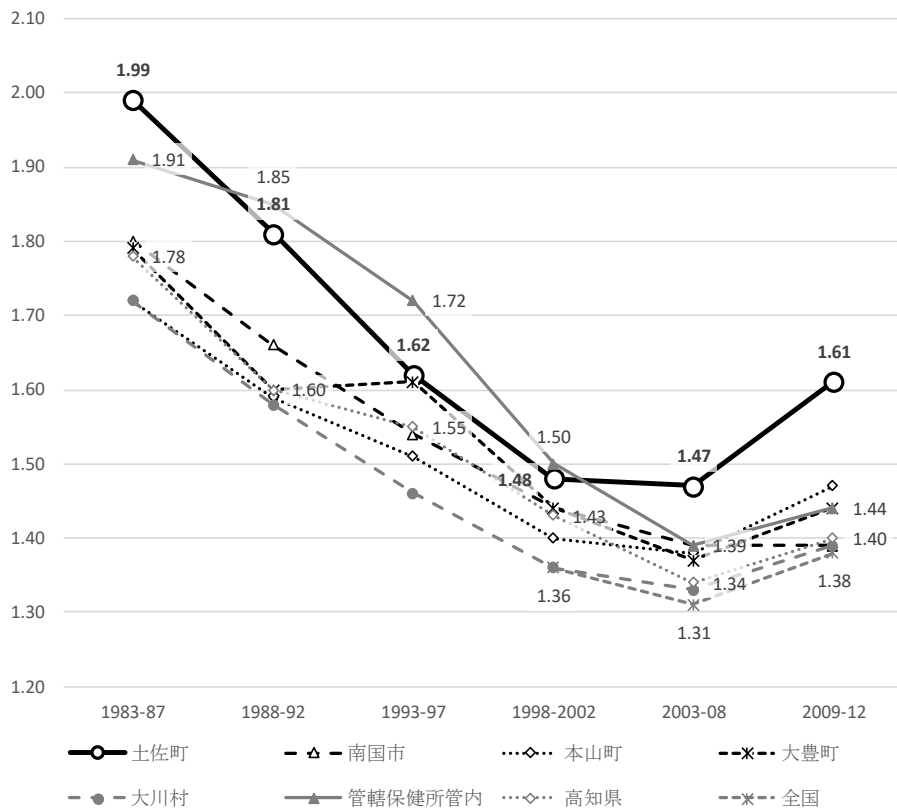
出典：国勢調査

### (ウ) 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率の動向としては、全国、高知県、近隣市町村いずれも2003年～2008年を底として上昇に転じているが、土佐町の上昇幅は他よりも大きくなっています。このため2009年～2012年の数値は、本町を含む管轄保健所管内で最も高くなっています。

合計特殊出生率の推移

	1983-87	1988-92	1993-97	1998-2002	2003-08	2009-12
<b>土佐町</b>	<b>1.99</b>	<b>1.81</b>	<b>1.62</b>	<b>1.48</b>	<b>1.47</b>	<b>1.61</b>
南国市	1.80	1.66	1.54	1.44	1.39	1.39
香南市	-	-	-	-	1.39	1.52
赤岡町	1.69	1.63	1.50	1.43		
香我美町	1.75	1.58	1.51	1.42		
野市町	1.76	1.66	1.66	1.50		
夜須町	1.73	1.54	1.48	1.39		
吉川村	1.71	1.53	1.46	1.43		
香美市	-	-	-	-	1.35	1.38
土佐山田町	1.68	1.54	1.56	1.35		
香北町	1.78	1.53	1.44	1.36		
物部村	1.80	1.58	1.59	1.42		
本山町	1.72	1.59	1.51	1.40	1.38	1.47
大豊町	1.79	1.60	1.61	1.44	1.37	1.44
大川村	1.72	1.58	1.46	1.36	1.33	1.39
いの町	-	-	-	-	1.37	1.30
本川村	1.71	1.56	1.54	1.39		
吾北村	1.83	1.69	1.61	1.48		
伊野町	1.82	1.57	1.52	1.33		
管轄保健所管内	1.91	1.85	1.72	1.50	1.39	1.44
高知県	1.78	1.60	1.55	1.43	1.34	1.40
全国				1.36	1.31	1.38
管轄保健所	本山	本山	本山	中央東	中央東	中央東



出典：厚生労働省 人口動態統計

### (3) 人口の社会増減

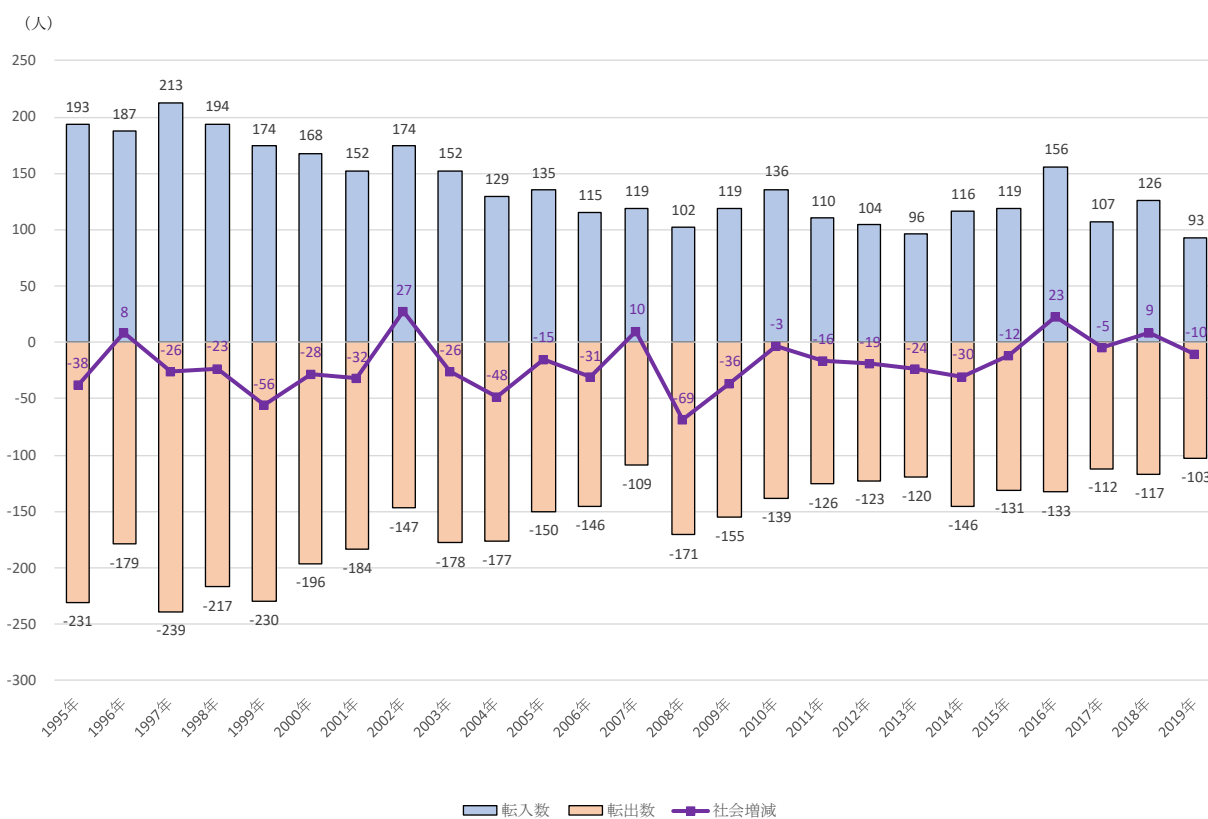
#### (ア) 社会増減（転入・転出）の推移

本町の転入数は、1995 年ごろには 200 人程度で、2006 年ごろには 100 人程度まで減少し、2013 年には 100 人を切りましたが、その後、多少上下しながら増加傾向がみられましたが、2019 年では 93 人と 100 人を切っている状況です。

転出数は、1995 年以降変動はあるものの、減少傾向にあり、2019 年では 103 人と 100 人程度の転出数となっています。

社会増減は、2013 年までほぼ社会減でしたが、2016 年に社会増に転じ、以降変動はあるものの、縮小傾向にあります。

転入数、転出数及び社会増減の推移（土佐町）



出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（各年 3 月 31 日時点）  
 ※平成 25 年以降は各年 1 月 1 日時点

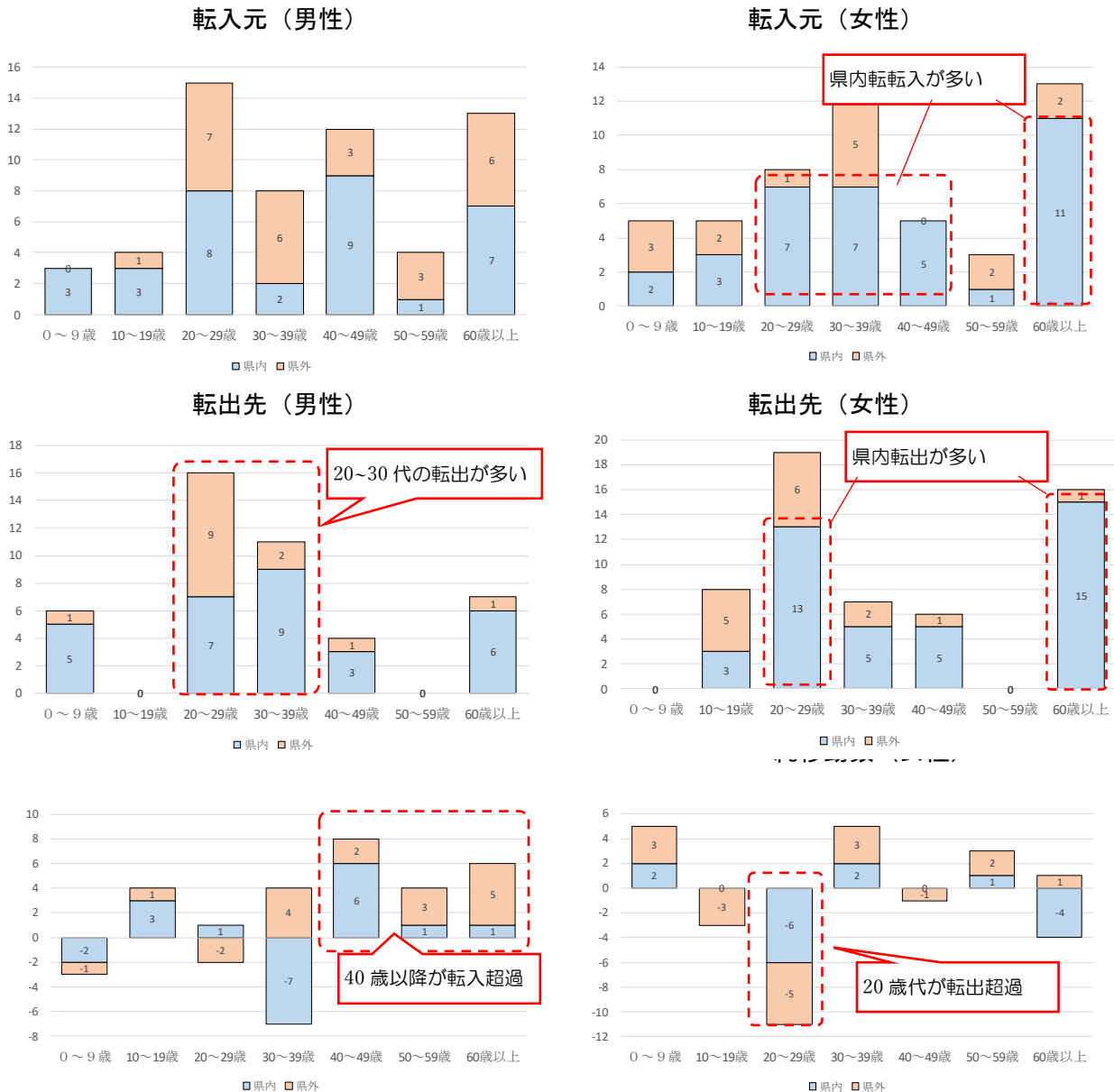


## (イ) 男女別の人口移動

平成 29 年の男女別の人口移動をみると、男性は 30～39 歳の県内転出超過で、県外からの転入が多くみられます。女性は、いずれも県内からの転入、転出が多くみられ、全体では 20 歳代の転出超過が顕著にみられます。

また、0～9 歳女性、30～39 歳女性、40 歳以降の男性が転入超過であることから、ファミリー層が土佐町へ転入した傾向がみられます。

男女別の人口移動（平成 29 年）

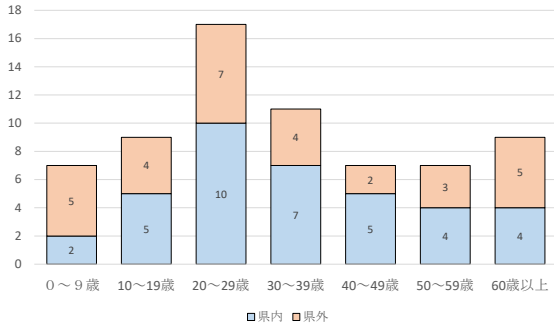


出典：住民基本台帳人口移動報告（平成 29 年）

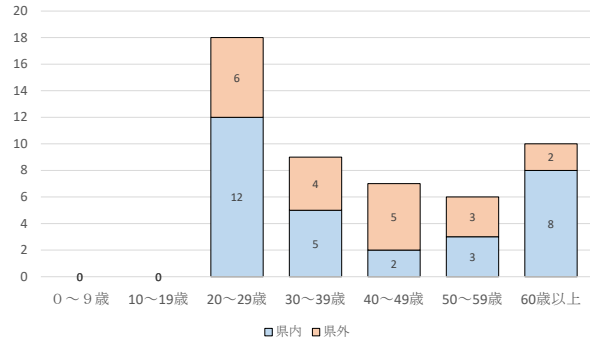
平成 30 年の男女別の人口移動をみると、男性では 20 代の人口移動が多い上、転出超過となつてい  
ます。女性も 20～30 代の人口移動が多くみられ、20 代は県外への転出が多く、30 代は県内転出が  
多くみられます。

### 男女別の人口移動（平成 30 年）

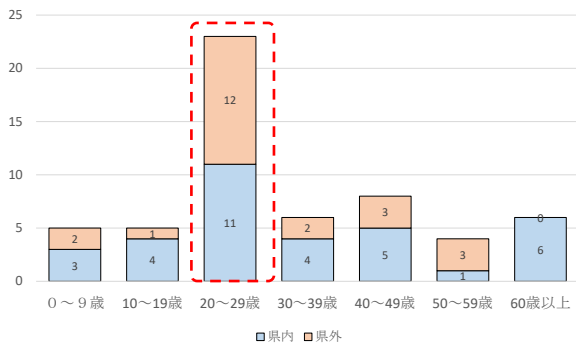
転入元（男性）



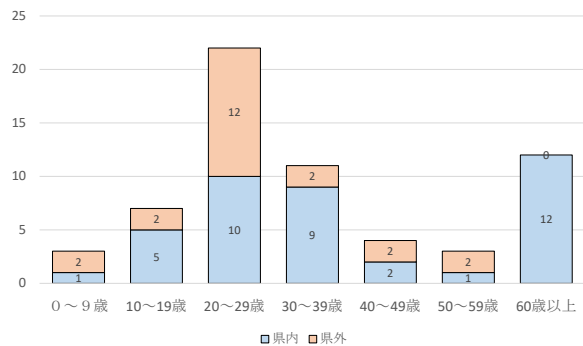
転入元（女性）



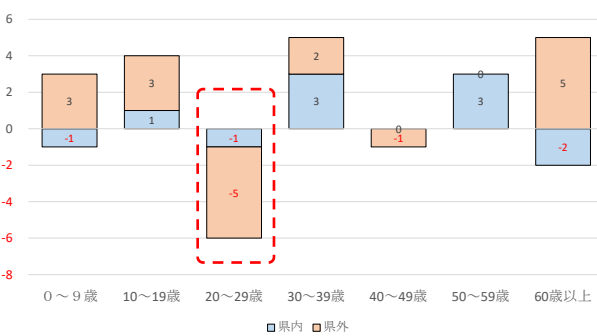
転出先（男性）



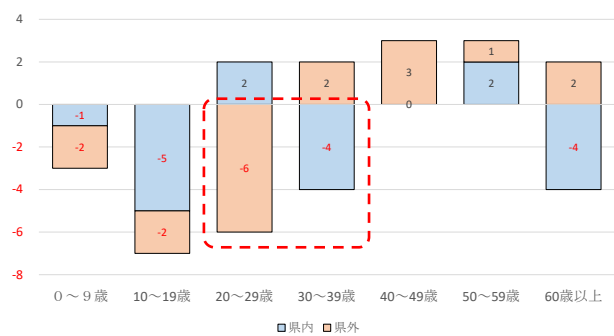
転出先（女性）



純移動数（男性）



純移動数（女性）

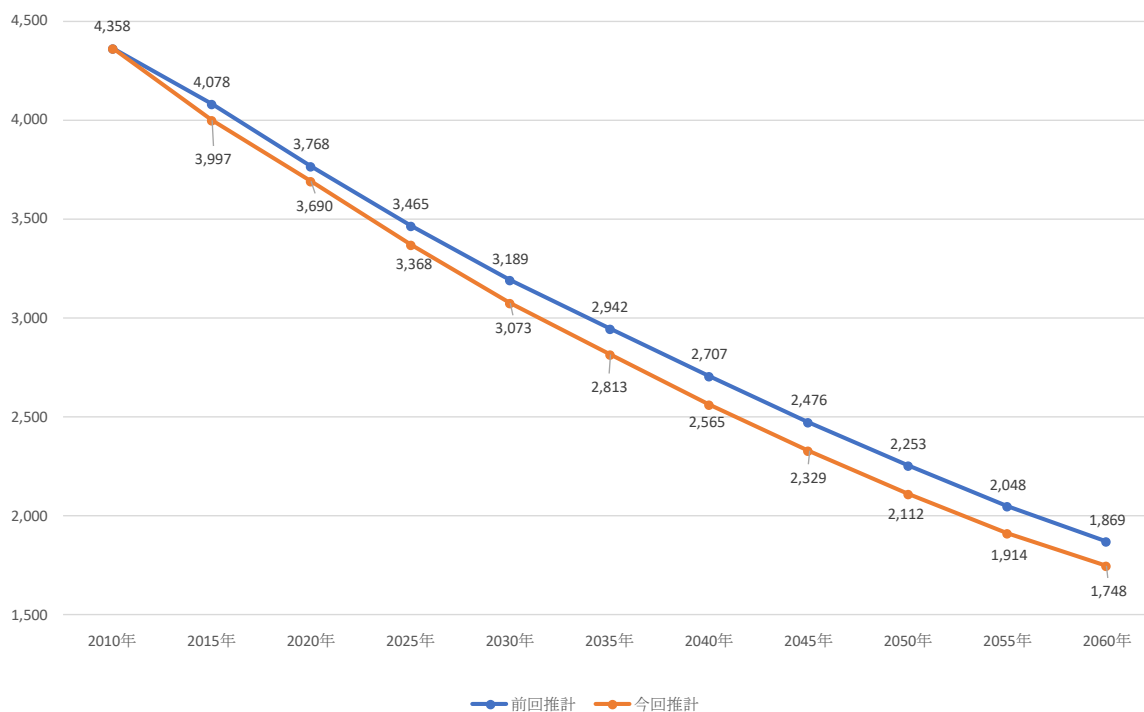


出典：住民基本台帳人口移動報告（平成 30 年）

## (4) 将来人口推計

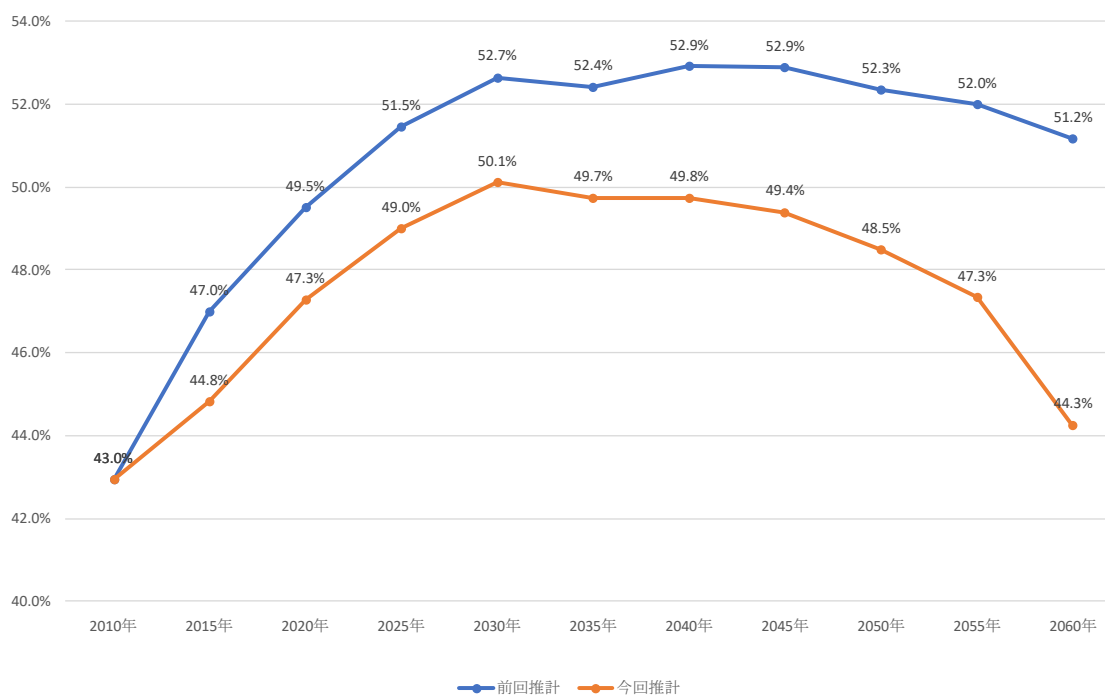
国立社会保障・人口問題研究所の人口推計では、前回推計値と比較すると、人口減少の傾向が大きくなっており、2060年では、前回推計では1869人に比べ今回推計では1748人となっています。

人口推計（前回推計と今回推計の比較）



一方で、高齢化率の推計をみると、今回推計では、2030年に50.1%とピークを達した後、2060年では、44.3%と前回推計と比べ、高齢化率が減少している結果となっています。

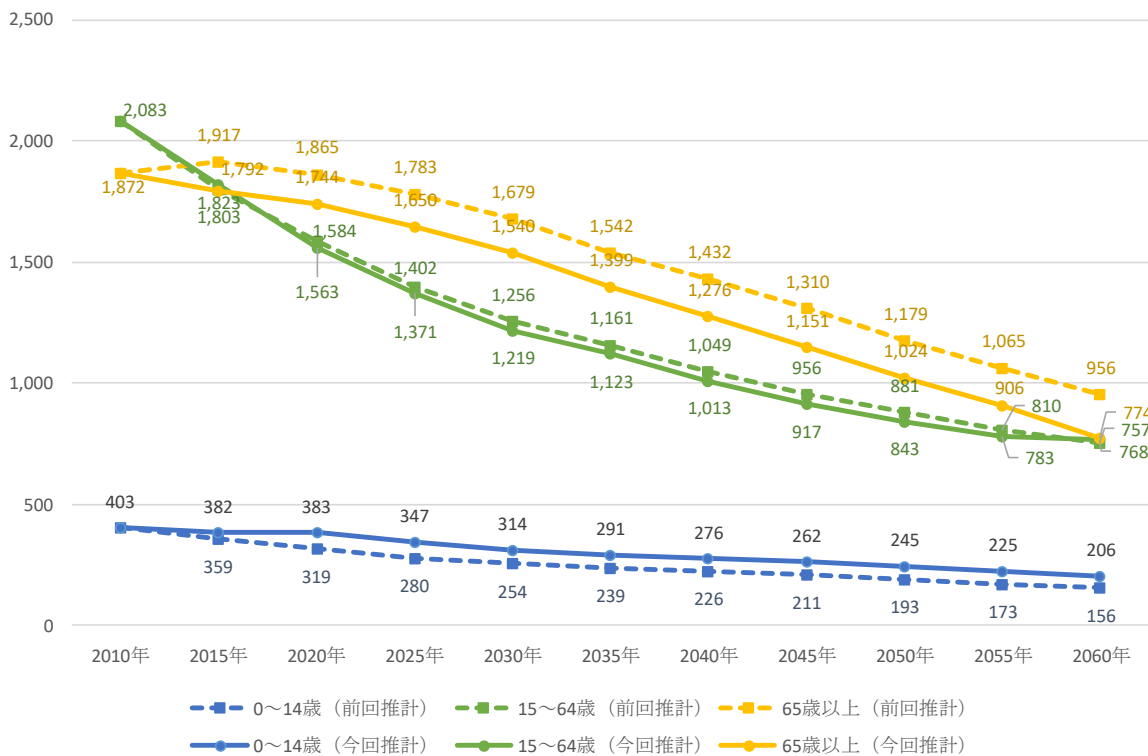
高齢化率推計（前回推計と今回推計の比較）



出典：国立社会保障・人口問題研究所

年齢3区分別の推計を比較すると、老年人口（65歳以上）の減少がみられ、2060年では前回推計では956人に対し、今回推計では774人となっています。また、生産年齢人口は、前回推計よりも減少傾向にあります。2060年には前回推計757人に対し、今回推計では768人と微増に転じています。また、年少人口は、前回推計と比較し増加傾向にあり、2060年には前回推計が156人に対し今回推計では206人となっています。

年齢3区分別推計比較



また、2015年から20年後、2035年の人口推移をみると、総人口は29.5%減少しており、年齢3区分別では、生産年齢人口（15～65歳）の減少率が最も高く38.4%となっています。

そのうち5歳階級別でみると、40～44歳の減少率が最も高く60.1%となっています。

老年人口では、85歳以上が増加しており、増加率は13.0%、また、65～69歳の減少率が最も高く52.4%となっています。

	2015年	2035年	増減率
総数	3,997	2,813	-29.6%
0～4歳	130	92	-29.2%
5～9歳	125	101	-19.1%
10～14歳	127	97	-23.3%
15～19歳	107	81	-24.7%
20～24歳	82	69	-15.9%
25～29歳	121	79	-34.9%
30～34歳	149	102	-31.3%
35～39歳	176	119	-32.6%
40～44歳	178	71	-60.1%
45～49歳	178	120	-32.3%
50～54歳	240	140	-41.5%
55～59歳	282	165	-41.6%
60～64歳	310	177	-43.0%
65～69歳	351	167	-52.4%
70～74歳	291	226	-22.5%
75～79歳	338	235	-30.6%
80～84歳	353	253	-28.3%
85歳以上	459	519	13.0%
0～14歳	382	291	-23.9%
15～64歳	1,823	1,123	-38.4%
65歳以上	1,792	1,399	-21.9%
75歳以上	1,150	1,006	-12.5%

出典：国立社会保障・人口問題研究所

## 2 産業に関するデータ

### (1) 産業別就業人口

#### (ア) 性別産業大分類別就業者数の比較

平成17年と平成22年、平成27年の産業分類別就業者数を比較し、雇用状況をみると、就業者数は平成17年から平成22年で188人、平成22年から平成27年で100人減少しています。

前回の平成17年から平成22年の変化と平成22年から平成27年の変化を比較すると、全体的に減少幅は少なくなっており、農業、建設業、卸売・小売業、教育を中心に回復傾向にあります。一方で、林業、運輸・情報通信業、医療・福祉については、減少幅が大きくなっている状況です。

産業大分類別就業者数の変化

	総数			男			女		
	平成17年	22年	27年	平成17年	22年	27年	平成17年	22年	27年
総数	2,264	2,076	1,976	1,267	1,152	1,076	997	924	900
農業	488	427	409	274	261	257	214	166	152
林業	92	99	79	82	89	70	10	10	9
漁業	5	5	3	3	3	1	2	2	2
鉱業	4	2	3	4	1	3	0	1	0
建設業	307	218	181	266	193	160	41	25	21
製造業	179	167	163	104	99	94	75	68	69
電気・ガス・熱供給・水道業	12	9	11	10	9	11	2	0	0
運輸・情報通信業（22年から郵便含む）	62	83	64	54	73	56	8	10	8
卸売・小売業	303	262	254	120	109	100	183	153	154
金融・保険業	20	24	26	6	5	5	14	19	21
飲食店・宿泊業	55	66	57	12	9	13	43	57	44
医療・福祉	252	288	299	52	59	66	200	229	233
教育、学習支援業	50	41	47	12	9	10	38	32	37
複合サービス業（22年から郵便除く）	106	62	67	71	37	43	35	25	24
サービス業（他に分類されないもの）	207	195	179	120	119	108	87	76	71
公務（他に分類されないもの）	120	118	109	75	74	63	45	44	46
分類不能の産業	2	10	25	2	3	16	0	7	9

増減数

	総数		男		女	
	平成17年 →22年	22年 →27年	平成17年 →22年	22年 →27年	平成17年 →22年	22年 →27年
総数	-188	-100	-115	-76	-73	-24
農業	-61	-18	-13	-4	-48	-14
林業	7	-20	7	-19	0	-1
漁業	0	-2	0	-2	0	0
鉱業	-2	1	-3	2	1	-1
建設業	-89	-37	-73	-33	-16	-4
製造業	-12	-4	-5	-5	-7	1
電気・ガス・熱供給・水道業	-3	2	-1	2	-2	0
運輸・情報通信業（22年から郵便含む）	21	-19	19	-17	2	-2
卸売・小売業	-41	-8	-11	-9	-30	1
金融・保険業	4	2	-1	0	5	2
飲食店・宿泊業	11	-9	-3	4	14	-13
医療・福祉	36	11	7	7	29	4
教育、学習支援業	-9	6	-3	1	-6	5
複合サービス業（22年から郵便除く）	-44	5	-34	6	-10	-1
サービス業（他に分類されないもの）	-12	-16	-1	-11	-11	-5
公務（他に分類されないもの）	-2	-9	-1	-11	-1	2
分類不能の産業	8	15	1	13	7	2

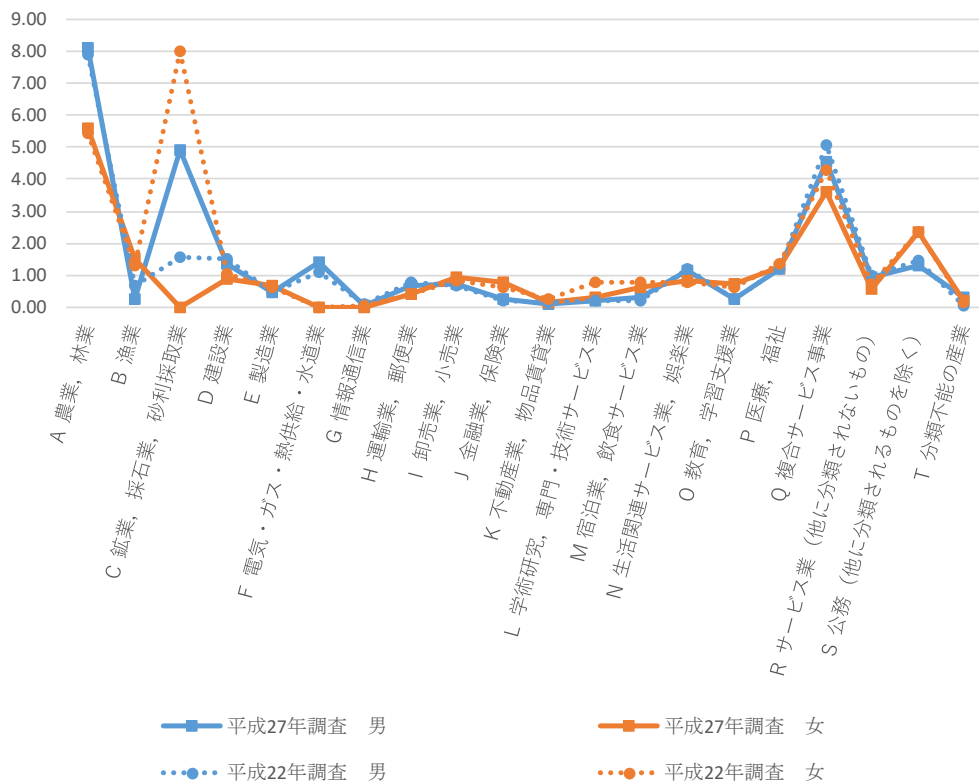
出典：平成27年国勢調査

## (イ) 産業別特化係数

産業別特化係数を男女別にみると、男性では、「農業、林業」が7.04で最も高く、次いで「複合サービス業」「鉱業、採石業、砂利採取業」などと続きます。女性では、「鉱業、採石業、砂利採取業」が最も高く、次いで「合サービス業」「公務（他に分類されないもの）」などと続いています。

土佐町の産業別特化係数

	対全国比産業別特化係数【土佐町】			平成22年調査	
	総数	男	女	男	女
A 農業、林業	7.04	8.10	5.59	7.90	5.44
A-1. 農業	6.08	6.66	5.33	-	-
A-2. 林業	37.00	39.45	28.36	-	-
B 漁業	0.58	0.26	1.53	0.66	1.29
C 鉱業、採石業、砂利採取業	4.01	4.91	0.00	1.58	8.01
D 建設業	1.24	1.35	0.87	1.50	1.02
E 製造業	0.51	0.44	0.67	0.44	0.63
F 電気・ガス・熱供給・水道業	1.16	1.40	0.00	1.09	0.00
G 情報通信業	0.02	0.02	0.00	0.08	0.06
H 運輸業、郵便業	0.62	0.69	0.39	0.79	0.41
I 卸売業、小売業	0.84	0.72	0.94	0.67	0.85
J 金融業、保険業	0.54	0.24	0.76	0.22	0.64
K 不動産業、物品賃貸業	0.10	0.09	0.12	0.17	0.27
L 学術研究、専門・技術サービス業	0.25	0.22	0.31	0.18	0.75
M 宿泊業、飲食サービス業	0.52	0.33	0.62	0.20	0.76
N 生活関連サービス業、娯楽業	0.94	1.12	0.80	1.20	0.76
O 教育、学習支援業	0.53	0.27	0.70	0.23	0.60
P 医療、福祉	1.27	1.20	1.26	1.21	1.35
Q 複合サービス事業	4.14	4.54	3.60	5.07	4.28
R サービス業（他に分類されないもの）	0.79	0.95	0.56	0.98	0.74
S 公務（他に分類されるものを除く）	1.60	1.32	2.35	1.47	2.33
T 分類不能の産業	0.24	0.28	0.19	0.04	0.13

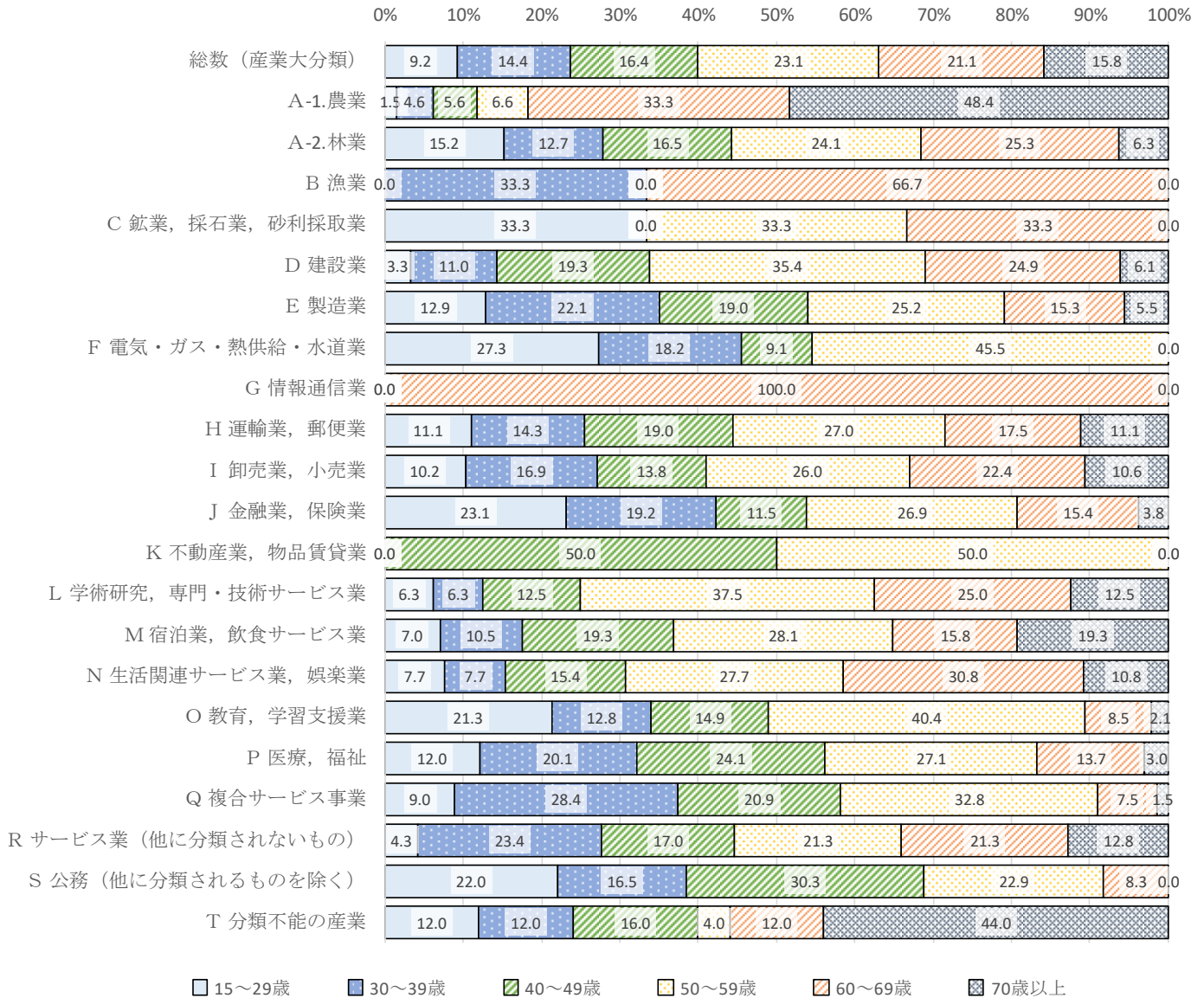


出典：平成27年国勢調査

### (ウ) 年齢5歳階級別産業大分類別就業者数の割合

本町の主な産業について、就業者数を年齢階級別にみると、特化係数の比較的高い「農業、林業」では、88.1%を占めており、極端に高齢化が進行していることが分かります。(平成22年では65.4%)

年齢5歳階級別産業大分類別就業者数の割合



出典：平成27年国勢調査

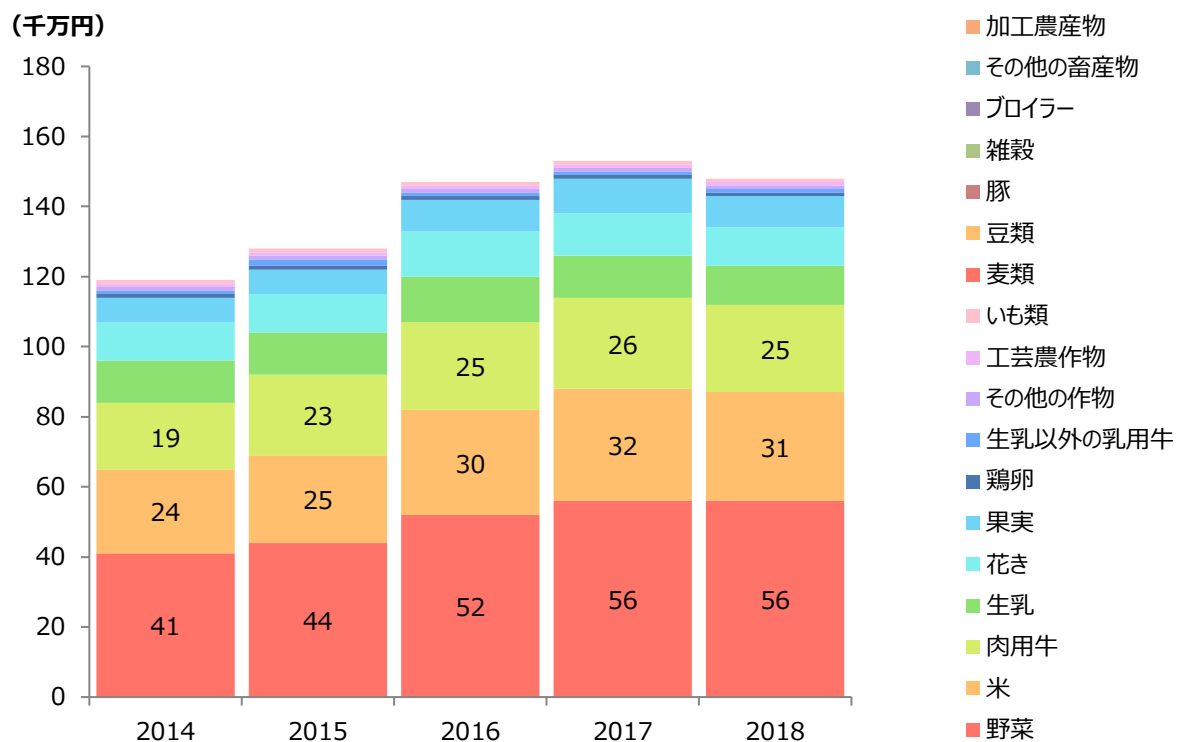
## (2) 農業データ

### (ア) 農業産出額・農業経営体の推移

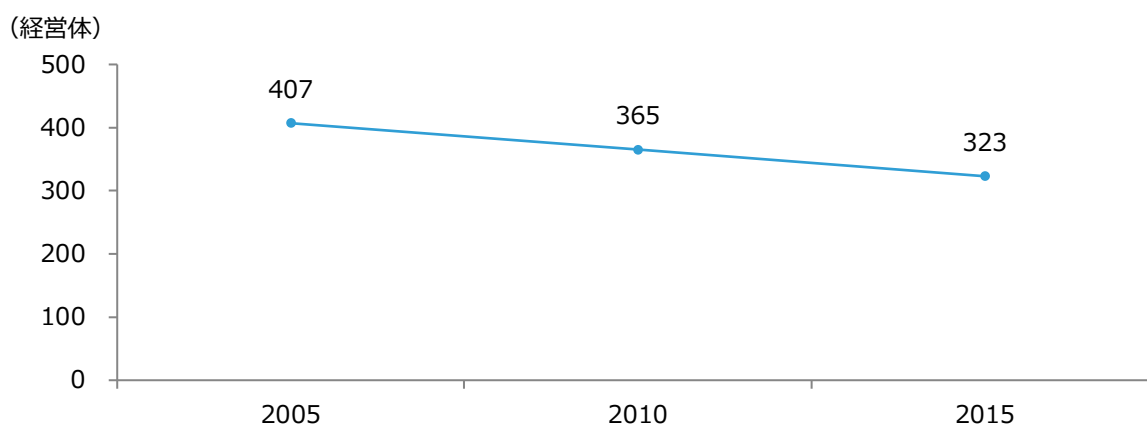
本町の農業産出額について、2017年まで増加傾向でしたが、2018年には減少しています。品目別にみると、野菜が最も多く、次いで、米、肉用牛などとなっています。

農業経営体数は減少傾向にあります。

農業産出額の推移



農業経営体数の推移

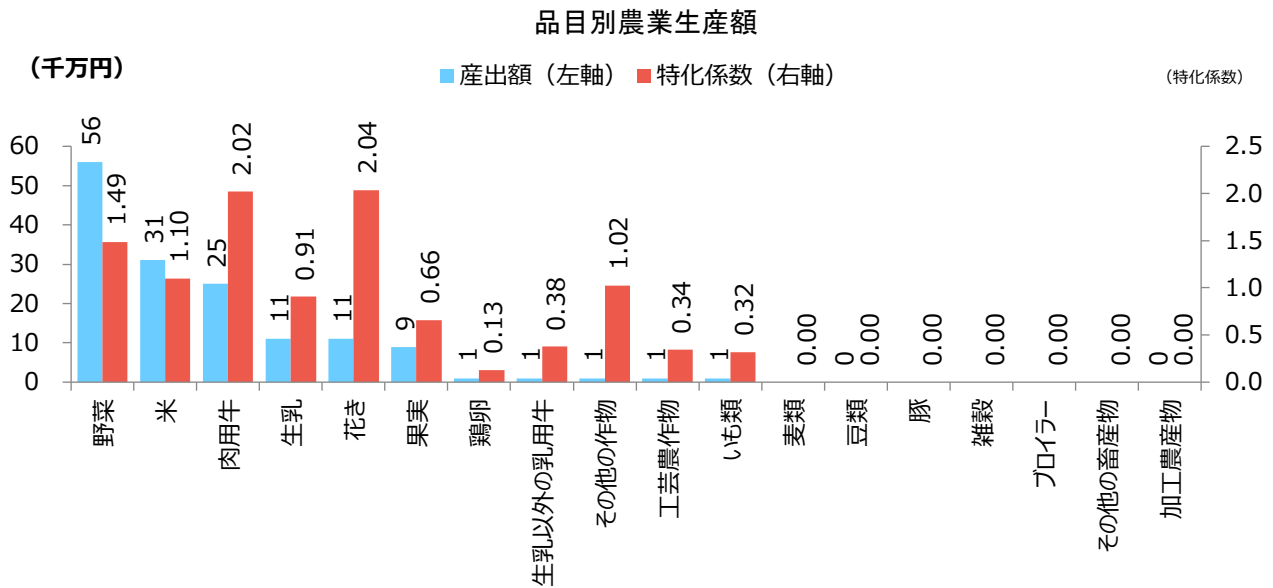


出典：RESAS（地域経済分析システム）、農林水産省「農林業センサス」



### (イ) 品目別農業生産額

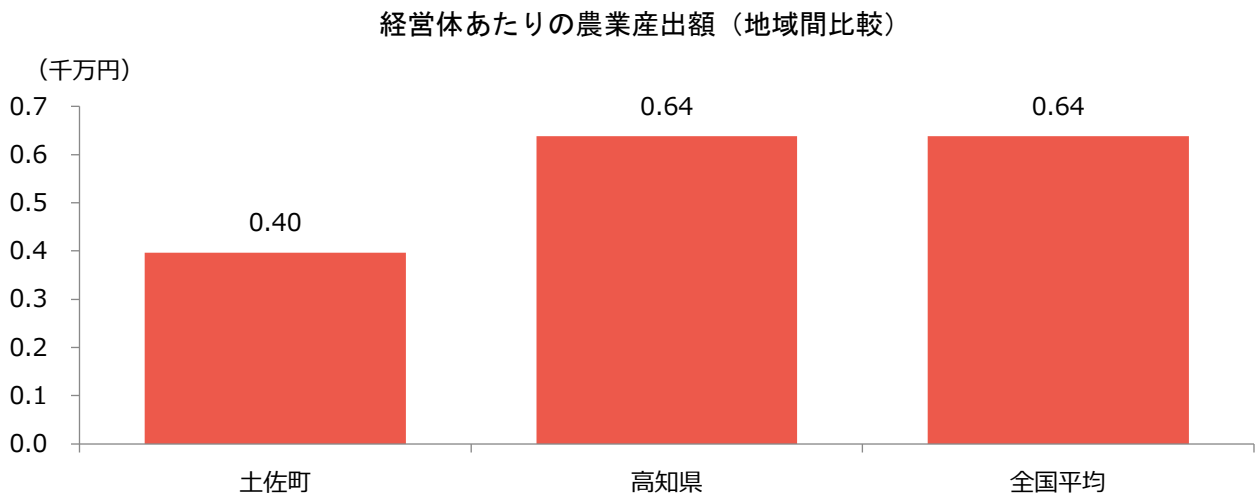
品目別農業生産額について、特化係数で見ると、肉用牛と花きが2.04で最も高くなっています。その他、野菜、米については1.0以上となっています。



出典：RESAS（地域経済分析システム）、農林水産省「農林業センサス」

### (ウ) 経営体あたり農業産出額

経営体あたりの農業産出額については、0.40となっており、県平均より0.24ポイント下回っています。



出典：RESAS（地域経済分析システム）、農林水産省「農林業センサス」

### (工) 年齢階級別農業就業者比率と平均年齢

農業就業者 55 歳以降の年代で増加傾向となっており、特に、65 歳以上の高齢者が 2015 年で 70.80%となっておりです。

年齢階級別農業就業者比率と平均年齢



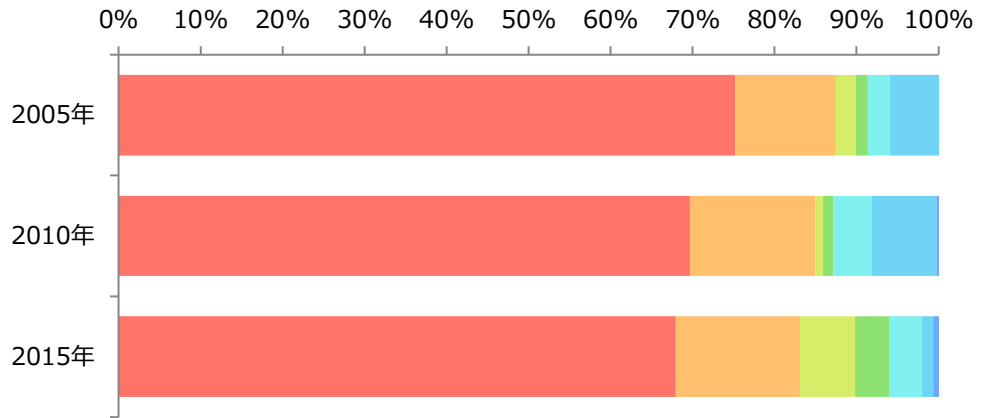
	2015年 (平均年齢: 69歳)	2010年 (平均年齢: 67歳)	2005年 (平均年齢: 65歳)
15~24歳(2.07%)	2.07%	3.84%	3.40%
25~34歳(1.38%)	1.38%	2.27%	1.94%
35~44歳(2.3%)	2.30%	2.09%	3.57%
45~54歳(5.29%)	5.29%	6.63%	10.86%
55~64歳(18.16%)	18.16%	19.02%	15.72%
65~74歳(31.72%)	31.72%	31.76%	39.38%
75歳以上(39.08%)	39.08%	34.38%	25.12%

出典：RESAS（地域経済分析システム）、農林水産省「農林業センサス」

### (オ) 農産物の出荷先別経営体数割合の推移

出荷先別経営体数の割合では、農協への出荷が減っている一方で、小売業者への販売割合が増加傾向となっています。

農産物の出荷先別経営体数割合の推移



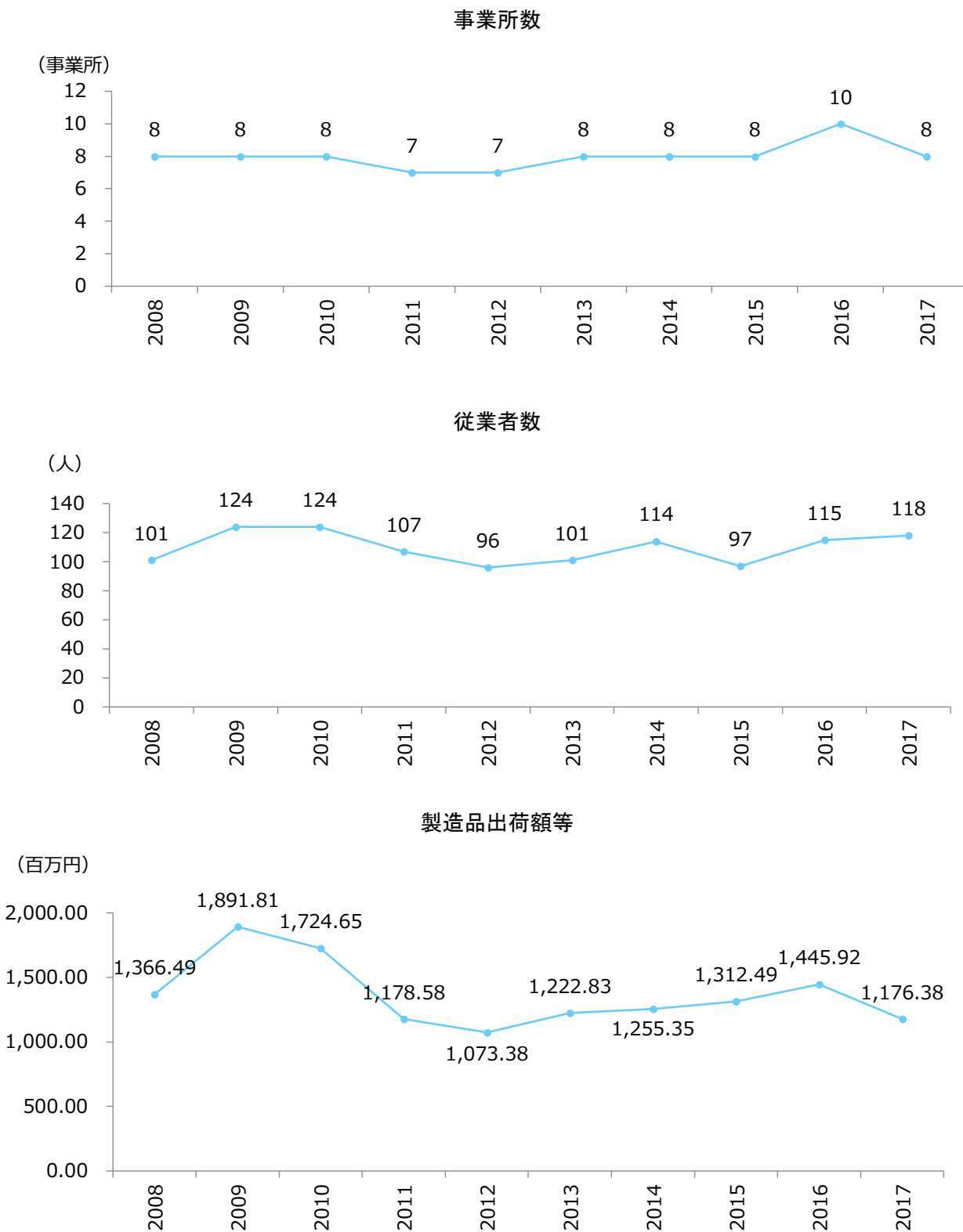
	2015年	2010年	2005年
■ 農協(67.96%)	67.96%	69.69%	75.22%
■ 消費者に直接販売(15.14%)	15.14%	15.31%	12.24%
■ その他(6.69%)	6.69%	0.94%	2.39%
■ 小売業者(4.23%)	4.23%	1.25%	1.49%
■ 農協以外の集出荷団体(3.87%)	3.87%	4.69%	2.69%
■ 卸売市場(1.41%)	1.41%	7.81%	5.97%
■ 食品製造業・外食産業(0.70%)	0.70%	0.31%	0.00%

出典：RESAS（地域経済分析システム）、農林水産省「農林業センサス」

### (3) 製造業データ

#### (ア) 事業所数・従業者数・製造品出荷等の推移

事業所数は概ね横ばい、従業者数は近年増加傾向、製造品出荷等は緩やかに増加傾向でしたが、2017年に減少に転じています。

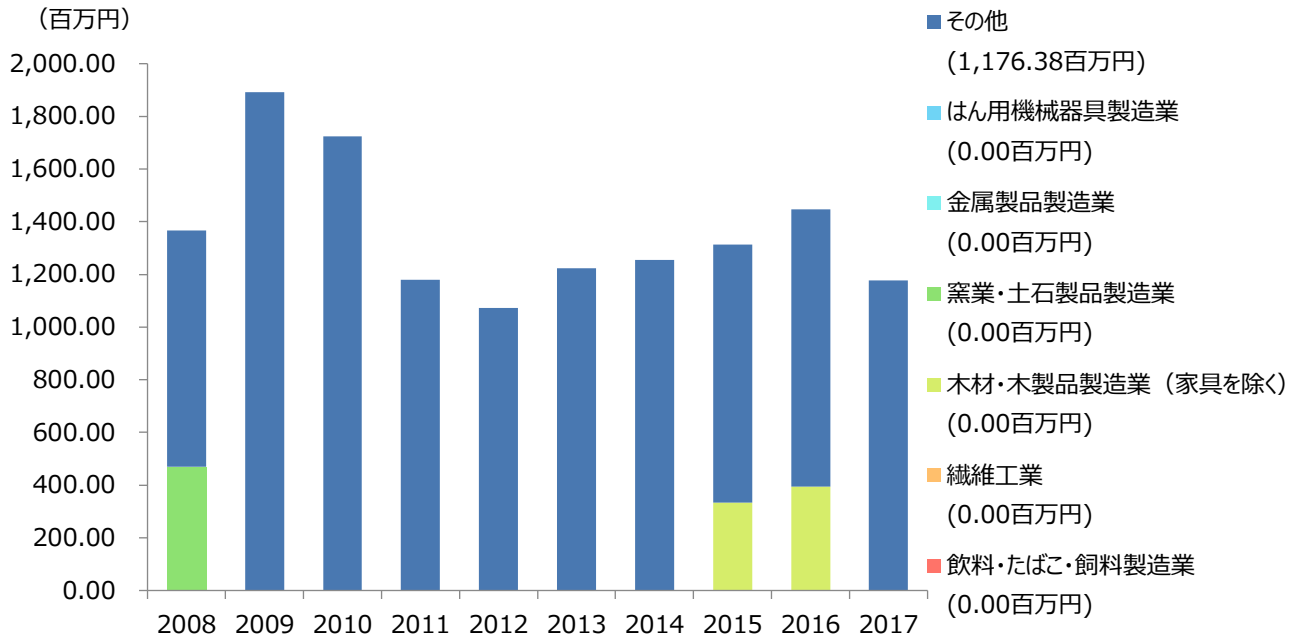


出典：RESAS（地域経済分析システム）、経済産業省「工業統計調査」

### (イ) 産業別製造出荷額等の変化

産業別製造出荷額については、2015年～2016年に木材・木製品製造業が増え、総額も増加傾向でしたが、2017年には「その他」の品目のみになり、総額は減少に転じています。

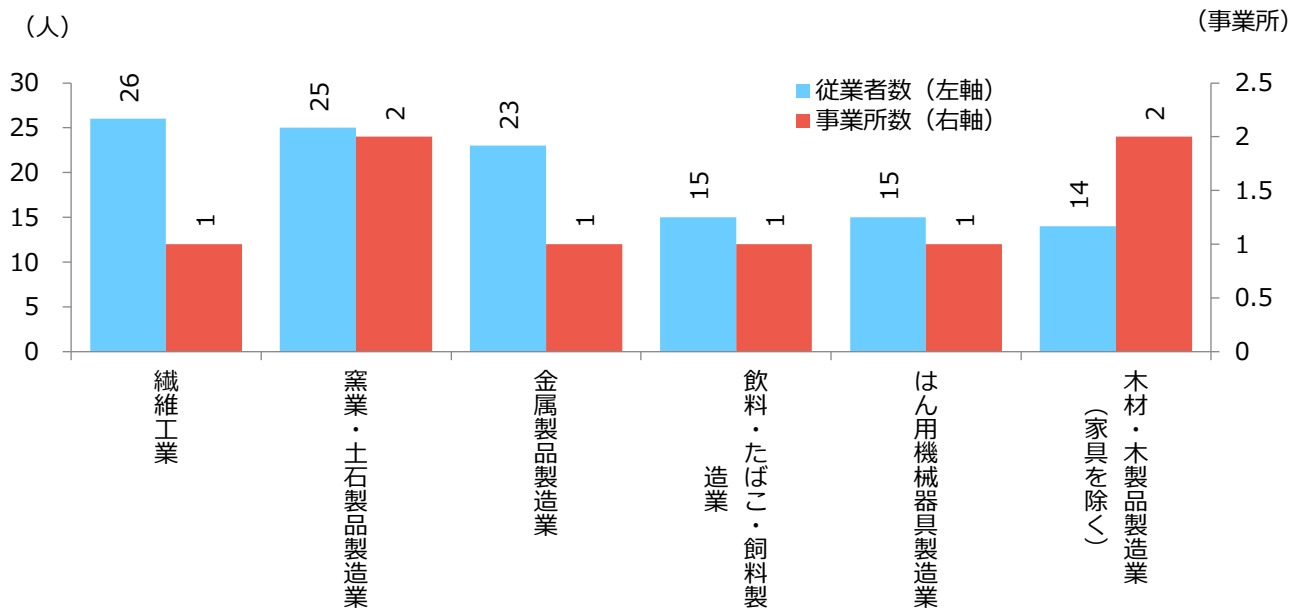
産業別製造出荷額等の推移



出典：RESAS（地域経済分析システム）、経済産業省「工業統計調査」

### (ウ) 産業中分類別従業者数・事業所数

産業中分類別従業者数・事業所数

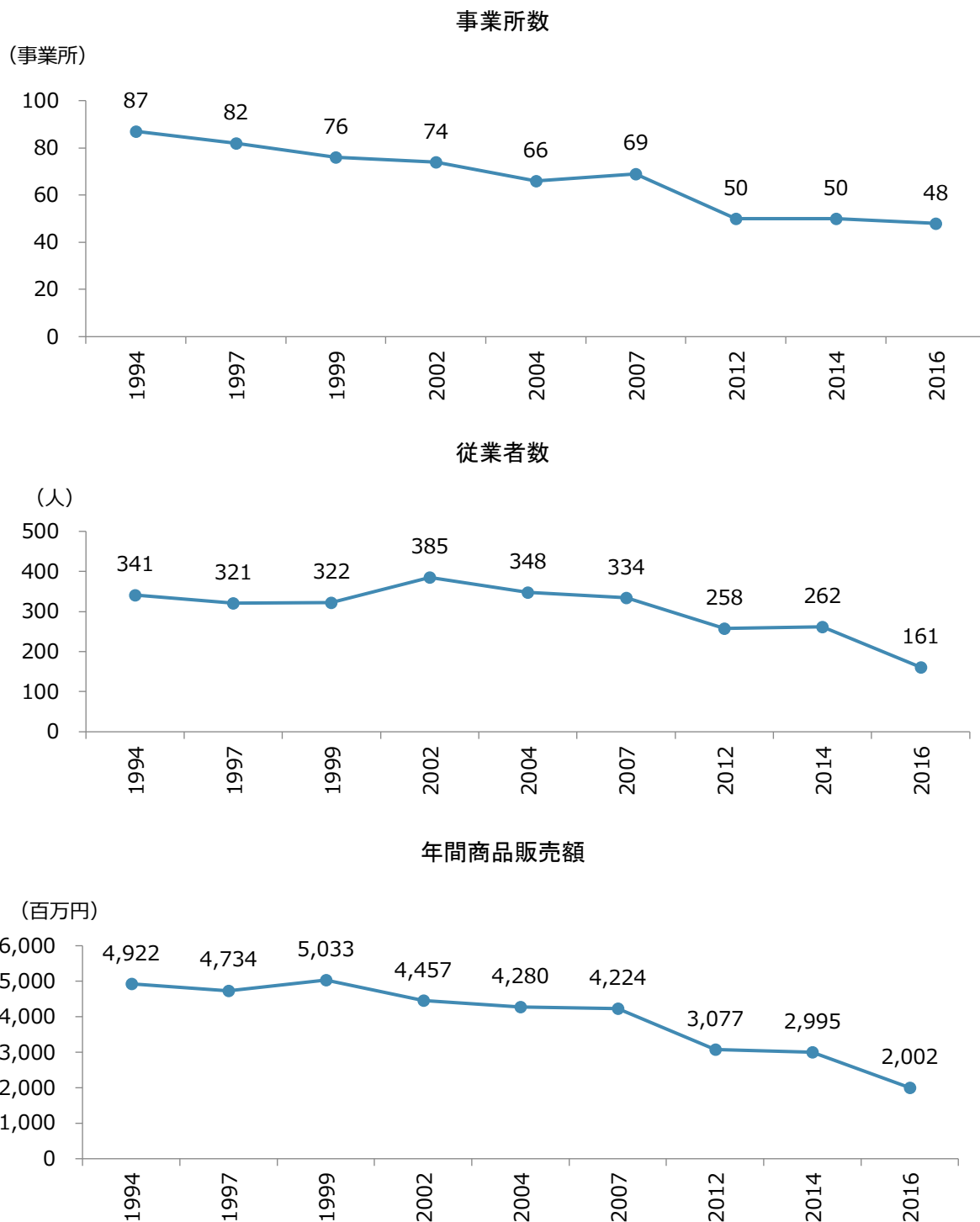


出典：RESAS（地域経済分析システム）、経済産業省「工業統計調査」

## (4) 小売業データ

### (ア) 事業所数・従業者数・年間商品販売額

事業所数、従業者数、年間商品販売額は減少傾向となっています。事業所数の減少に応じて従業者と年間消費販売額も減少している状況です。



出典：経済産業省「商業統計調査」 総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

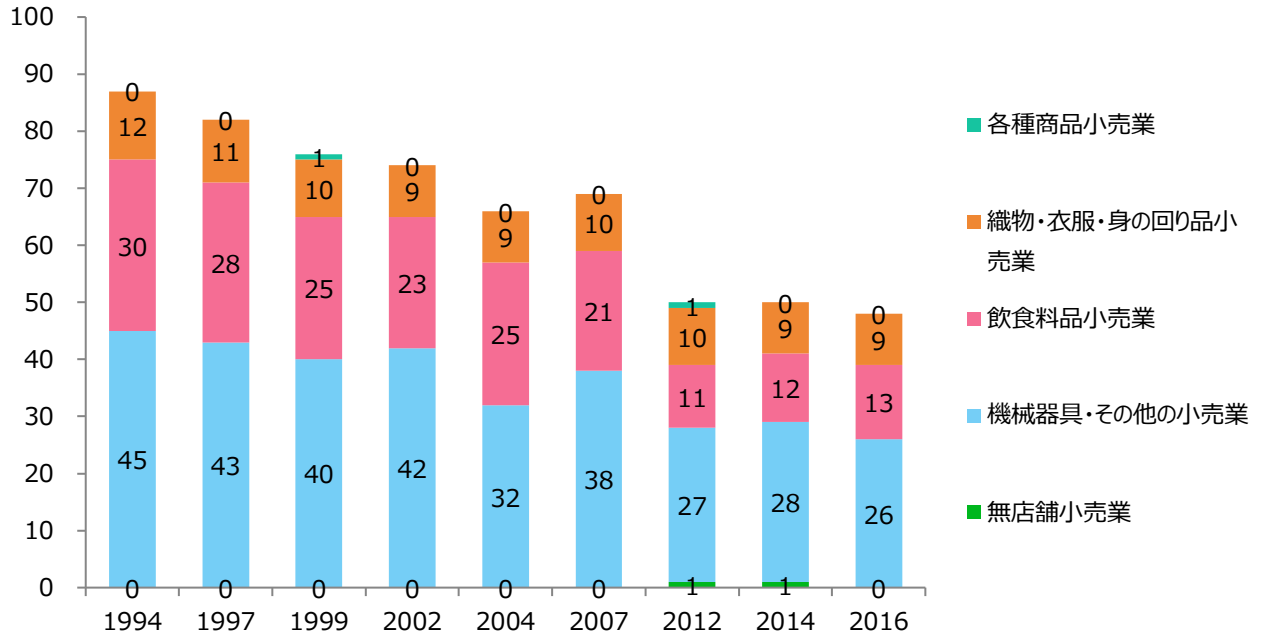
※注記：2007年以降は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサスー活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間（表示年）の比較が行えない。

## (イ) 産業別小売業事業所数の変化

小売業の事業所数については、2012年以降横ばいとなっています。

産業別小売業事業所数の推移

(事業所)



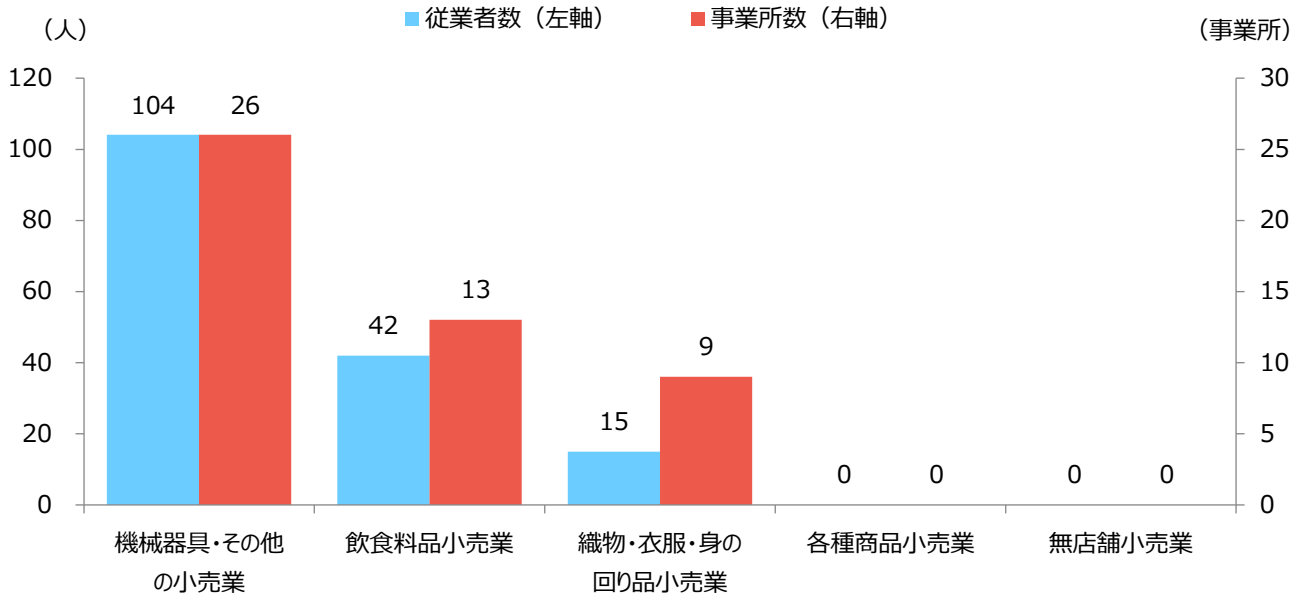
出典：RESAS（地域経済分析システム）、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

※注記：2007年以降は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサスー活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間（表示年）の比較が行えない。

### (ウ) 産業中分類別従業者数・事業所数

産業中分類別でみると、機械器具・その他の割合が多い構造です。

産業中分類別従業者数・事業所数

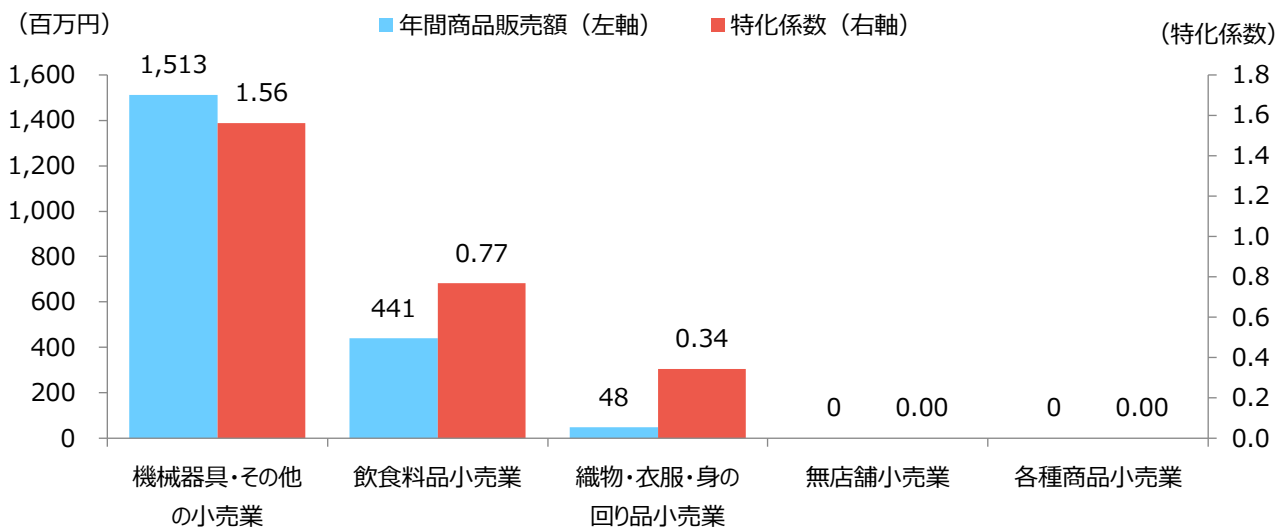


出典：RESAS（地域経済分析システム）、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

### (エ) 産業中分類別年間消費販売額

年間消費額においても機械器具・その他の割合が多く、特化係数は 1.56 となっています。

産業中分類別年間消費販売額



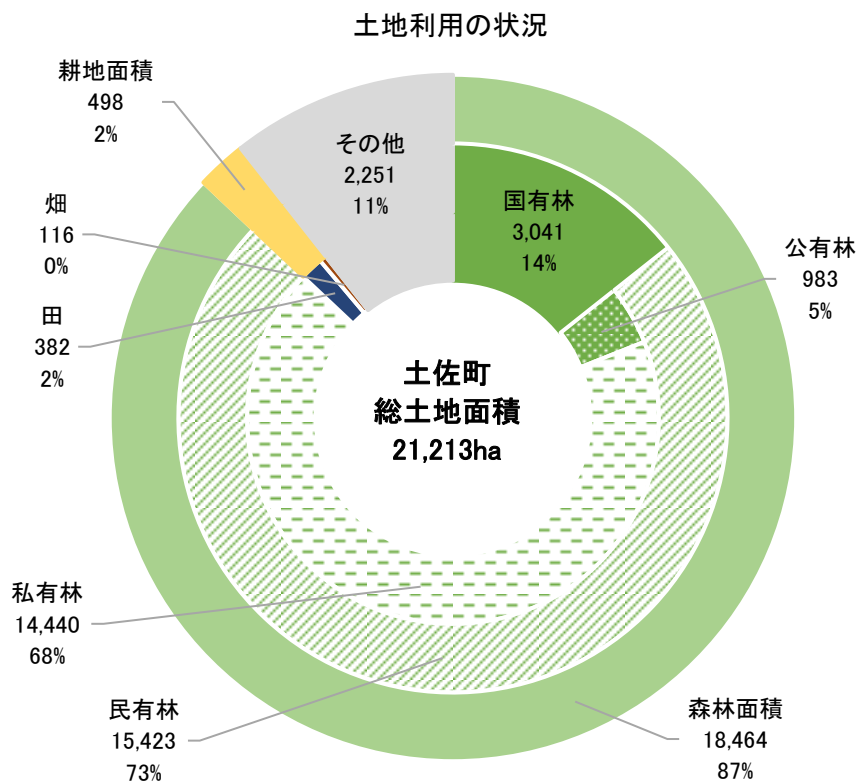
出典：RESAS（地域経済分析システム）、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」



## (5) 林業データ

### (ア) 土地利用の状況

本町は、森林面積が87%であり、そのうち国有林が14%、民有林73%のうち、公有林が5%、私有林が68%となっています。

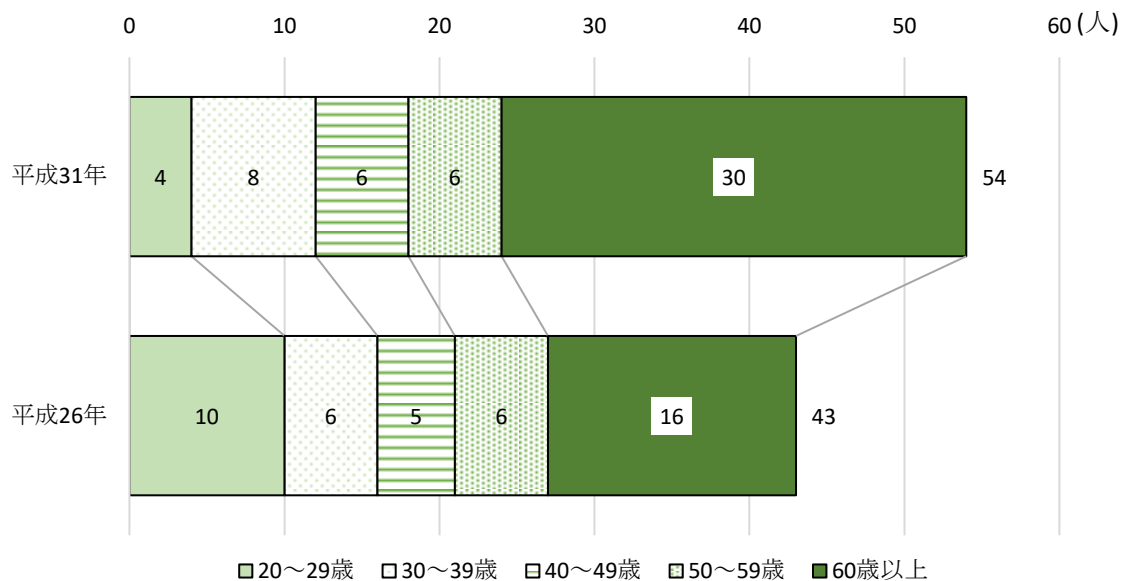


出典：高知県統計「高知県の森林・林業・木材産業」

### (イ) 林業就業者（年代別）の状況

林業就業者は平成26年に比べ増加しています。そのうち、60歳以上は約2倍増加しており、林業就業者の高齢化の傾向がみられます。

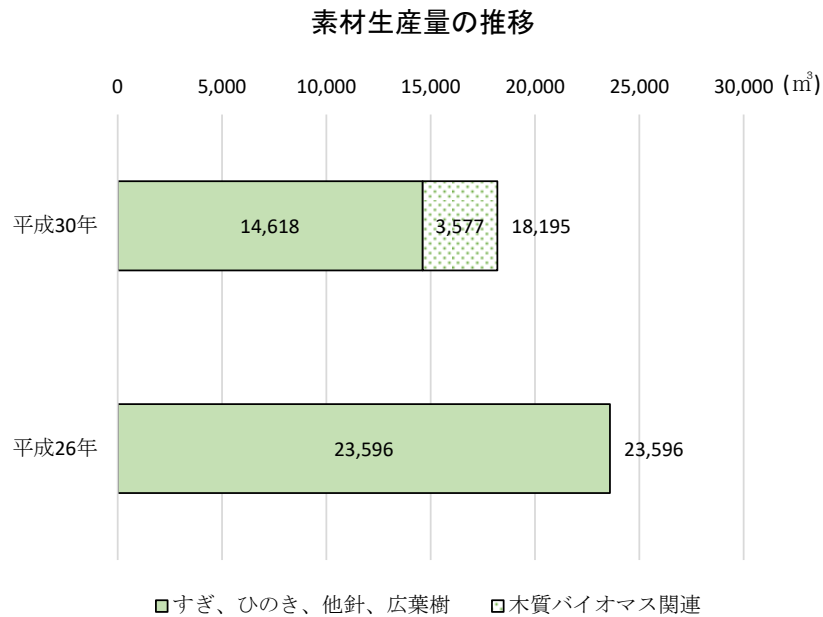
林業就業者（年代別）の状況



出典：高知県統計「高知県の森林・林業・木材産業」

### (ウ) 素材生産量について

本町の素材生産量について、平成 26 年と平成 30 年を比較すると生産量は減少しております。一方で、近年木質バイオマスの利用が促進され、その活用が進められています。

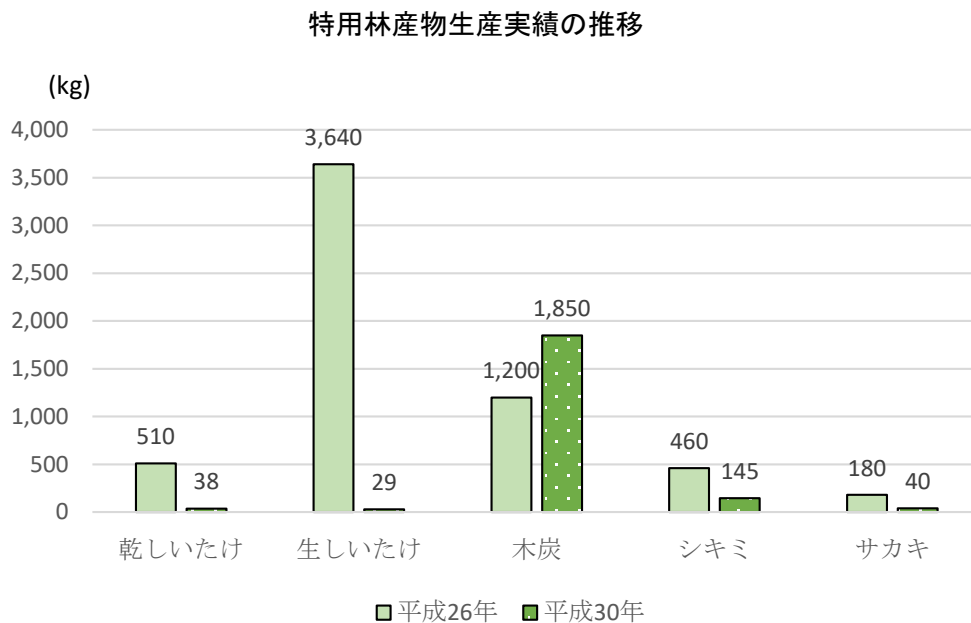


※木質バイオマス関連の生産量について、木質バイオマス関連の県合計値を木質バイオマス関連を除く素材生産量の各市町村の比率により按分した参考値を示しています。

出典：高知県統計「高知県の森林・林業・木材産業」

### (エ) 特用林産物生産実績

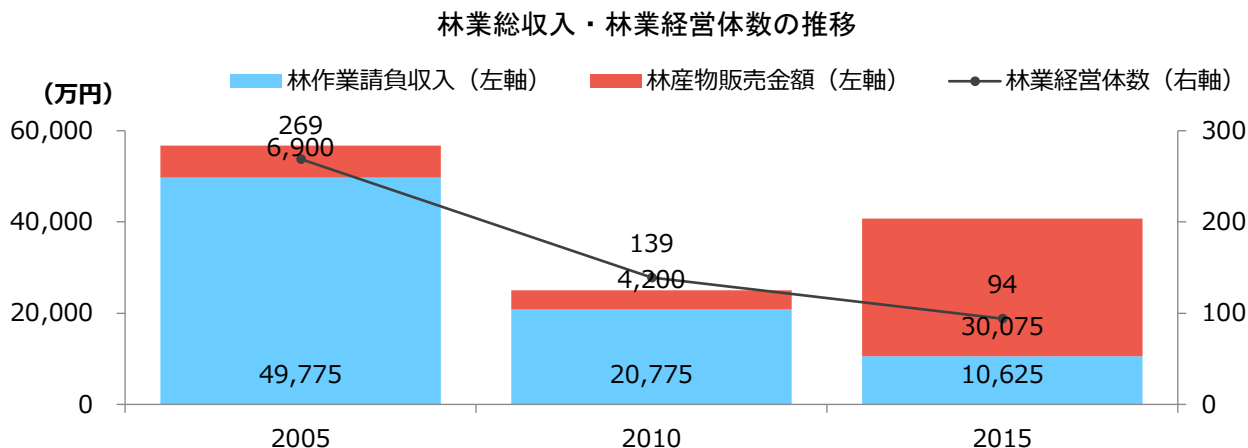
特用林産物生産実績について、木炭の生産量は平成 26 年と比較し増加傾向にあります。一方その他の品目は減少しており、特に生しいたけの生産量は大きく減少しています。



出典：高知県統計「高知県の森林・林業・木材産業」

### (オ) 林業総収入・林業経営体数の推移

林作業請負収入は減少していますが、林産物販売金額が大きく増加しています。



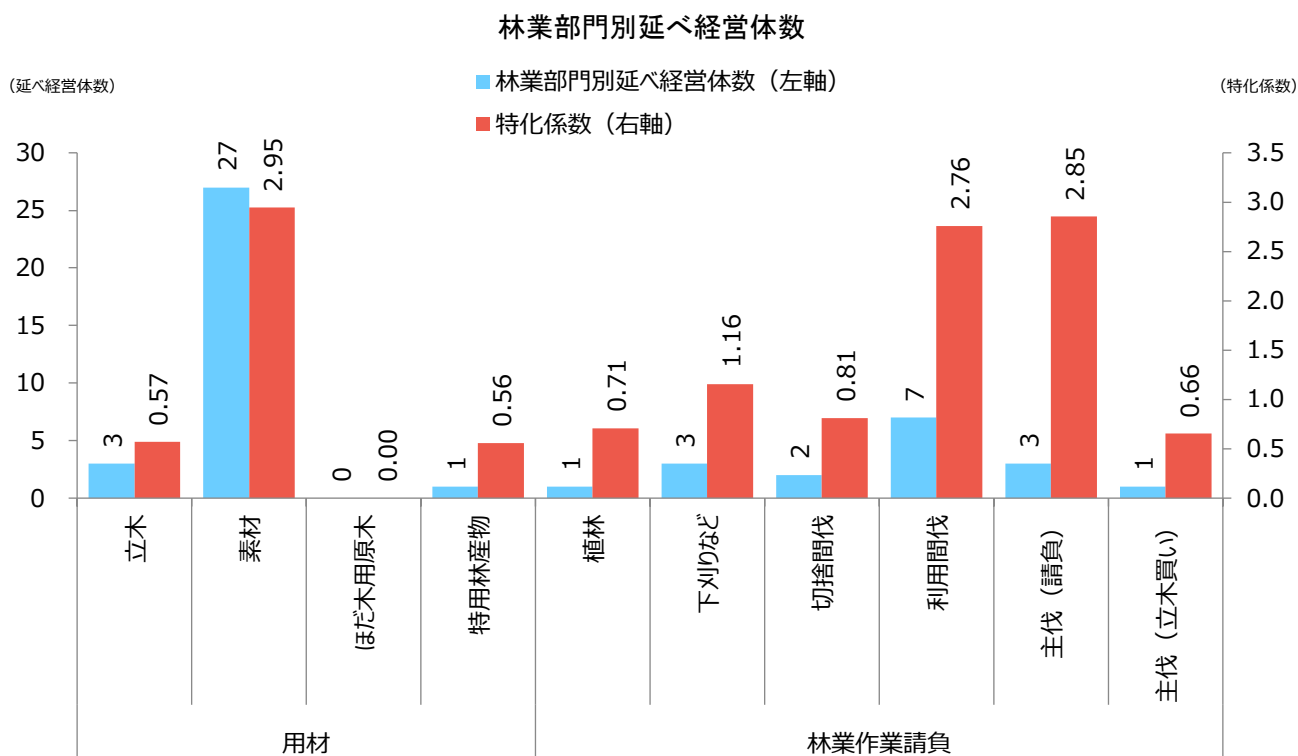
出典：RESAS（地域経済分析システム）より 農林水産省「農林業センサス」再編加工

※林業総収入＝林産物販売金額＋林業作業請負収入

「林業作業請負収入」とは、農林業センサスにおける受託料金収入を指す。

### (カ) 林業部門別延べ経営体数

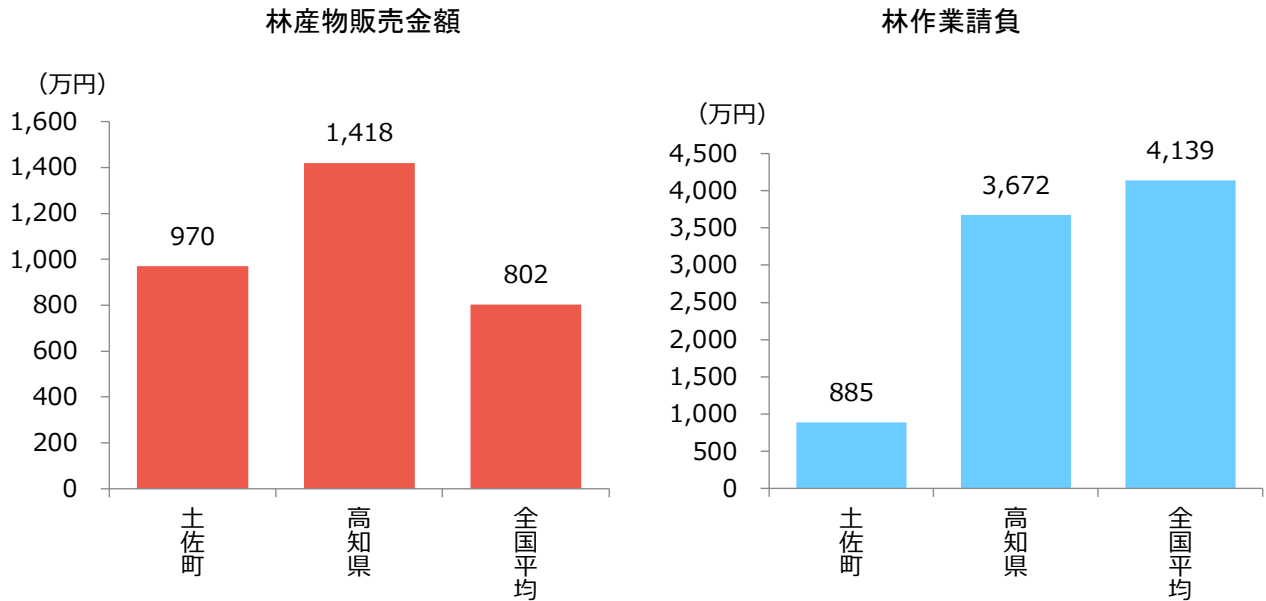
林業部門別でみると、素材、主伐（請負）、利用間伐の特化係数が2以上となっています。



出典：RESAS（地域経済分析システム）より 農林水産省「農林業センサス」再編加工

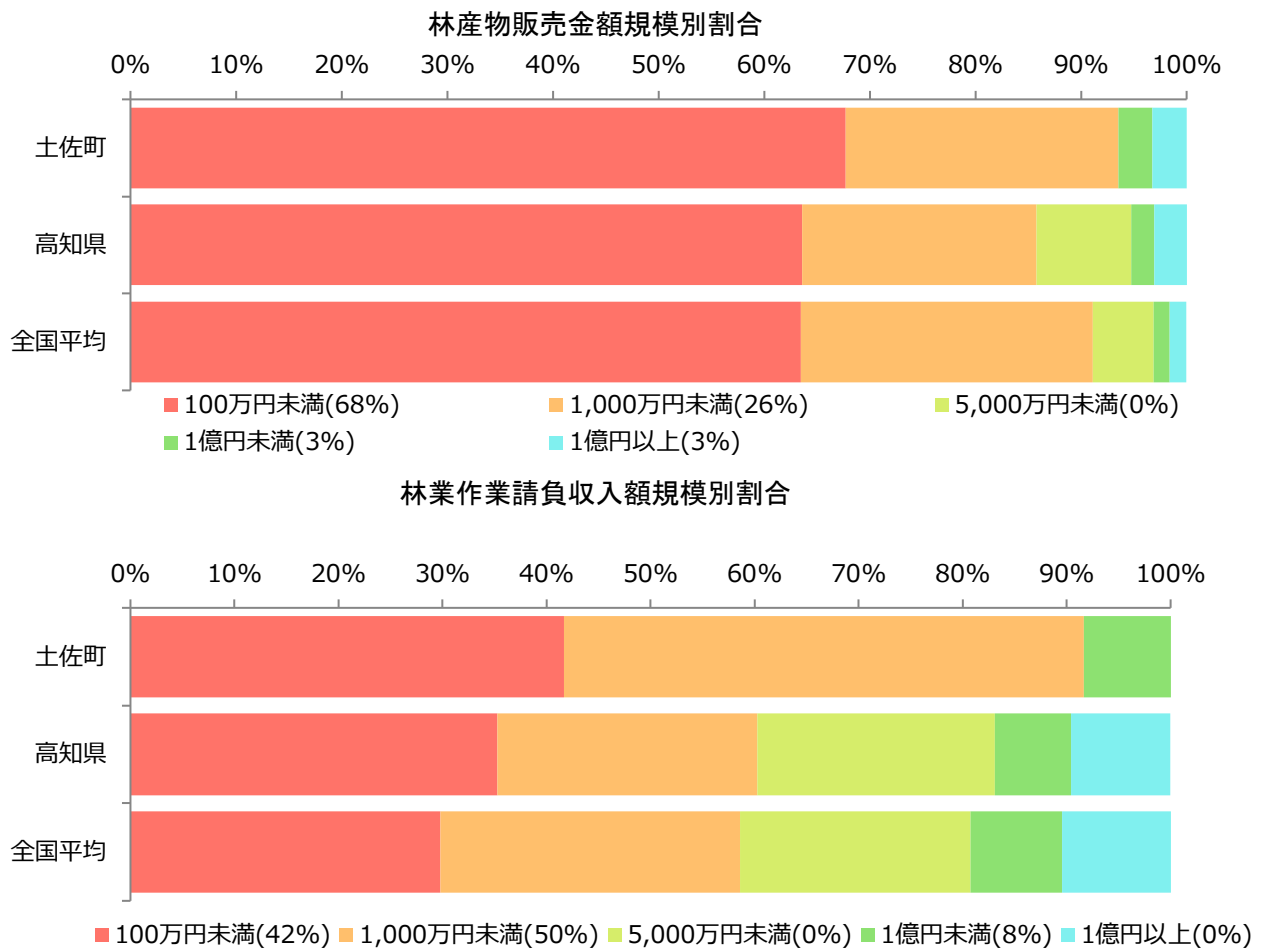
### (キ) 経営体あたり林業収入

本町の経営体当たりの林業収入は、県平均に比べ低い状況です。



出典：RESAS（地域経済分析システム）より 農林水産省「農林業センサス」再編加工

### (工) 林業物販売金額帯別経営割合および林業作業請負収入別経営体割合



## (6) 観光データ

### (ア) 祭り・イベントの入込状況

本町のやまびこカーニバルでは、平成 29 年度は 1,500 人でしたが、平成 30 年には 2,200 人と過去最大の入込客数となっています。

祭り・イベントの入込推移

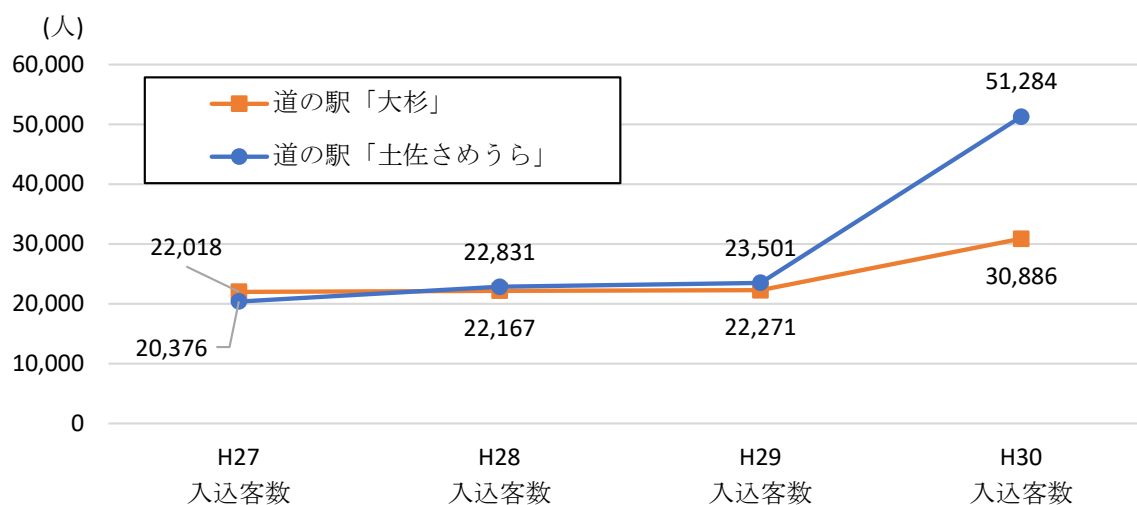
市町村名	名称	H27 入込客数	H28 入込客数	H29 入込客数	H30 入込数
土佐町	やまびこカーニバル (8 月)	2,000	2,000	1,500	2,200
本山町	もとやま花まつり (3 月)	2,500	2,500	4,192	3,800
大豊町	福寿草まつり (2 月)	3,570	3,087	1,500	1,861
大川村	謝肉祭 (11 月)	1,489	1,506	開催なし	1,500

出典：高知県「県外観光客入込・動態調査報告書」

### (イ) 道の駅利用状況

道の駅の利用状況では、平成 30 年に大きく増加し、51,284 人となっています。

道の駅利用状況

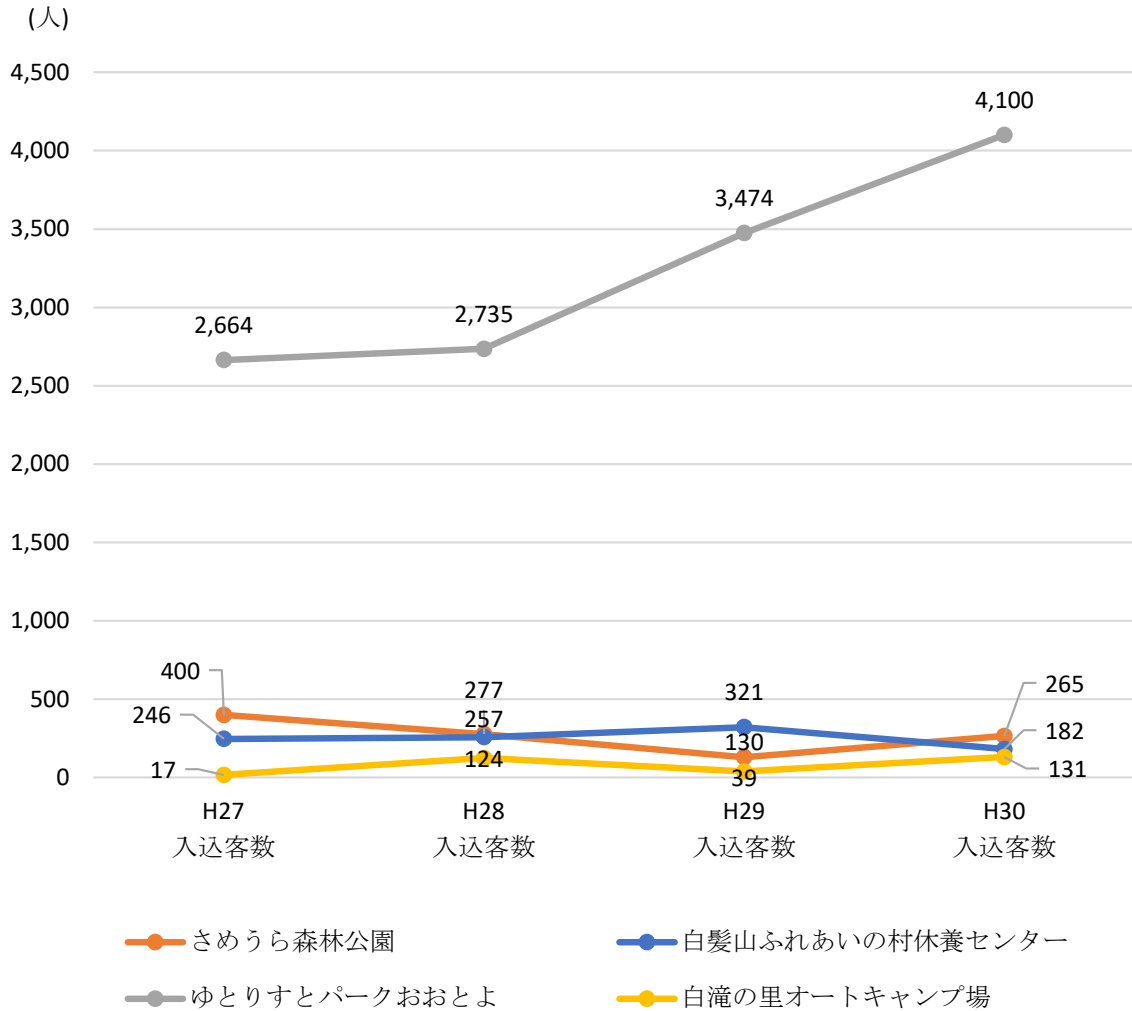


出典：高知県「県外観光客入込・動態調査報告書」

### (ウ) キャンプ場利用状況

キャンプ場の利用状況は、白髪山ふれあいの村休養センターを除き、増加しています。特にゆとりすとパークおおとよは大きく増加傾向にあり、平成30年では4,100人となっています。

キャンプ場利用状況

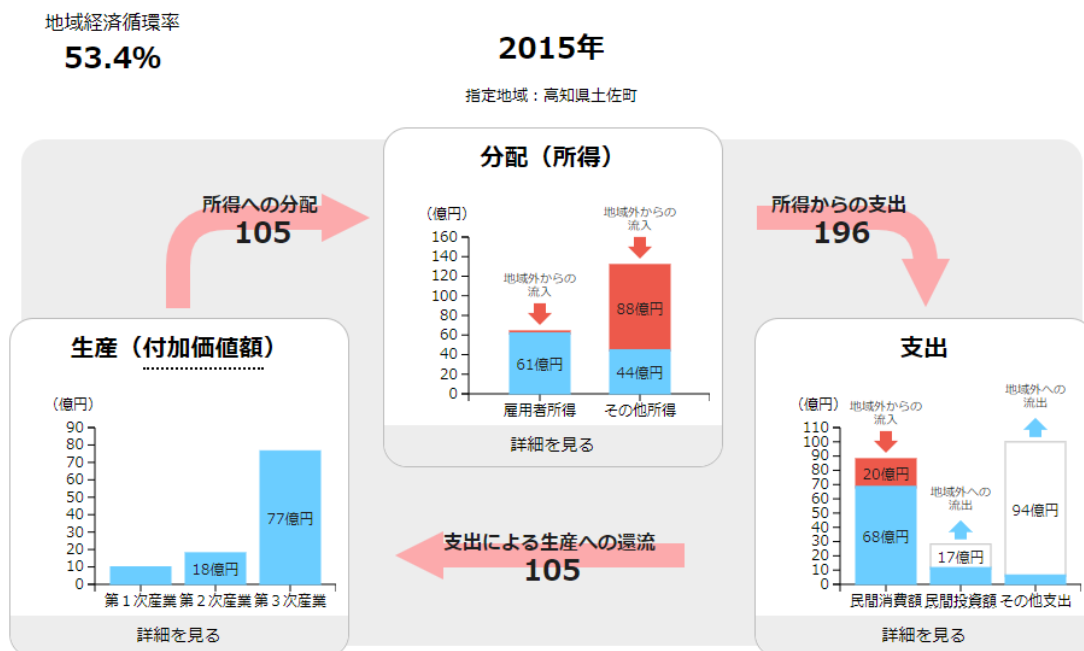
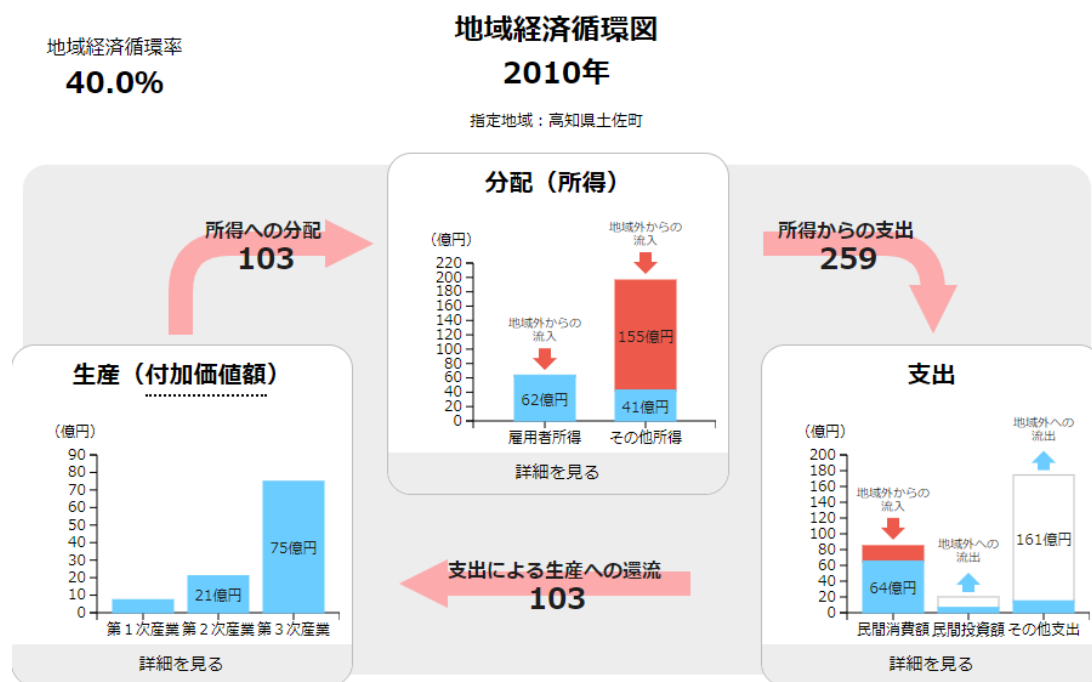


出典：高知県「県外観光客入込・動態調査報告書」

## (5) 地域経済循環

### (ア) 地域経済循環図マップ

本町の地位経済循環率は2010年に40.0%で、2015年では、53.4%と増加しています。これは、地域外に流出する支出部分がこの5年で減少したことにより、経済循環率は高くなっており、生産（付加価値額）および分配（所得）は概ね横ばいとなっているところが見えます。

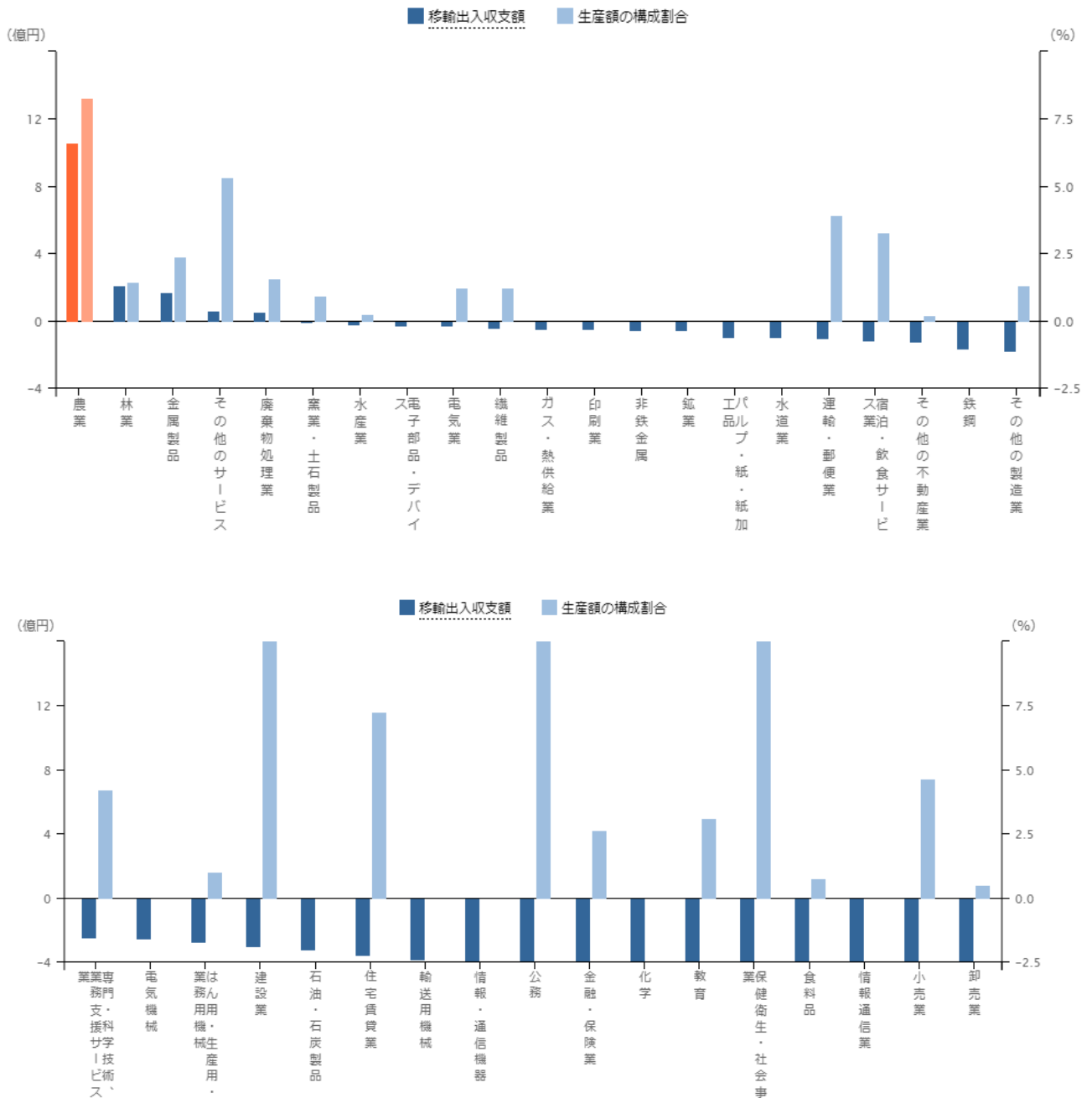


出典：RESAS（地域経済分析システム）

## (イ) 産業別移輸出入収支額

移輸出入収支額をみると、農業が最も高い状況です。一方で、生産額の構成割合が多い、建設業、公務、保健衛生・社会事業などがありますが、これらは支出の方が多く、町外にお金が出流しされていることが読み取れます。

産業別移輸出入収支額



出典：RESAS（地域経済分析システム）



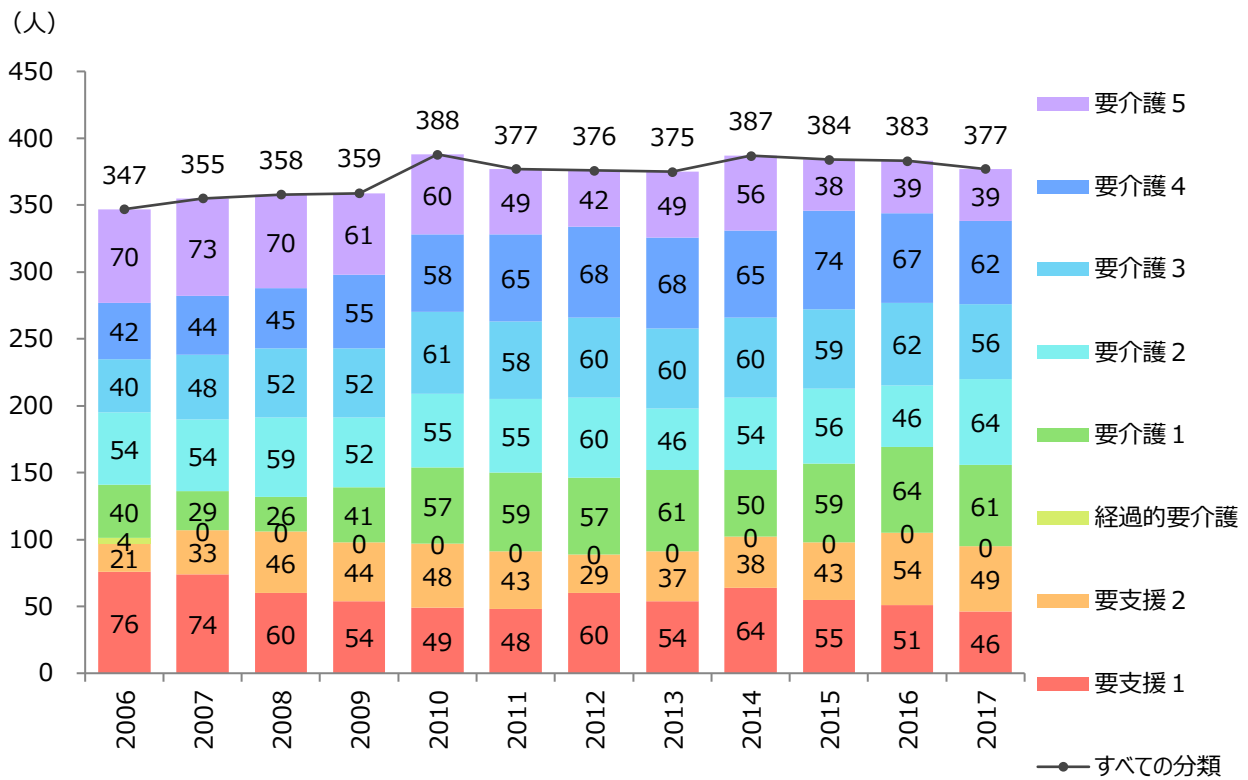
## 4 暮らしに関するデータ

### (1) 医療・福祉

#### (ア) 要介護（要支援）認定者数の推移

要介護（要支援）認定者数は概ね横ばいで推移しています。

要介護（要支援）認定者数の推移

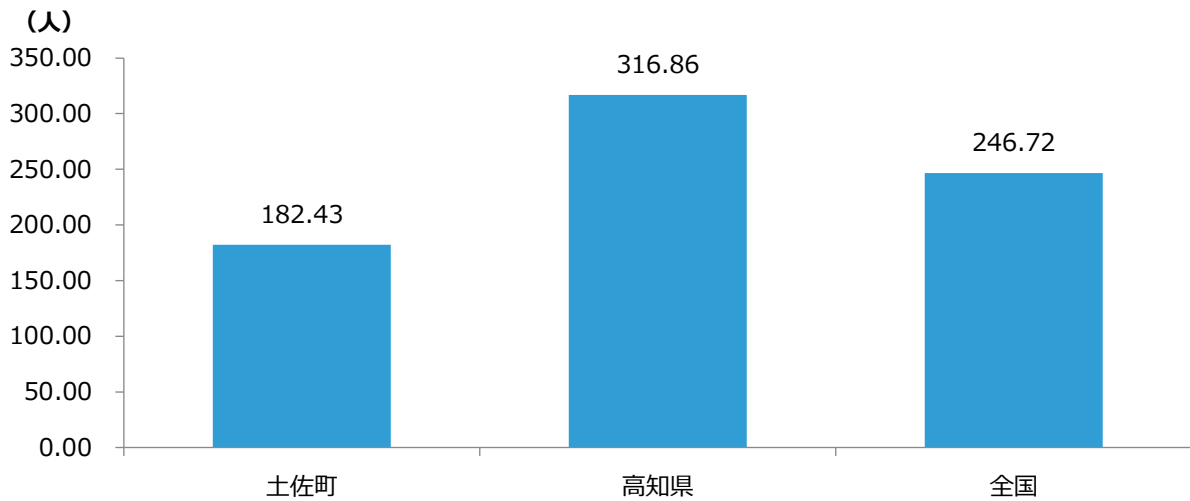


出典：RESAS（地域経済分析システム）、厚生労働省「地域包括ケア『見える化』システム」

### (イ) 人口10万人あたり医師数

人口10万人あたりの医師数は182.43人で県平均より低い状況となっています。

人口10万人あたり医師数

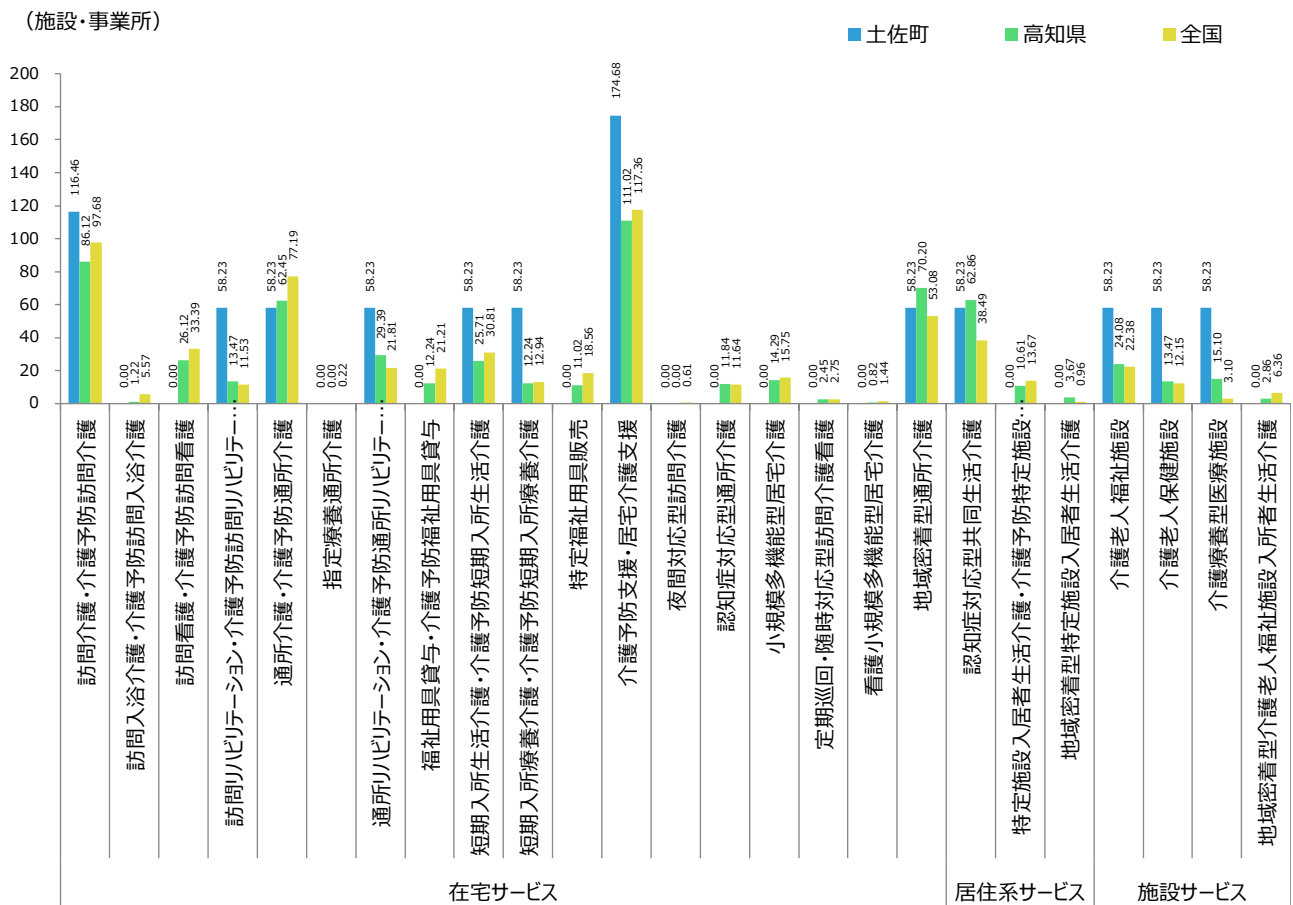


出典：RESAS（地域経済分析システム）、厚生労働省「医療施設静態調査」

### (ウ) 65歳以上人口10万人あたり介護施設数・事業所数

介護施設数・事業所数は、介護予防支援・居宅介護支援が最も多く、県平均より高くなっています。

65歳以上人口10万人あたり介護施設数・事業所数



出典：RESAS（地域経済分析システム）、厚生労働省「地域包括ケア『見える化』システム」

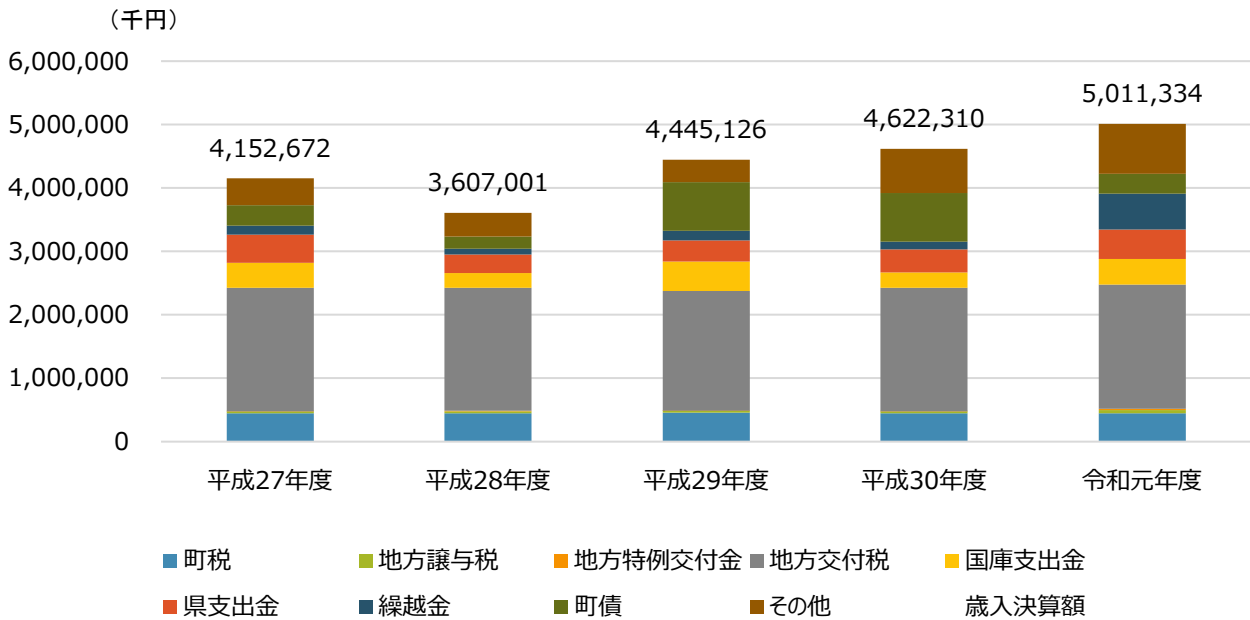
## 5 財政に関するデータ

### (1) 歳入・歳出

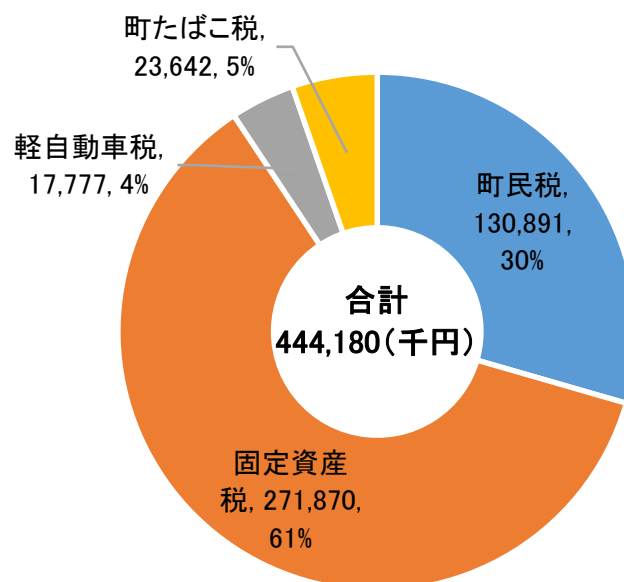
#### (ア) 歳入の状況

歳出決算額は平成 29 年度から増加傾向となっています。

歳入決算額の推移



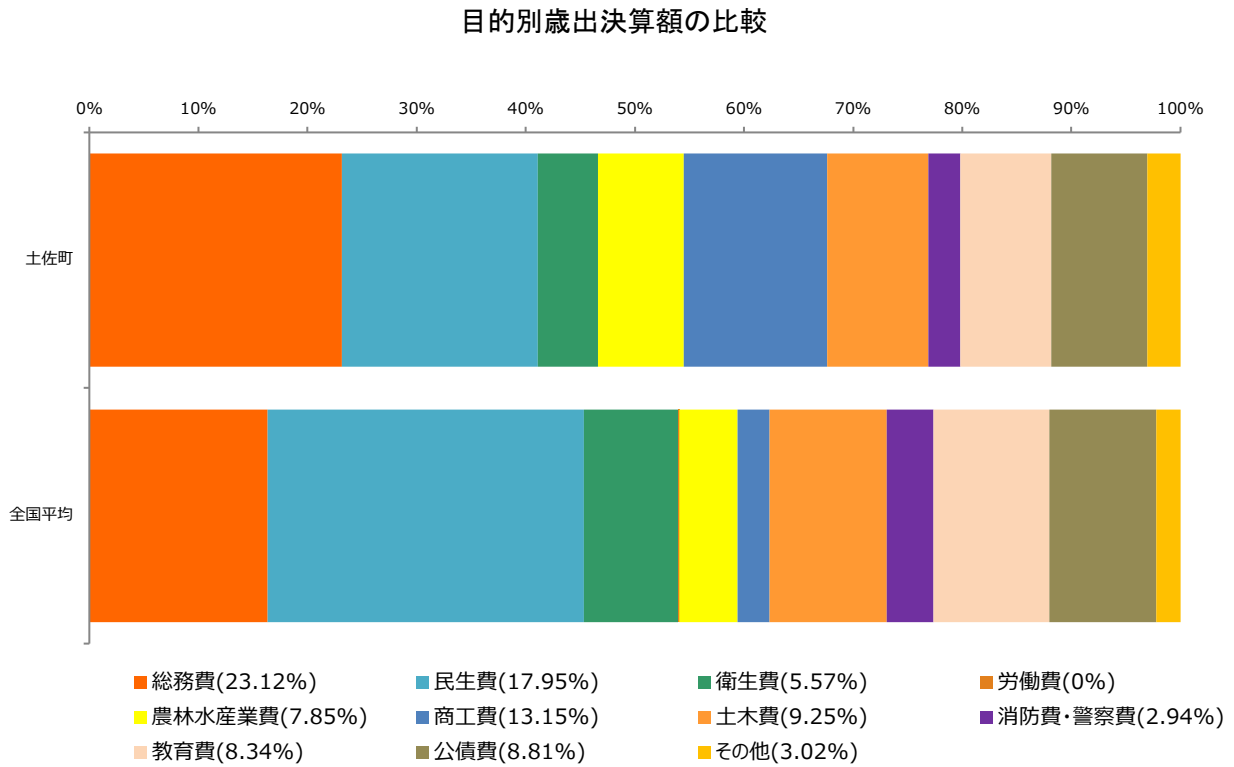
町税の内訳 (令和元年度)



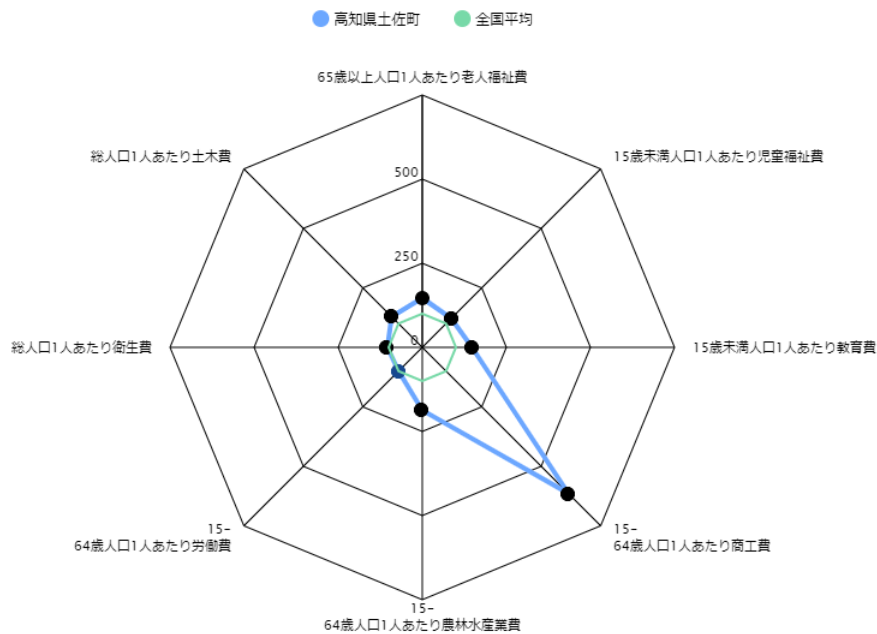
出典：総務省「市町村決算カード」

### (イ) 目的別歳出決算額の比較

全国平均に比べ、商工費が極めて大きな比率となっています。



### 目的別歳出決算額の比較（人口一人あたり水準）2018年度

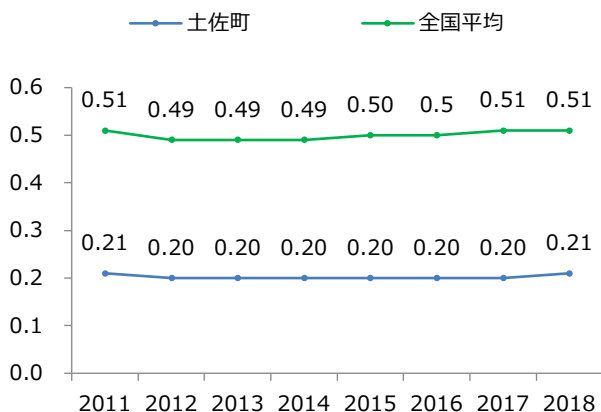


出典：RESAS（地域経済分析システム）、総務省「地方財政状況調査関係資料（財政状況資料集）」

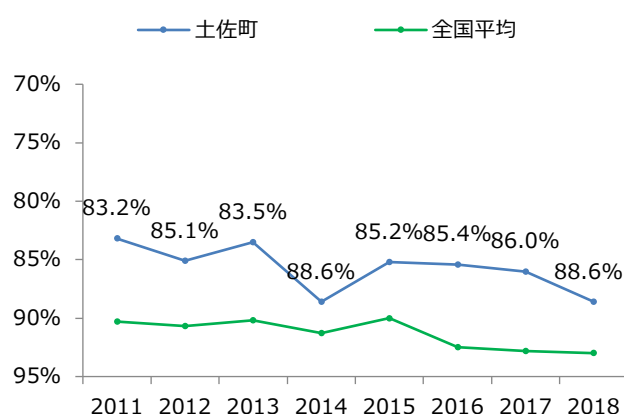
## (2) 各種財政指標

各種財政指標は以下のようになっています。

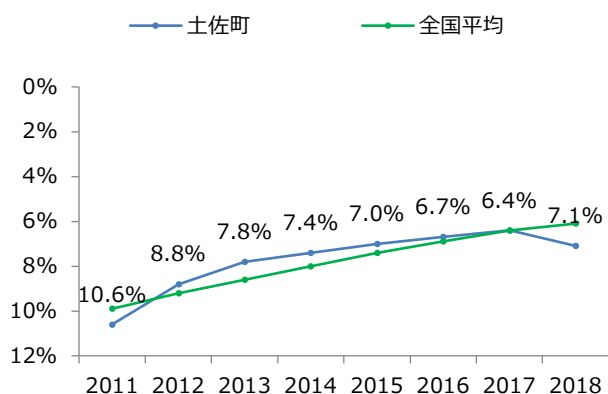
### 財政力指数



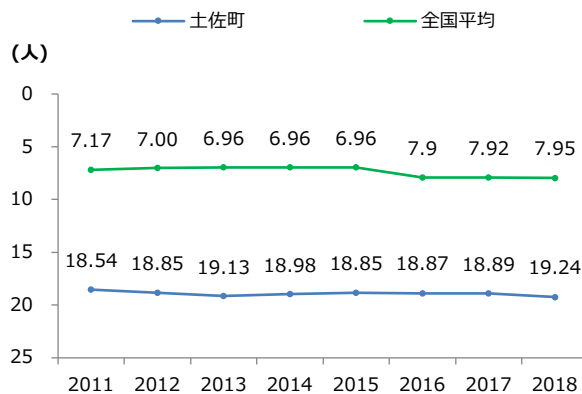
### 経常収支比率



### 実質公債費比率

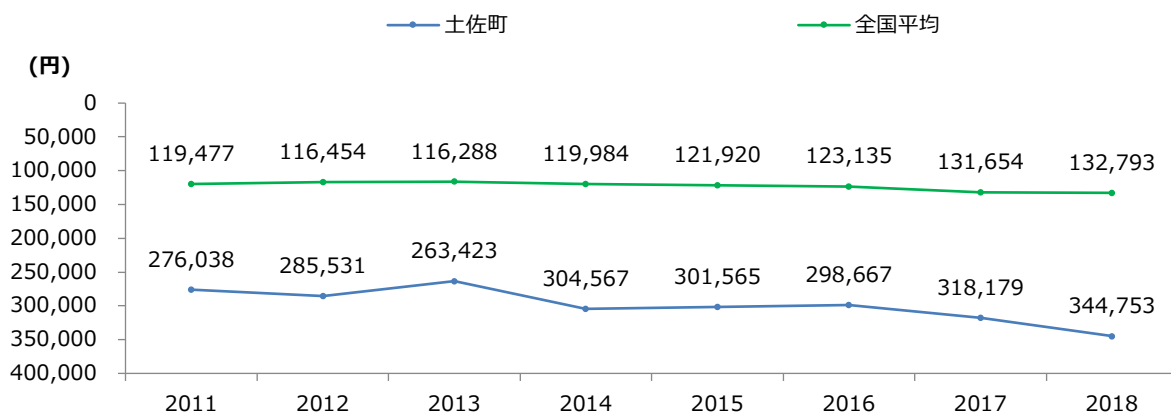


### 人口あたり職員数



※人口千人あたりの職員数

### 人口1人あたり人件費・物件費等の決算額



出典：RESAS（地域経済分析システム）、総務省「地方財政状況調査関係資料」



## 第2章 2030年の土佐町のビジョン

# 1 土佐町のビジョンを設定する上で大切にしたいこと

---

土佐町を取り巻く社会環境は厳しさを増し、また土佐町自身もさまざまな課題を抱えています。さらに、SDGsで解消を目指していくような、地球全体が直面している様々な課題に、地域として対応していなければならぬ時代にもなってきました。

これらの変化に柔軟に対応し、私たちが抱える課題を、一人ひとりが主体性を持って解決できる、しなやかで強い町づくりが必要となってきました。

これまで大切にしてきた、昔からある土佐町の魅力や暮らしの価値をしっかりと守りながら、将来も含め土佐町に暮らす人、これから暮らしていく人を中心に据えた町づくりを目指していきます。

## (1) 「町の声」を聞く

- ・町民【3,500人】ひとりひとりの想いを集めることで、町はできています。
- ・本計画策定にあたっては、若い世代の方々、地域の老若男女の皆さま、可能な限り多くの町民の方から声を聞いて町の将来のすがたを描きました。
- ・少数の意見もないがしろにせず、みんなで話し合うことが大切にしながら。誰ひとり取り残されない、みんなが暮らしやすい町を目指していきます。
- ・そのために、計画策定にあたってだけでなく、これからも町民の声を聞きながらまちづくりを進めていきます。

## (2) 昔から続いてきた土佐町の「暮らしの価値」を受け継ぎ、「誰ひとり取り残されない」

- ・本計画の策定にあたっては、「2030年の土佐町の持続可能な姿」を描くため、2030年に町の中心となっていく世代（現在20代から40代の世代）の声を積極的に取り入れました。
- ・一方で、振興計画の内容が若者世代・子育て世代に向けたものに偏っており、これまで土佐町の暮らしの価値を大切に守ってきてくれた世代の声、その世代のニーズを軽んじているように見えてしまうこともあるかもしれません。
- ・本計画が目指すのは、土佐町がこれまで大切につくってきた「価値」を、これからの時代においても持続可能なものとしていくこと。そしてそれを通じた「誰ひとり取り残されない」まちづくりを実現していくことです。
- ・「医療・福祉」等これまでの町の取り組みの中で、充実しており成果が出ていると考えられるものについてもしっかりと継続をしていくとともに、振興計画への反映も積極的に進めていきます。



### (3) 「新しいもの」も取り入れる

- 人口減少や地域の担い手不足により、地域の産業やコミュニティ、地域の暮らしの維持が難しくなっていてつつあります（例えば第一次産業（農畜林業）の担い手の高齢化、草刈りする人がいなくなってきた等）
- 持続可能な土佐町をつくっていく上では、新たな人材や、デジタル技術などの新たな技術を受け入れることも必要となっています。
- 同時に、地域で昔から続いてきた暮らしや、歴史、文化を大切に守っていくことも必要です。
- 地域に昔からある「暮らしの価値」を大事にし、それを持続可能にしていくためにこそ、「新しいこと」にも挑戦していきます。

### (4) 「ひとりひとりの個性」が生きる

- 本計画策定にあたって、町民の皆さまそれぞれの想いややりたいことがありました。
- それぞれの個性や得意分野を活かしていただきながら、町で暮らす全ての人に出番があり、全ての人为主役になることができるまちづくりを進めることが、地域に愛着を持ちながら、生き活きと暮らししていくことができる、持続可能なまちづくりに繋がっていくと考えています。
- このため、計画策定後も町民の皆様に参加いただく話し合いやワークショップ等を積極的に開催していきながら、計画の推進のために取り組む施策の検討や、町民と行政との協働、町民の意欲的な活動を応援していく取り組みを、これまで以上に推進していきたいと考えています。

### (5) 「計画を立てて終わり」にしない

- 残念ながら、これまで策定した様々な計画には、策定後に進捗や達成状況が十分に振り返られることがないままとなってしまうものもありました。
- また、近年は世の中の移り変わりも早いため、10年間全く変更がないまま続けていくことができる計画をつくることは困難です。特に、土佐町の目指す姿の実現に向けて、具体的に取り組む「施策」（手段）は時世を踏まえ、常に見直しを図っていくことが重要です。
- このため、本計画では、2030年に実現したい「土佐町のありたい姿」（ビジョン＝町が目指す方向性）を明らかにすることを重視しました。
- また、「計画を策定して終わり」ではなく、毎年度の進捗状況や達成度、ビジョンの実現に向けて取り組む施策の内容については、4半期（年4回）程度ごとに、町民の皆さまにも参画いただきながら、見直しを続けていきます。

# 永遠の水源地、土佐町

*Origin × 3,500 × X = Sustainable*

水源に生きる 3,500 人、ひとりひとりの個性を最大化することが、まちの持続可能性となる

「<sup>みなもと</sup>源窮まりて、<sup>みずきわ</sup>水窮まらず」(漢詩『寒山詩集』から)

やがては大河を為す水源を突き止めたところで、そこから水が<sup>こんこん</sup>渾々と溢れ出すことに変わりはない。

尽きることのない水流のように、昔から続いてきた土佐町の魅力を育み、一方で新しいものも取り

入れながら、土佐町民ひとりひとりが最大限活躍し、誇りに思えるまちづくりを進めていこう。

そんな想いから、「永遠の水源地、土佐町」というビジョンは生まれました。

水は絶えない。だからこそ変えることを恐れない。

絶えることのない水源のように、昔から続いてきた土佐町の暮らしの価値が失われることはありません。

今までのかたちを変えること、一度全てを捨て去るつもりになって再生していくことを恐れず、

持続可能なこの町の未来を切り開いていきます。

その上で、これまで土佐町を支えてきた人々が助言者にもなりながら、次の時代を担う若者が活躍

できる土壌を醸成していく。3,500人の老若男女が一体となって、守るべきオリジナルの土佐町

に、新しい要素を掛け合わせていくことで、持続可能な土佐町の未来の姿ができあがります。

第7次土佐町振興計画は「2030年の持続可能な土佐町の姿」を描く計画です。  
では、「土佐町が持続可能である」とはどういうことでしょう。  
何を達成し、どういう状態になれば、町はこれからも持続することができるでしょうか。

土佐町には豊かな自然や、美しい棚田があります。  
きれいな水とおいしい食べもの。何より、昔から続いてきた暮らしの価値があります。  
できることなら、そうした「土佐町らしさ」をこれからもずっと大切に守っていききたい。

一方で、土佐町はこれから急激な人口減少に直面します。  
1965年に約8,500人いた町の人口は、2030年には約3,000人となる見込みです。  
かつての半分以下の人数で、この町の暮らしをつくらなければいけません。  
昔のままでは続けていくことができないこと、変えていかなければいけないこともできます。  
もしかすると、土佐町が土佐町でなくなってしまうように思えるかもしれません。

「永遠の水源地、土佐町」という言葉には、2つの意味が込められています。  
「これからもずっと守っていききたい土佐町の価値」と「姿を変えながら、ずっと存在し続ける土佐町の姿」  
土佐町が昔から大事にしてきた本質的な価値を未来にもしっかりと伝えていきながら、  
一方で、時代の変化に対応し、これからの時代にも存続できる土佐町をつくらっていく。  
それこそが、持続可能な土佐町の姿ではないでしょうか。

「水源」は、いつも変わらず水を生み出しているようで、常に周囲の環境に合わせて変化しています。  
同様に、「水源のまち」である土佐町も、「オリジナルの土佐町」をしっかりと守っていきながら、  
そこに時代に即した新しい要素を掛け合わせることで、持続可能な未来を描くことができるはずです。

そして、そのためには土佐町で暮らす3,500人ひとりひとりが役割を持つことができ、  
自らの可能性を最大限発揮して、生き活きと活躍できるまちとしていくことが必要です。  
水源(Origin:起源)に生きる町民ひとりひとりが、他には替え難い個性(Original)を持っています。  
3,500人の小さな町のようで、そこには町民の多様な個性と、想い、文化、暮らしが存在しています。

**Origin**(水源、そして水源で生きる人々の個性) × **3,500** × **X**(エックス、未知数、新たな要素)

“水源のまち”土佐町に生きる3,500人ひとりひとりの個性が、新たな要素とも掛け合わされながら、  
最大化されることを通じて、2030年における持続可能な土佐町の姿をつくる。  
それこそが、第7次土佐町振興計画を通じて実現を目指す未来の土佐町です。

### 3 2030年のすがたを実現するための分野別ビジョン

---

#### (1) 教育・学び・子育て

この町で「生きる力」を学び、激動する世界に羽ばたいていく。  
町で育つたくさんの子どもたちの笑顔を、地域全体で支える

#### (2) スポーツ

ここだからこそできるスポーツ。難しくなってきたスポーツ。  
どちらも大事。多様な競技に触れることができる。  
そしてそれが、健康や体づくりや世代交流にもつながる。

#### (3) 文化（図書館・アート）

昔から続いてきた「文化」や「伝統」を次の世代にも伝え、  
小さいからこそ、豊かで多様な文化資本が存在するまちに。  
そして、この町だからこそ新しい「アート」が生まれるまちに。

#### (4) 自然環境と農林業

自然を大切に活かすことで、豊かな川や山を育む。  
自然を守るだけでなく、それを上手に活用し、  
ひとりひとりが望む稼ぎを得られるような、新しいかたちの農畜林業をつくる。

#### (5) 仕事・産業

新しいチャレンジを町民全員で応援できるまち。  
何かを始める時のハードルを乗り越えやすくする仕組みをつくり、  
若い世代にとって魅力的な働く場所と雇用をつくりだす。

## (6) (地域) 愛

子どもたちが心から「土佐町が好き」と言える町。  
世界に羽ばたいた子どもたちが「帰ってきたい」と思える町。  
そのためには、大人たちが心から土佐町を愛していること。

## (7) 繋がり

交流や集いの機会を大事にしながら、ひとりひとりの立場も尊重することができる。様々な人が暮らしている町だからこそ、その多様性をまちづくりの力に。

## (8) 安心安全な暮らし

生涯を通じて、ひとりひとりが生きがいを持ち、  
みんなで支え合いながら、安心して暮らし続けることができるまち。  
道路や上下水道、インターネットなど、必要なインフラを維持し、  
災害にも強い安全なまち。

## (9) 人口減少

ひとが増えるまち。  
若者が増え、子どもたちが増えるまち。

## (10) 持続可能な行財政

町民と役場が一体で協働する開かれたまちづくりを推進し、  
職員ひとりひとりが地域に溶け込み、主体的に地域の  
課題解決に取り組む職員を育てていく。



### 第3章 2030年の土佐町において

## 「目標(ゴール) | 教育・学び・子育て」

---

この町で「生きる力」を学び、激動する世界に羽ばたいていく。

町で育つたくさんの子どもたちの笑顔を、地域全体で支える。

子どもたちが育つ環境、子どもたちを育てやすい環境、生涯にわたって学び続けることができる環境を整え、ひとりひとりに寄り添う質の高い教育や学びが得られる町としていくことが大切です。土佐町ならではの環境や魅力を活かした教育が、子どもたちの「生きる力」を育み、激動する世界でも活躍できる人財に育てる。これまでもこれからも町全体でそんな子どもたちの成長を支えながら、少しずつでも、子どもが増えていく町にします。

### 【“2030年の土佐町” ゴール1の実現に向けた具体的行動(ターゲット)】

- 1-1 2030年までに、保育・小学校・中学校・高等学校・高等専門教育等の各世代において、本人の「ありたい姿」の実現に繋がる質の高い教育を受けることができ、希望する進路を選択できるようにする。
- 1-2 2030年までに、地域特性や自然環境等を活かした、土佐町ならではの、土佐町だからできる教育が提供できるようにする。
- 1-3 2030年までに、社会及び自然環境の変動や、技術革新の進展等、世界が直面する様々な変化の中でも活躍できる人財へと育てることができる教育が提供できるようにする。
- 1-4 2030年までに、土佐町で暮らす全ての人が、新たな知識を習得したり今ある知識を深めるため、生涯学び続けることができるようにする。
- 1-5 2030年までに、仕事との両立や親自身の学び、地域における支え合いなど、土佐町で安心して子育てをできるようにする。



【“2030年の土佐町” ゴール1の実現状況を把握するための指標（インディケーター）及び施策】

ターゲット (具体的行動)	インディケーター（指標）							施策
	目標値	単位	方針	現状値	当初値	頻度	測定指標	
1-1 2030年までに、保育・小学校・中学校・高等学校・高等専門教育等の各世代において、本人の「ありたい姿」の実現に繋がる質の高い教育を受けることができ、希望する進路を選択できるようにする。	100	%	↑			年	自己の希望に沿った進路選択	嶺北高校魅力化事業
	0	教科	↑	2	2	年	小中学校において、専科教員が配置されていない教科の数	
	75	%	↑	62%	65	年	土佐町からの嶺北高校進学者	嶺北高校魅力化事業
	60	人	↑	42	35	年	嶺北高校の1学年の生徒数	嶺北高校魅力化事業
1-2 2030年までに、地域特性や自然環境等を活かした、土佐町ならではの、土佐町だからできる教育が提供できるようにする。	15	回	↑	10	10	年	保・小・中・高の中で連携している取組の数	保・小・中・高連携
	4	教科	↑	0	1	年	全国学力・学習状況調査（中3-3教科、小6-2教科）において、全国平均を上回った教科の数	学力向上対策推進事業（校内研修、基礎基本の定着のためのドリル学習等）
	100	人	→	63	77	随時	学校応援団活動人数	学校応援団推進本部による学校支援
	4	回	↑	14	0	年	地域資源を活用した体験学習実施回数	ふるさと教育事業
1-3 2030年までに、社会及び自然環境の変動や、技術革新の進展等、世界が直面する様々な変化の中でも活躍できる人材へと育てることができる教育が提供できるようにする。	80	%	↑	95	45	年	教員のICT活用指導力の状況に関する調査において、「できる」と回答した教員の割合	ICT教育の充実（ICT機器の整備、教員の指導力向上、児童生徒の情報活用能力の育成）
	100	%	↑	100	84	年	家庭にインターネットを活用して学習ができる環境がある児童生徒の割合	
		箇所	↑	0	0	年	設置箇所数	子どもたちのサードプレイスの設置
1-4 2030年までに、土佐町で暮らす全ての人が、新たな知識を習得したり今ある知識を深めるため、生涯学び続けることができるようにする。	0	人	↑	1	2	年	不登校児童生徒等、教育を受けられない子どもの数	教育支援センター事業
1-5 2030年までに、仕事との両立や親自身の学び、地域における支え合いなど、土佐町で安心して子育てをできるようにする。	0	人	→	0	0	年	待機児童数	みつば保育園
	1	箇所	↑	0	0	年	病児・病後児保育の可能な施設の数	ファミリーサポートセンター等
	1	箇所	→	1	1	年	要保護児童対策地域協議会設置数	児童虐待予防等に関する地域ネットワーク体制

## 【現状と課題】

第6次土佐町振興計画町民アンケートでは、「子育て支援の充実」「学校教育の充実」はいずれの世代においても施策の重要度及び実感度ともに高い状況にあります。特に18歳未満の同居人がいる回答者では、「生涯学習社会の形成」も含めて、教育や学び、子育て支援について非常に高い関心が窺えます。

土佐町の年間出生数は近年21人～26人程度で推移しており、今後もしばらくはほぼ横ばいで推移していくことが見込まれます。また、合計特殊出生率は高知県及び全国を上回る値で推移しており、県内中央東保健所管内（土長南国地域）でも上位の数値となっています。

一方で、現在約3,800人の人口は、2030年には3,000人程度まで減少していくことが見込まれます。これに伴い、現在1,600人程度いる生産年齢人口（15歳～64歳）は1,250人程度まで減少していきます。また、現在約380人いる年少人口（0歳～14歳）も310名程度まで減少する推計となっています。中長期的には子どもの数の減少は避けにくい状況と考えられます。

これに対し、土佐町には町立保育園（みつば保育園）1か所、小学校（土佐町小学校）と中学校（土佐町中学校）が1か所ずつあります。また本山町に県立高校（高知県立嶺北高等学校）が1か所存在しています。

これまでもこれからも、次代を担う子どもたちは町の「宝」です。世界は様々な側面で急激に変化をしており、それに伴って、子どもたちが育つ環境に求められるものも増えてきています。土佐町ならではの環境や魅力を活かしながら、一方でひとりひとりに寄り添う質の高い教育や学びが得られる町としていくことが必要です。また、子育てを支える仕組みを充実させ、親自身も育っていくことができるようにしていくことが必要です。さらには、子どもたちだけでなく、町民ひとりひとりが、生涯学び続けられる環境づくりが必要となってきています。

（関連する町の代表的な計画）

- ・土佐町教育振興基本計画（教育大綱）
- ・土佐町子ども・子育て支援事業計画

## 【SDGs から見えてくる 2030 年の世界の姿】

○SDGs ゴール4では「全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」が掲げられています。世界的には、学校に通いたくても通えない、十分な教育を得られる人々もまだまだ少なくはありません。全世界的に、こうした状況の改善に向けた取り組みが進められています。

○教育は、子どもたちの成長だけでなく、その後の人生や、職業等の選択肢にも大きく影響を及ぼします。このため、幼児教育、基礎教育、高等教育それぞれの場面において、質の高い教育を全ての人が平等に得られるようにしていくことが重要となっています。また、教育機会におけるジェンダー格差（性別等による教育機会の格差）の解消や、生涯学習機会の確保も求められています。

○これら、いわゆる発展途上国のみを対象としたものではありません。世界中の経済、社会福祉の向上を促進するための活動を行う国際機関であるOECD（経済協力開発機構）の中で、政府支出に占める教育費の割合は加盟国中ほぼ最下位であるなど、日本国における取組もまだまだ十分なものとは言えない状況にあります。

○世界において様々な取り組みも広がっています。西アフリカのニジェールでは、国や行政の力ではな

く、その土地に暮らす親や地域の人たちが協力し合い運営する仕組みとして、下記のような住民参加型の学校運営「みんなの学校プロジェクト」が広がっています。

- 学校運営委員会を作り、住民集会で選挙を行い、運営委員を選出
- 住民が学校運営をしていけるための活動計画の作成
- 計画に沿って集会を開催し、より良い学校を作るために住民同士が話し合いを行う
- みんなで出した意見に優先順位を決め、一人一人が無理なくできるところから始める

○また、国際連合や国際連合教育科学文化機関（UNESCO）に関わる教育の在り方として、ESD 教育（Education for Sustainable Development：持続可能な開発についての教育）があげられます。現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動が広がってきています。

## 2030年の土佐町の「教育・学び・子育て」にむけて

### 地域のみなさんの声

- 子どもがのびのび育てられる土佐町
- 地域全体で支え合って町を担う子ども達が増える
- 子どもが増えて明るい楽しい学校づくり
- 学力だけでなく生きる力を身につけることができる町
- 挨拶できる子どもを！
- 先生が来たいと思う学校
- 医療費学費免除
- 生徒がのびのび正しく育つ教育方針
- 保小中高の維持
- 土佐町の歴史を学べる機会を増やす
- 幼児保育
- 良識ある思いやりのある子どもに育つ
- 子どものための何かイベントなど
- 子どもが楽しめる公園色々な遊具
- 子どもを連れて行きやすいカフェ
- 産後のヘルプ産後のケア欲しい
- 県外に出た子が帰りたくなる土佐町
- 一次保育を安くしてほしい
- おむつ引換券みたいな支援があれば
- 地域で子どもを大事にしている
- 自由に生きる力を育む
- 土佐町の魅力に気づきつくる教育
- 町民全員先生だ！
- 都会に負けない学力が身につく
- 地域で支え合うワンオペにしない
- 父親が子育てに参画していく
- 古いもの新しいもの両方学べる
- 盆踊り教育
- 保護者と学校との関係
- 「25人」のための教育
- 小さいことがプラスになる教育

- コロナやデジタル化に対応できる
- 国際教育科設立
- 社会経験がある人による教育
- 25/100 億 25%×0.0006%
- グローバルな人材育成
- 地域で育む土佐町人
- 町目線大人目線じゃない教育
- 何にでも使える力と特化した力が両立
- サバイバル能力、生きる力
- 自然を活用した体験学習
- 都市の良さも分かる
- 子育てが楽しいと思える町にしてほしい。親も育てて、支えてほしい。親はしんどい。何も頼れるものがない！ファミリーサポートなしでとても大変。保育園は労働してない人の子どもはあずかれない。
- 大人が頑張る姿勢を見せて、いろいろな分野で、一つになって、より良い土佐町を目指す。
- 大人の教育がもっともっと必要だと思う。研修会などやってもらえると有難い。
- 子ども達への対応が分からないとか、家庭でできる教育を学校へ任せているように感じ、実際に先生方も困っている。
- 学校と地域が一緒になって子どもを育てることが大切だと思います。
- 開かれた学校づくりを続けてほしい。
- 若い人が土佐町に帰って来ても働ける場が欲しい。
- 小学生ふるさとバス⇒町内のスポットを学習してまわる活動（学校の授業に参入）学校と町の協力が必要。
- 高校生の時、東京で枝打ち体験で自然に触れた経験がある。
- あこ後の活用、放課後の子ども勉強。ボランティア先生（父兄など）を募集する。
- そういえば新しい保育園の計画はどうなっていますか？SDGs をふまえた保育園にしたいですね。
- 教育員会と学校が協議することが必要。ここ最近の学校はいそがしい。新しいことをすることが難しく、むしろ仕事を減らさないとやっていけないという風を感じる。しかし、子どもは色々な経験が必要。大人の事情で子どもの経験が減るのは良くない。芸術や山登りをしたことない子もいる。学校でやりきれないところを教育委員会や社協で機会を増やして行ってほしい。
- ファミサポは正式な資格はいらないのでぜひ増やしていきたい。病後児保育の充実が必要。
- 親が子育てしやすい環境を整えて欲しい。お父さんが育休とるのは難しいけど、週に1回くらい早く帰るなどしてほしい。
- 移住したお母さんは心細くしんどい。産後のお母さんは心も不安定。ちょっとしたカフェはほしい。よそのお母さんも地域で支えられるようにしたい。

- SDGsの水について、土佐町には公衆トイレがない。ベビーカーを押しているお母さんのトイレがない。おむつ替えするところがない。改善して欲しい。
- 町内放送は昔小学生のコーナーがあった。朗読を録音して流してくれる。こどもの声が聞こえなくなったといっている。インタビューや朗読はみんな楽しみにしていた。
- 配慮に必要な支援について、教育支援センターに関する内容を盛り込んでいただきたい。学校へいけない、発達障害の方は思っている以上に多い。
- 私たちの子どもの時、小中学校の間に笹ヶ峰にある自然に触れあう機会が学校以外の離れたグループ（親子遠足など）などであった。そういう機会の良さが、町に出ていった後で分かり、まちに帰って子どもをそういう風に育てたいと思う。人を呼んでくることに力をいれているが、今の子どもにも力をいれてほしいな。
- 町のイベント行事等を支えてくれた社会団体が減っている状況。大人にとっても学びの機会。社会貢献活動をしっかりつくっていくこと、こどもにそういう姿をみせていくことが大事。おとなの学びの機会、社会教育・生涯学習につなげていくのも入れてほしい。
- 笹ヶ峰ウォーキングについて、2年前くらいに草刈りした。道づくり清掃活動を各地区でやっている。これからは、子どもをつれてって、一緒に今まで使われてきた道の再生を取り組んでいく。高知はとさこタウン。働いたら対価がもらえるように（現金ではなくお菓子など）したい。坂を歩くことは健康につながるのでスポーツにもつなげていきたい。
- 仕事と産業で教育もかかわるかも。キャリア教育。仕事を学ぶ場、であう場をつくるのが大事なんじゃないかなと思う。
- こどもたちの教育の部分でいろんな考え方があることを伝えたい。それがはやくチャレンジできる、アイデアが形にできる施策ができるとういことだと思った。
- 子ども達に対する取組だけでなく、大人や親自身が学びを深め育つことができる仕組みづくりが必要である。同時に、医療・福祉・子育て支援の充実、夫婦が等しく子育てに関わることができ、働きながらでも子育てしやすい仕組みづくりについても、計画に盛り込んでいく必要がある。
- 開かれた学校づくりについて検討の充実が必要である。教員も非常に忙しくなっている。学校と地域が一緒になって子どもを育てていくとともに、エドテック（教育テクノロジー）の活用なども検討しながら、教員側の負担を軽減していくことにも取り組んでいくことが必要である。同時に、学校へ行くことが難しい子ども達も思っている以上に多いため、教育支援センター等の取組も振興計画に位置付け、推進していくことを求める。
- 子どもたちの成長のため、「土佐町を知ること」「土佐町外との出会いの機会を充実させること」両面の充実が必要である。以前は小中学生が地域や自然に触れながら町のことを知る機会が多くあり、それらを通じて、地域住民も子ども達に関わることができていた。また、土佐町で育っていく上で、人との交流や、地域外の情報が不足しがちである。人との出会いの機会、キャリア教育や仕事を学ぶ機会についても充実させてほしい。
- 子どもが自然に触れる機会を推進していくべき。自然環境のモニタリングにも繋がる。

## 「目標(ゴール)2 スポーツ」

---

ここだからこそできるスポーツ。難しくなってきたスポーツ。

どちらも大事。多様な競技に触れることができる。

そしてそれが、健康や世代交流にもつながる。

土佐町の豊かな自然環境だからこそできるスポーツがあります。一方で、人口が減り土佐町ではなかなか難しいスポーツも増えてきました。スポーツは健康づくりや世代交流につながるだけでなく、地域で暮らし続けていくために欠かせないものです。人が減っても色々なスポーツを楽しめる環境をつくっていきます。

### 【“2030年の土佐町” ゴール2の実現に向けた具体的行動(ターゲット)】

- 2-1 2030年までに、人口が減っていく中でも、学校部活動や地域のスポーツクラブなどで、自分のやりたいスポーツに取り組めるようにする。
- 2-2 2030年までに、地域の自然環境など、土佐町の地域特性に適したスポーツに取り組みやすい環境をつくる。
- 2-3 2030年までに、各世代でスポーツを通じた健康づくりの環境があり、それらを通じ、成人以上の世代の健康を促進する。
- 2-4 2030年までに、地域総合型スポーツクラブなどを通じて、多世代で様々な競技に触れることができるようにする。

【“2030年の土佐町” ゴール2の実現状況を把握するための指標（インディケーター）及び施策】

ターゲット (具体的行動)	インディケーター（指標）							施策
	目標値	単位	方針	現状値	当初値	頻度	測定指標	
2-1 2030年までに、人口が減っていく中でも、学校部活動や地域のスポーツクラブなどで、自分のやりたいスポーツに取り組みやすいようにする。	5	部	→	5	5	年	土佐町中学校部活動数（運動部）	
	100	%	↑	60	60	年	部活動における外部指導員等の割合	部活動における外部指導員の活用促進
	6	部	↑	6	5	年	嶺北高校部活動数（運動部）	
2-2 2030年までに、地域の自然環境など、土佐町の地域特性に適したスポーツに取り組みやすい環境をつくる。	4	回	↑	4	2	年	地域資源を活かしたスポーツイベントの開催数	土佐町スポーツ振興事業
	25	人	↑	27	19	月	カヌーアカデミー生人数	カヌーアカデミー（競技カヌー）推進
	5	者	↑	1	1	月	スポーツツーリズム実施事業者数	競技カヌーのスポーツツーリズム推進及び合宿誘致
	1,000	人	↑	1262	678	月	アクティビティ利用者数	パドルスポーツ等を中心としたアウトドアスポーツ及びアクティビティによるツーリズムの推進
2-3 2030年までに、各世代でスポーツを通じた健康づくりの環境があり、それらを通じ、成人以上の世代の健康を促進する。	全国平均以上	%	→	0	全国平均以上	年	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き」肯定的回答	体力向上の推進（学校教育）
	500	人	↑	0	0	月	健康づくりイベント及び運動教室の参加者数	カヌーテラスでの健康づくりイベント及び運動教室を通じた地域住民の利用促進
2-4 2030年までに、地域総合型スポーツクラブなどを通じて、多世代で様々な競技に触れることができるようにする。	20,000	人	→	9,805	16,518	年	社会体育施設利用者数	総合型地域スポーツクラブを中心とした生涯スポーツの推進
	750	人	↑	387	249	年	ハビネススポーツクラブ会員数	さめうらカヌーテラストレーニング施設活用促進
	40	チーム	→	29	44	年	参加チーム数	土佐町駅伝大会
	1	回	→	1	0	年	自転車イベント回数	自転車を活用したまちづくり推進事業



## 【現状と課題】

前項でも触れたとおり、土佐町の年間出生数は近年 21 人～26 人程度で推移しており、今後もしばらくはほぼ横ばいで推移していくことが見込まれます。一方で、現在約 3,800 人の人口は、2030 年には 3,000 人程度まで減少していき、現在 1,600 人程度いる生産年齢人口(15 歳～64 歳)は 1,250 人程度まで、現在約 380 人いる年少人口(0 歳～14 歳)も 310 名程度まで減少する推計となっています。

現在、土佐町中学校の部活動スポーツは現在 5 競技(剣道、野球、卓球、カヌー、バレーボール)です。また、地域総合型スポーツクラブである Happiness(ハピネス)スポーツクラブでは約 15 団体、約 400 人の会員が活動をしています。

人口減少に伴い、団体競技など、土佐町内では取り組むことが難しいスポーツも増えてきており、やりたいスポーツができないことを理由に町外への進学を希望する子どもたちもいます。スポーツは健康づくりや世代交流につながるだけでなく、地域で暮らし続けていくために欠かせないものであり、土佐町の環境にあったスポーツ、現在土佐町では取り組むことが難しくなっているスポーツ、どちらも大事にしなが、多様な競技に取り組むことができる環境づくりが必要となっています。

(関連する町の代表的な計画)

- ・土佐町教育振興基本計画(教育大綱)

## 【SDGs から見えてくる 2030 年の世界の姿】

○第 70 回国連総会で採択された「2030 Agenda for Sustainable Development(我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ)」の中でスポーツは以下の通り言及されています。

「スポーツもまた、持続可能な開発における重要な鍵となるものである。我々は、スポーツが寛容性と尊厳を促進することによる、開発及び平和への寄与、また、健康、教育、社会包摂的目標への貢献と同様、女性や若者、個人やコミュニティの能力強化に寄与することを認識する。」

○OSDGs のゴール 3「すべての人に健康と福祉を」では、運動とスポーツを行うことはアクティブなライフスタイルと精神的な安定をもたらし、それが健康問題を解決するとしており、また、ゴール 5「ジェンダー平等を実現しよう」では、スポーツを通して意識改革を進めていくこと、またゴール 13「気候変動に具体的な対策を」では、スポーツイベントを通じて、環境への理解を深めていくことができるとしています。スポーツは、それぞれの目標を達成するために重要な役割を担っています。

○イギリスで発行されたガイドブック「Enhancing the Contribution of Sport to the SDGs」では、スポーツへの投資によって、急増する保健関連コストを抑え、教育や社会の一体性、ジェンダー平等を促進できると述べられています。また、日本のスポーツ国際戦略のビジョンでも、「2030 年までに、スポーツ国際展開を通じて、スポーツの価値を向上させ、スポーツを通じた SDGs に掲げる社会課題の解決にむけて、最大貢献を行うことを目指す」としています。

○また「スポーツ白書」を発行している、笹川スポーツ財団では、2030 年の我が国のスポーツについて以下のように取り上げます。

- ・日本が超高齢化社会を迎えるにあたり、今後のマーケットの対象は主に高齢者になり、高齢者に関連が深いパラスポーツが広く展開されると思われます。
- ・スポーツの価値を高めるための映像コンテンツやデータ・AI の活用、AR・VR など科学技術もか

なりの勢いで進歩しています。これらを効果的に組み合わせれば、健康の増進や持続可能な社会などの「社会課題の解決」にもつながります。

- 高齢化社会で車いすになる人が増える一方で、100歳、120歳まで元気な姿で生きられる可能性も高まり、車いすになった人たちなどのための障害者スポーツの推進、120歳までの余暇としてのスポーツビジネスとしてもさらに伸びていくことも考えられます。
- 部活動は、学校と地域が共に協働・融合しながらスポーツ環境を整える、そういう時代にきていると考えられる。

引用：2030年のスポーツの展望と可能性

[https://www.ssf.or.jp/thinktank/white\\_paper/2020/dialogue.html](https://www.ssf.or.jp/thinktank/white_paper/2020/dialogue.html)

## 2030年の土佐町の「スポーツ」にむけて

### 地域のみなさんの声

- スポーツ・学び今あるものを継続、活かす
- フットサルなど少人数の団体スポーツの指導者が来てくれたら…
- （団体スポーツなど）スポーツの指導者をよびたい。（選択肢の増加）
- 教育、国際教育科設立、スポーツクラブ活動の種目を増やす
- いろいろなスポーツにつながる「走ること」⇒基礎の強化
- 子どもに伝える機会。学校と連携し計画的に
- オリンピックで話題になるはず エクストリーム系のあそび
- スケートボードなど ※地形を生かしてコースを作る
- スポーツ推進。早い段階で外部の指導が受けられるように。
- 底上げができる指導をしていく。体力が大切。全てのスポーツにつながること
- 子ども自転車のレース（3km）今度は耐久レース。これ用の自転車。みんなで協力して、知り合いなどを生かして、プロアマが参加交流できる大会を。人も増える。
- おこぜの裏など道を生かして自転車レース
- 自転車レース絶対面白い 2人1組で自転車1台。
- 子どもの学び場やクラブ等があるとよい（子どもに学びの選択肢が少ない。選択できる環境にしたい）
- スポーツを通じた交流の場づくり
- 新しいものも必要（複合スポーツ設備等）
- 今あるものを継続、活かす（野球、ちびっ子相撲、親・地域との関わり、地域対抗運動会）
- 色々なスポーツできる
- 生涯現役！学びとスポーツの機械を
- 心身の健康づくり
- 湖面からうまれる土佐町人
- 温水プール・温泉混合施設を！
- スポーツに関する教育をやっていきたい。すごく可能性のある町、もっと皆さんの協力が必要。
- 水泳ならっている子（小学生）、けっこう多い。温水プールがあれば部活できるのに。
- ハピネスの電話番号とかネット検索してもでない。
- カヌーテラスで試験的に行われているヨガがとても良いです。「小さな場所」で「小さな人数」で体験できるスポーツの場があると最高です。
- スポーツコミッションの使い方。皆が使いやすいコミッションに。
- 部活動の指導⇒外部講師を積極的に、そして先生の負担減
- 外部講師は、ハピネススポーツコミッションに在籍するとか。

- 朝練（中学校）をどの部活も基礎運動にして 1 人の指導者でまかなえるようにする。（地域のボランティア等？）⇒教員の負担を減らす。
- Ateam でやっているみたいに保育・小学で基礎運動能力を高めて色々なスポーツに対応できる子をつくる。
- これ以上部活を減らさないように。部活は 2 つ選ぶのを基本とする。第 1 部活は月水金、第 2 部活は火木など。
- 10 年前高齢化社会の中、みんな昔ゲートボールしよったに。元気な年寄りが必要。元気な年寄りをつくって活発にスポーツしようよという意見をいれてほしい。
- SDGs は良く聞くと、戦略的に考えていきたい。バンガローが壊された資材を残して、その材をカットしペイントさせてオブジェにしようと思う。さめうら(S)ダート(D)グッド(G)スマイル(s)。自転車のタイヤのカラーも SDGs にすればよい。SDGs とこどもが密接にかかわることをしていきたい。
- 中学校、朝練用のバス出してください。地域により親の負担増えるのはおかしい。
- 今現在の生徒であれば、体育館（土佐町中学校）で間に合っているかもしれませんが、小中が交代で利用している構造で雨の日は小学生が思い切って遊べる場所がありません。考えていただきたい。スポーツだけでなく、体力づくりにもつながると思います。
- 老若男女スポーツをする人が増えるには、大会など発表の機会を設けることが有効ではないか。お金をかけずとも、場の提供のみの町営の大会開催なども考えられる。

## 「目標(ゴール)3 文化、図書館、アート」

---

昔から続いてきた「文化」や「伝統」を次の世代にも伝え、

小さいからこそ、豊かで多様な文化資本が存在するまちに。

そして、この町だからこそ新しい「アート」が生まれるまちに。

「文化」は人間力・共感力・創造力を養い、町の土台となっていくものです。

「読書のまち宣言」を始め、土佐町は知る人ぞ知る文化的な取組が多い町です。文化や芸術、神祭や地域行事など様々なイベント。昔からあるまちの「文化」を次の世代に伝えていきながら、一方で、新たなことに挑戦することにも寛容な町を目指していきます。

### 【“2030年の土佐町” ゴール3の実現に向けた具体的行動(ターゲット)】

- 3-1 2030年までに、地域の伝統的な文化が存続するとともに、多様な「アート」に触れることができる環境づくりが実現し、「アーティスト」が町で育ち、暮らしていくことができるようにする。
- 3-2 2030年までに、「文化」(アート、図書、地域文化、etc)に親しむ人が増えていくようにする。
- 3-3 2030年までに、「読書のまち」宣言に基づき、本に親しむ人が増えていくようにする。

【“2030年の土佐町” ゴール3の実現状況を把握するための指標（インディケーター）及び施策】

ターゲット (具体的行動)	インディケーター (指標)							施策
	目標値	単位	方針	現状値	当初値	頻度	測定指標	
3-1 2030年までに、地域の伝統的な文化が存続するとともに、多様な「アート」に触れることができる環境づくりが実現し、「アーティスト」が町で育ち、暮らしていくことができるようにする。		回	↑			年	文化イベント等の開催回数	
	5	回	↑	22	3	年	芸術文化関係行事（展示・発表）の開催回数	
	1	部	→	1	1	年	土佐町中学校部活動数（文化部）	文化・芸能活動の推進（吉野川美術展、憩いのつどい等）
3-2 2030年までに、「文化」（アート、図書、地域文化、etc）に親しむ人が増えていくようにする。	5,000	人	↑	7,836	2,529	年	文化施設利用者数	文化施設の充実と活用促進
	10,000	人	↑	4,805	4,518	年	町立図書館利用者数	「読書のまちづくり」の推進
3-3 2030年までに、「読書のまち」宣言に基づき、本に親しむ人が増えていくようにする。	1,150	人	↑	686	393	月	町立図書館読書カード登録者数	町立図書館の充実と活用推進
	100	%	↑	69%	94	年	絵本の貸し出し数年間100冊以上の園児の割合	ブックスタート事業

## 【現状と課題】

第6次土佐町振興計画町民アンケートでは、「文化芸術の振興と文化遺産の保存・活用」「生涯学習社会の形成」「環境・景観の保全と創造」といった項目は、施策の重要度・実感度ともに低い評価となっています。これまで、町の取組としては、あまり重視されてこなかった面もあるようです。

土佐町は小さい町のため、いわゆる「文化・芸術」に触れる機会は多くはないと思われがちですが、知る人ぞ知る文化的な取り組みが多い町の側面も持っています。2021年には「読書のまち宣言」10周年を迎えますが、嶺北地域唯一の町立図書館は設置から少なくとも50年以上経っており、学校図書館と合わせて、蔵書数（現在16,175冊）や仕組み等も年々改善されてきています。一方で、現在の読書カード登録者数は約1,700枚（新システム導入後のカード登録者数は約500枚）、年間貸出冊数は約10,500冊程度となっており、図書館を利用している方とそうでない方に二極化している側面もありそうです。

また郷土学習センター（青木幹勇記念館、土佐町民具資料館）でも取り組みが充実してきており、社会教育活動に参加する町民も少なくありません。

昔から続く地域のイベントや行事も多くあります。旧学校区ごとに開催される納涼祭や、各地域でのお祭り、神祭などは、次の世代にもしっかりと伝えていく必要があります。

文化は人間力・共感力・創造力を養い、町の土台となっていくものです。小さな町だからこそ、豊かで多様な「文化」に触れることができるまち。そして、地域独自の新しい「アート」が生まれるまち。昔からあるまちの「文化」を次の世代に伝えていきながら、一方で、新たなことに挑戦することにも寛容な町の実現を目指します。

（関連する町の代表的な計画）

- ・土佐町教育振興基本計画（教育大綱）

## 【SDGs から見えてくる 2030 年の世界の姿】

OSDGs では 2030 年に下記のゴールの達成が目指されています。

- ・SDGs ゴール4

2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする。

- ・SDGs ゴール11

世界の文化遺産および自然遺産の保全・開発制限取り組みを強化する。

○また、近年ではSDGs やサステナビリティ（持続可能性）をテーマにしたアート・芸術作品も増えてきています。SDGs の17のゴールをアートで表現し発信する活動、文化・芸術の持続可能性を考える活動も取り組みが始まっています。

○ UNESCO（ユネスコ、国際連合教育科学文化機関）では、文化分野でのSDGsに取り組んでおり、下記のゴールでの貢献を目指しています。

- ・ゴール2：文化多様性と伝統的知識は、食料の安全保障や持続可能な農業に資する重要な資産である。

- ・ゴール3：文化的文脈を考慮した知識とスキルの共有と健康管理。伝統的な保険による、幸福と質の高いヘルスケアの貢献
- ・ゴール4：文化を教育へのアクセス向上に役立て、地域文化に関するカリキュラム、教材、教育方法を推進する。質の伴った教育が文化多様性の評価に結びつき、若者に対して、クリエイティブ産業での起業や職に役立つ知識、スキルを提供
- ・ゴール5：女性及び女兒の能力強化を通じて、文化的財に関するクリエイター及びプロデューサーによる社会変化・変容を支えるとともに、文化遺産保護、文化的な生活への女性及び女兒の参画を推進

○平成30年に文化芸術推進基本計画が閣議決定され、文化芸術の「多様な価値」を活かして、「文化芸術立国」の実現を目指すこと示しています。文化芸術の目指すべき姿として、4つの目標を掲げており、2030年に向けて以下の目標への実現が期待されます。

目標1 文化芸術の創造・発展・継承と教育

文化芸術の創造・発展、次世代への継承が確実に行われ、全ての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会が提供されている。

目標2 創造的で活力ある社会

文化芸術に効果的な投資が行われ、イノベーションが生まれるとともに、文化芸術の国際交流・発信を通じて国家ブランドの形成に貢献し、創造的で活力ある社会が形成されている。

目標3 心豊かで多様性のある社会

あらゆる人々が文化芸術を通して社会に参画し相互理解が広がり、多様な価値観が尊重され、心豊かな社会が形成されている。

目標4 地域の文化芸術を推進するプラットフォーム

地域の文化芸術を推進するためのプラットフォームが全国各地に形成され、多様な人材や文芸芸術団体・諸機関が連携・協働し、持続可能で回復力のある地域文化コミュニティが形成されている。



## 2030年の土佐町の「文化・図書館・アート」において

### 地域のみなさんの声

- 土佐町オリンピック、地区対抗、町全体。
- 納涼祭、町民祭、なくしたくない。
- 地区放送充実
- 十七夜行くまで真っ暗。さみしいそこも提灯あたりお店があったらいい。
- 泳ぎたくはない。アクティビティが盛んやと人も多く来るろうけど …（釣りの人にはまた違う影響も）
- プロジェクションマッピングしたらよい。（神社）
- ぼんぼり（中島の公園）がきれいやった。春 町民お花見。
- やまびこカーニバルの次日にスポーツ大会やりよったのがよかった。
- 出店もっと色々な店（てづくり市に来ている人とか）も出せるようになったらよい。
- コロナもあっておまつりをやる事に心配もある。
- ダム周辺（広場）昔イベントやった事がある（冬）大人になっても覚えちゅう。
- 秋-運動会、春-お花見（イベントとして）集まる。
- 子どもたのしい。お酒のんだり+防災、夏-おまつり
- 十七夜をベースにもっと人がくるおまつりに。
- 冬-イベント、みんなが集まれるような。
- ウィンターカーニバル、過去に開催した 運営などの体制むずかしかった
- 乗車体験！トミカも協賛してくれたらもっといい。トヨタやホンダも。
- リアルトミカ博ダムから見る。実際の車を遠くからみて楽しむ。いろんな重機、はたらく車をみる。
- うまい具合に本気で結ばれたい男女などが出逢えるイベントがあるといいと思う。
- 草食でなく肉食男子も大切。そんなイベント（出逢い）がやれたら楽しいと思う。
- 統一してイルミネーション飾りつけ。ダムの桜並木、食事できるイベント。人が出会うイベント。
- 冬の食べもの
- 集うところ増えていほし。
- 実は文化的なお土地柄であることを利用していく。
- 図書館の維持。
- 新たな事に挑戦できる町
- 寛容性
- 文化・芸術・本
- 文化が人間性を高めて豊かな町になっていく
- 人間力・共感創造力

- 人生に彩りを
- いままでの分かに新しい価値を加える
- 本から生まれる土佐町人
- 文化芸術を生活の中に
- みんなの図書館
- 係の方が静かでいろいろ聞きづらい。話しかけづらい。カードを作りにくい。
- 男性（大人）の利用者あまりみかけない。
- 図書館があまり身近でない。
- 図書館に人が自然と集える施設を考えては、歩いていても見える図書館にしてほしい。「読書の町宣言」を誇れる環境をつくりたい。
- 図書館の地下をまた入れるように。使っていないのがもったいない！メルヘンな空間なのに…なぜ使わないのか。
- 中学生・高校生・大人がおちついて勉強できるスペースがほしい。私は中学生の時一番利用しました。
- 図書館に関しては、土佐町は読書のまち宣言をしているが読書のまちと思ったことがない。利用率や図書館に入れる財源はどうだろう。図書館のことについてもりこんでくれるとありがたい。
- 図書カードをつくられているか。目標をたてているが、達成はされてなかったと思う。利用カードの発行目標からでもよいと思う。具体目標を上げるといいかなと思う。
- 子どもが町をみて、その土地（地区）の行事や歴史を知ることは大事である。
- 地域の行事に変化が無いと、飽きが来てしまうし、子ども達が魅力的に感じてもらえる行事が良いと思う。地域の人達が楽しいと思わせないとうまくいかないと思う。
- アート系のサークルをつくる。
- サークルをつくって大人・子どもで遊ぶ。
- 伝統文化を守る活動
- 文化の多様性、接触機会を増やす。
- ふるさとバスがあった。全員一緒になって一日まわるツアーがあった。各地区によって、この地区で伝統の話をしてくれたり、教えてくれるようになった。他の地域の子・伝統行事を知らん子が多い。ぜひそういうことをやると楽しいかなと思う。
- 「ひとはひとなか、木は木なか」ということばがある。人は人の中でしか生きていけないので、アートを通じていつでも集まってきてお互いが親睦を深めていく想いのあることをみんなで固めていく。本当のまちづくりではないかなと思う。
- 六十歳になると何かを習得している。その習得したものを共有できること。ひとりひとりの生きてきた生き様についておじいちゃんおばあちゃんが教えられる場があると良い。
- ハピネススポーツクラブみたいに文化系の組織をつくり支援する。絵画、映画、茶道、読書会、落語など。

## 「目標(ゴール)4 自然環境と農畜林業」

自然を大切に活かすことで、豊かな川や山を育む。

自然を守るだけでなく、それを上手に活用し、

ひとりひとりが望む稼ぎを得られるような、新しいかたちの  
農畜林業をつくる。

豊かな自然、そして自然を活かした第1次産業は土佐町の大切な資源です。  
従事者の高齢化や担い手不足、決して広くはない耕地面積、急峻な地形など課題も多くありますが、  
新しい技術も取り入れながら、「農ある暮らし」「緑ある暮らし」を大事に、小さくても頑張れる、  
生業の一つとして続けられる農畜林業をつくっていきます。

### 【“2030年の土佐町” ゴール4の実現に向けた具体的行動(ターゲット)】

- 4-1 2030年までに、農業、畜産業、林業について、生産者が生活していけるとともに、生態系の維持や気候変動への対応、土地と土壌の改善等を実現し、持続可能な状態とする。
- 4-2 2030年までに、農業、畜産業、林業いずれにおいても、新たな担い手が参入できる環境をつくり、生産者の平均年齢を持続可能な水準まで引き下げる。
- 4-3 2030年までに、専業及び兼業や生産の方針等についてそれぞれの人が望むかたちの農畜林業を選択した上で、個々の望む水準の収入が得られるようにする。
- 4-4 生産に係るコストの低減や、鳥獣被害への対策を通じ、生産者が生涯現役で農畜林業を続けることができるようにする。
- 4-5 2030年までに、農畜林業が持つ多面的な機能を評価できる仕組みをつくるとともに、これらの機能を十分に発揮できるようにする。
- 4-6 2030年までに、町のカーボンニュートラルを実現するだけでなく、他地域のカーボンオフセットにも寄与することを通じ、地球全体の脱炭素化の実現や気候変動への対策に寄与できる状態とする。
- 4-7 2030年までに、水源のまちとして、持続可能な水源の保全及び涵養、河川の水質及び水量の維持・増加を実現し、土佐町はもちろんのこと、下流の流域自治体の暮らしの持続可能性にも寄与できる状態とする。
- 4-8 2030年までに、自然環境を活かした循環型かつ自立分散型のエネルギーを活用する町とする。

【“2030年の土佐町” ゴール4の実現状況を把握するための指標（インディケーター）及び施策】

ターゲット (具体的行動)	インディケーター（指標）						測定指標	施策
	目標値	単位	方針	現状値	当初値	頻度		
4-1 2030年までに、農業、畜産業、林業について、生産者が生活していけるとともに、生態系の維持や気候変動への対応、土地と土壌の改善等を実現し、持続可能な状態とする。	34,601	a	→	34,575	34,000	年	協定面積	中山間地域等直接支払交付金
	60	ha	→	9.9	60	年	間伐面積	緊急間伐総合支援事業費補助金等
	26	ha	→	23.14	24	年	人工造林面積	森林資源再生支援事業費補助金
	14	千t-002	↓	28	28	年	GHG（温室効果ガス）排出量	
	100	千t-002	→	100	100	年	CO2吸収量（カーボンオフセット）	
			↑			年	吉野川河川水質	
4-2 2030年までに、農業、畜産業、林業いずれにおいても、新たな担い手が参入できる環境をつくり、生産者の平均年齢を持続可能な水準まで引き下げる。	1	人	↑	1	3	年	新規就農者数	新規就農定着支援事業費補助金等
		歳	↓		70	年	農業者平均年齢	
	4	戸	→	4	4	年	畜産農家数（肥育）	土佐あかうし子牛価格安定促進事業費補助金等
	26	戸	→	22	26	年	畜産農家数（繁殖）	土佐あかうし受胎卵移植推進補助金等
		頭	→	45	39	年	戸あたり飼養頭数	
	1	人	↑		1	年	新規林業者数	自伐型林業研修業務委託料等
4-3 2030年までに、専業及び兼業や生産の方針等についてそれぞれの人が望むかたちの農畜林業を選択した上で、個々の望む水準の収入が得られるようにする。		円	↑			年	農家所得	
		円	↑			年	林業者所得	
4-4 生産に係るコストの低減や、鳥獣被害への対策を通じ、生産者が生涯現役で農畜林業を続けることができるようにする。	21	人	→	13	21	年	営農継続者数	施設園芸品質向上対策支援事業費補助金
	7	組織	→	5	7	年	集落営農組織数	集落営農組織経営支援事業費補助金
		人	→			年	林業継続者数	
	0	日	↓			年	林業無事故日数	
	1	人	→		1	年	新規狩猟者数	狩猟免許取得補助金
4-5 2030年までに、農畜林業が持つ多面的な機能の評価できる仕組みをつくるとともに、それらの機能を十分に発揮できるようにする。	8,560	a	↓	10,700	10700	年	被害面積	有害鳥獣被害防止対策備購入事業補助金
	34,601	a	→	34,575	34,000	年	協定面積（再掲）	中山間地域等直接支払交付金
	60	ha	→	9.9	60	年	間伐面積（再掲）	緊急間伐総合支援事業費補助金等
4-6 2030年までに、町のカーボンニュートラルを実現するだけでなく、他地域のカーボンオフセットにも寄与することを通じ、地球全体の脱炭素化の実現や気候変動への対策に寄与できる状態とする。	26	ha	→	23.14	24	年	人工造林面積（再掲）	森林資源再生支援事業費補助金
	14	千t-002	↓	28	28	年	GHG（温室効果ガス）排出量（再掲）	
4-7 2030年までに、水源のまちとして、持続可能な水源の保全及び涵養、河川の水質及び水量の維持・増加を実現し、土佐町はもちろんのこと、下流の流域自治体の暮らしの持続可能性にも寄与できる状態とする。	100	千t-002	→	100	100	年	CO2吸収量（カーボンオフセット）（再掲）	
			↑			年	吉野川河川水質（再掲）	
4-8 2030年までに、自然環境を活かした循環型かつ自立分散型のエネルギーを活用する町とする。	100	%	↑	100%	0	年	水循環解析割合（再掲）	土佐町水循環解析基礎調査
			↑			年	再生可能エネルギー施設導入数	
		↑			年	エネルギー自給率		

## 【現状と課題】

第1次産業（農畜林業）は土佐町の基幹産業です。

第6次土佐町振興計画町民アンケートでも、「農業、林業、畜産業の振興」はいずれの世代においても非常に重要であると考えられています。一方で、「畜産」については施策の実感度も高いのに対して、「農業」「林業」では実感度が低い状況にあります。畜産と同様に、さらに充実した取組が求められています。

産業別特化係数（全国の平均的な構成比と比較したときに、その地域がどの産業に特化しているかを表す指標）でも、土佐町では農業及び林業への高い特化が見られます。一方で、特に農業では、担い手の8割以上が60歳以上であるなど、極端に高齢化が進行してきています。また農業、林業いずれにおいても、経営体あたりの産出額や収入は全国平均、高知県平均を下回っています。農業では農協の取り扱いが減少し小売業者への販売が増加していること、林業でも林産物販売金額が増加していること等、近年特徴的な動きも見えていますが、産業としては課題の多い状況と言えます。

第一次産業は単に地域の産業であるだけでなく、それが生業として営まれることで、地域の環境を守ることに繋がっています。また、第一次産業のあり方や、それらを取り巻く技術・テクノロジーも多様化してきています。ひとりひとりの担い手がその人の望む収入を得ることができる、これからも持続可能な新しい形の農畜林業をつくっていくことが必要となっています。

（関連する町の代表的な計画）

- ・農業：土佐町将来ビジョン、水田フル活用ビジョン、人農地プラン、  
農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画、農業委員会活動計画、集落協定、  
指定棚田地域振興活動計画
- ・林業：土佐町森林整備計画

## 【SDGs から見えてくる 2030 年の世界の姿】

○2030年にかけて、土佐町や日本の人口は減少していきませんが、一方で、世界の人口は、アジアやアフリカ地域を中心に11.5億人増加し85億人に達することが見込まれています。これに伴い、2050年には、今と比べて食料が1.7倍必要になるという予測があり、そのための食糧確保が課題となっています。

○飢餓人口（十分な食料が手に入らず、栄養不良になっている人びとの数）は、長く減少を続けていましたが、最近になって、再び増加に転じています。誰もが栄養のある食料を十分得られるようにするためには、環境と調和した持続可能な農業を推進し、生産者の所得を確保し、農業生産性を高めるための研究・投資を行う必要があります。経済、社会、環境の産側面を横断する目標設定が求められています。

○また、飢餓の原因の一つに自然災害が挙げられます。世界で食料不足に苦しむ人たちの8割以上は、自然災害が発生しやすい場所で生活しています。地震や津波、洪水や干ばつなどが起こると、農作物や田畑が被害を受け、家や仕事も奪われ、食料を手に入れることが難しくなります。

○国連が発表した報告書では、持続可能性について考慮されている、健康的な食事に切り替えられるならば、莫大なコストを節約しながら、飢餓への逆戻りを阻止する助けになると指摘されています。それにより、2030年に年間1.3兆米ドルに達すると推定される不健康な食事に関連する健康コストをほぼ完全に相殺できます。一方で、食事に関連する温室効果ガス排出の社会的コストは1.7兆米ドルと

推定され、最大 4 分の 3 を削減することができます。

○この報告書では、栄養価の高い食品の費用を削減し、健康的な食事が手頃な価格で手に入りやすくするために、食料システムの変革を求めています。具体的な解決策は国や地域によって異なりますが、全体として言えることは、食料サプライチェーン全体、食品環境、および貿易、公共支出、投資政策を形作る政治経済における介入に答えはあります。本報告書では政府に対し、以下の行動を求めています。

- 農業への取り組みにおいて栄養面への考慮を主流化する
- 非効率性や食品廃棄を減らすことを含め、食料生産、保管、輸送、流通、およびマーケティングにおけるコスト増加要因を削減する
- 地元の小規模農家がより栄養価の高い食品を栽培・販売し、市場へのアクセスを確保することをサポートする
- 子どもの栄養を最もニーズの高い項目として優先する
- 教育と広報を通じて行動変容を促進する
- 栄養を国の社会保護システムと投資戦略に組み込む

○人口増による食肉や魚の需要が増すことで、たんぱく質の供給源が不足することも予測され、「タンパク質クライシス」とも言われる対策として、「昆虫食」は、高タンパクで、養殖が比較的容易な食材として注目されています。また、大豆などを使った“代替肉”は、健康志向も追い風になってすでに米国を中心に広がっており、生産者や企業の連携による高付加価値商品の開発や経済効果が期待されています。

## 2030年の土佐町の「自然環境と農畜林業」において

### 地域のみなさんの声

- 自然豊かな土佐町を取り戻す！現状のスギ林から里山化して、地域をもりあげてほしい。（自然体験・交流・生業が持てればよい）
- 瀬戸川や地蔵寺川の水源が保たれていること山が生きていてほしい。
- きれいな空気、水は変わらずあってほしい。
- 土佐町の未来、自然を大切にしてほしい。山、川、道の整備。
- 川にたくさんの魚がいる。
- 自然・文化、いつまでも誇れる自然の美しさ⇒子供に教えていきたい、祭りごとを受け継いでいけるよう後継者教育
- 自然。陳ヶ森の見張らし台周辺の継続的整備
- 自然林に返せたら …
- 地域にはそれぞれの歴史がある。歴史を大切にしながら自然環境を守り活性化する
- 緑が多い町（自然が豊かなわけではないような…）
- 人と自然が共存している土佐町（山が手入れされている、川がきれいに保たれている、川がきれいに保たれている、人が自然をめでている）
- 自然を活かす
- 水源地であることの再確認
- 石原地区は草刈りなどで町内でも雑草に関してはきれいです。この状態が続きますように。
- 草刈りは大切。それを一つの職業として成立させてはどうでしょう。高給で。
- 自然。町道の道草刈り。今は地元民がしているが10年後は労働力がなくなるので今後方向性を考えて欲しい。
- 農業に魅力がない。土佐町に目玉の特産品を!!成功している馬路村を見習って!!
- 「第1次産業」とかではなく、田舎（地方）ならではの“仕事”を確立する。
- 商品開発。いたどりラー油
- 自然を生かした学習
- あかうしアイス。一回だけ食べるアイス
- 畑があればえいってもんじゃあない。
- 新しい農業のあり方
- IT 農業
- 共同農場
- 農業をとおしたコミュニティ
- 農地の維持心配

- 環境維持と公共事業化
- 水でいきる農畜林。
- 集落営農的な農業をするための事業化と補助を。今、各戸で田植えからもみすりまで機械を持っているが、10戸とかくらいで協同機械（保管）場所を用意する補助事業がほしい。
- 野菜の価格競争が農業者の間で激化。共倒れしている。→一定のルール、基準を町が指導すべき。
- 空家・耕作放棄地を無くすべく一次産業を盛り上げてほしい
- 農、畜、林業で生活できる飯の食える町に支援策の充実
- 農林業で生活できるような体制づくり
- 農業で生活できる収入があるように
- 主産業農業では食べていけない。子どもが土佐町を離れる。
- 町内の農業自給率を上げる（町内で経済を回す）
- 自然を生かした里山づくり。観光・体験へとつなげていく。
- 地域地域が10年を目標にした環境づくり。花、花卉の植栽等
- 自然と共存した生活
- さめうら荘、ダムサイドに花木の森を作り、四季折々の花を楽しめる。観光にも役立つ。
- ころろ広場の周囲にプラタナスのような落葉樹を植えてほしい。
- 山を活かせたら良いのではないか。
- 自然は多いが公園（みんながpicnic等できるような）がない
- 早明浦湖の周りの森林整備で自然アピール
- 生活文化と自然の共存共生
- 森林・木が成長して影が広がっている。冬が寒い。→対策を!! 伐採の相談をしているが進まない。
- 土佐町には木材がふんだんに恵まれているのにそれを専門に活用する方法等を考える林業課のような課がないのが不思議です
- 林業関係で生活できるような仕組みづくり（移住者の人も）
- もっと手軽に畑をはじめられるように
- 1ヵ月〇円とかのレンタル畑があればすこしでも自給自足になるのでは。
- 需要と供給のバランスが合わない。生産者は「高く売りたい」消費者は「安く買いたい」結局安く売らないと収入がない！農業では生活ができなくなる。作る事を応援する仕組みはないか？
- 鳥獣害をなくすには豊かな森林づくりが必要では。空き家周辺や耕作放棄地はいのしし等の隠れ家となる。鳥獣害は高齢者のいきがいそぐ。
- 半農半Xという言葉が使われている。土佐町なんかの地域に当てはまる。ひとりひとりが稼ぐ農畜林業がまさにそうかと思う。農村に目を向けていく人が多いので、農村に移住して欲しいとおもうが、移住した人は結局農業から離れている気がする。農業だけで生活は難しい。ちょっと農業をしながら、都会の能力を活かして、自然にも関わりながら生活できるよ。農畜林業ができることをアピールすると良い。



- 都会から草刈りを体験してもらえらる。草刈りはちょっと練習したらできる。地域の見た目が変わるので田んぼを作ろうとなる。
- 草刈りは本当に必要な取組だと思ふ。ビジネスチャンスになると思ふ。企業が来て夏場だけの仕事になる。あとは冬場の仕事をみつけてくること。田舎仕事コーディネーターなど、課題をビジネスに変えていけるような発想を行政施策として仕掛けていけるとよいなと思つた。

## 「目標(ゴール)5 仕事・産業」

---

新しいチャレンジを町民全員で応援できるまち。

何かを始める時のハードルを乗り越えやすくする仕組みをつくり、

若い世代にとって魅力的な働く場所と雇用をつくりだす。

地域に新しい産業を生み出す。小さな町で何か新しいことを始めるのはいろいろな苦勞も伴います。「何かがやりたい」と思ったときにプレッシャーをかけるのではなく、町民全体でそれを応援できる町。町民のやりたいことを町民が出資して応援する町。それらを通じて、魅力的な産業や雇用がある町にしていきます。

### 【“2030年の土佐町” ゴール5の実現に向けた具体的行動(ターゲット)】

- 5-1 2030年までに、町内で新たな起業や新事業が継続的に生まれるようにする。
- 5-2 2030年までに、新たな起業などにチャレンジしようとする人を支える仕組みや支援の環境があり、町民がそうしたチャレンジを応援できる状態にする。
- 5-3 2030年までに、町で働きたい若者の様々な希望やニーズに対応し、必要な収入の確保はもちろん、やりがいや経験、仕事の面白さを感じられる魅力的な雇用が増えるようにする。

【“2030年の土佐町” ゴール5の実現状況を把握するための指標（インディケーター）及び施策】

ターゲット (具体的行動)	インディケーター（指標）							施策
	目標値	単位	方針	現状値	当初値	頻度	測定指標	
5-1 2030年までに、町内で新たな起業や新事業が継続的に生まれるようにする。	1	人	→	2	3	年	起業家数	しごと創生スタート事業（起業支援事業）
	3	社	↑	2	0	年	起業数、新規事業数	地域経済循環創出事業
5-2 2030年までに、新たな起業などにチャレンジしようとする人を支える仕組みや支援の環境があり、町民がそうしたチャレンジを応援できる状態にする。	1	人	→	2	0	年	起業準備者数	チャレンジショップ事業
	100	%	↑	30	0	年	起業等への資金面の支援の仕組づくり	地域経済循環創出事業
5-3 2030年までに、町で働きたい若者の様々な希望やニーズに対応し、必要な収入の確保はもちろん、やりがいや経験、仕事の面白さを感じられる魅力的な雇用が増えるようにする。	3	件	→	5	1	年	商品開発・販路拡大件数	地域特産物地産外販推進対策事業（地域資源活用事業）
	2	件	→	0	0	年	求人問合わせ件数	嶺北地域ふるさとテレワーク推進事業
	3	事業者	→	1	0	年	商談会出店事業者	圏域事業者販売等支援事業
	3	社	↑	2	0	年	起業数、新規事業数（再掲）	地域経済循環創出事業
	100	%	↑	100%	0	年	産業連関表の策定及び更新	産業連関表策定事業

## 【現状と課題】

第6次土佐町振興計画町民アンケートで最も実感が低い施策のひとつが「雇用対策の充実」です。町民、特に若い世代が地域で暮らし続けていくためには、仕事や雇用が必要です。持続可能な土佐町の実現に向けて、取組の強化が必要となっています。

土佐町の就業者数を見ると、町全体の人口減少に伴い平成17年からの10年間で就業者数が約300人減少しています。農業、建設業、卸売・小売業、教育などの分野で回復傾向にある一方、林業、運輸・情報通信業、医療・福祉などでは減少幅が大きくなっています。

産業別付加価値額（企業単位）で見ると、医療・福祉分野が全体の約40%を占めており、これは高知県や全国と比較して、非常に大きな割合となっています。製造業の事業所数、従業者数は概ね横ばいである一方、小売業では事業所数、従事者数ともに大きく減少してきています。近年、町が注力してきた観光分野では入込客数等が増加しています。

地域経済の自立度を示す地域経済循環率は現在53%となっており、2010年の40%から向上してきてはいますが、まだまだ地域外への流出が多い状況です。産業別移輸出入収支額（産業別でみた地域外からの購入と地域外への販売の収支）でも、建設業、公務、保険衛生・社会事業などで町外への流出が多くなっています。

現在の土佐町は、産業構造の偏りや、地域外へのお金の流出が大きい状態にあります。若い世代が地域で暮らし続けていくためには、こうした地域外への抜け漏れを埋めるような新たな産業を創出し、地域内経済循環を高め、持続可能な産業構造としていながら、地域に新たな雇用を生み出していくことが必要となっています。そして、そうした新しい産業が生まれやすい環境としていくことが必要となっています。

（関連する町の代表的な計画）

- ・土佐町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・土佐町SDGs未来都市計画

## 【SDGsから見えてくる2030年の世界の姿】

○持続可能な開発ということ、環境の持続可能性の偏りがちでした。これを人類の繁栄とその前提となる地球の繁栄という視点として、経済、社会、環境という3側面を同じ土俵で進めること、「経済成長と環境悪化の分断を収める」ことが必要になっています。大量生産大量消費で、温室効果ガスも大量排出する従来型の経済成長から脱却し、より少ない資源投資で生産性を挙げることによって経済成長を達成するモデル構築が求められています。

○2030年には、道やダム、電気をつくる発電所など、私たちの毎日の生活を支えている基本的なものや、病院や学校や公園など、安心・安全に暮らし続けていくためになくてはならない施設・インフラがすべての人に公平に利用できるようになることが目指されています。

○また、資源をより無駄なく使えるようにし、環境にやさしい技術や生産の方法をより多く取り入れられるようになっており、そのためにイノベーションや研究開発が積極的に進められています。

○2030年までには海を含めた地表全体が、100%インターネットでカバーされる可能性があると言われています。

○持続可能な産業化という視点では、資源利用効率の向上やクリーンで環境に配慮した技術を駆使した産業化が主体となっていきます。その中で、インターネットやIoT技術、あるいはAIや3Dプリンタ等の開発により更なるイノベーションが期待されます。

## 2030年の土佐町の「仕事・産業」において

### 地域のみなさんの声

- 魅力的な雇用の場所
- 外国人の生活できる町に
- 働ける場所
- 沢山の人が雇える企業
- 仕事・産業雇用の増加
- 子どもたちが帰ってこれる環境。仕事。
- 親子でつながる仕事、牧場とか
- 若者が働ける場所。給料が良くならなければ!!
- 仕事大きな企業を誘致する、雇用が増えるように
- 地域産業が、せめて今の状態をキープできていたらいいと思う。
- ネット環境とテレワークの人の短期住居整備。
- 若い人の仕事がほしい。
- 水とともに生きると掲げるのならば水資源機構と連携し雇用創出すべき
- 何か始めるのにチャンスのみ
- 好きな事を仕事に
- 町内で循環する経済をすすめる
- 在宅ワークの人の移住支援
- 子ができる子が増える産業
- 労働力
- Here comes a new challenge (ストⅡ)
- 資金調達
- 遊休地を有効利用
- 世界の流れにのって行く
- 希少性を力にできる
- ダム工事がどう影響するか
- ダム工事。お弁当屋さん作ったらもうける
- かわりにやってくれる人ネット商売
- 土佐町版マネーの虎
- 自然から学ぶ産業
- 精がつく専門店
- バイオ発電の町。

- 不動産業の確立
- 観光協会は本気で人口倍増
- 早明浦ダムの有効活用（官民共存で）
- 木質バイオマスを活用！（プールとか、健康増進対策）
- カフェはあり続けてほしい。居酒屋も。
- 太陽光パネルを設置して売り上げを還元するのがよい。→土佐町のエネルギー産業にできないか
- 心安らげる場所が欲しい・ショッピングセンター・喫茶店
- 給油所～高知銀行 生活するのに必要なもの。
- 新幹線田井駅
- 集合農園作る（だれでも農園参加）土地（公的）。
- 昔はお店（文具やお菓子）が多かったのに駄菓子屋さんない。
- 町立葬儀屋。100歳割引とか。
- ユーチューバー
- 土佐町発信 YouTube チャンネル。
- 水が仕事になる
- 空き家の中の整理等の仕事
- 空地の有効活用（民にも情報を）
- 小規模の公共工事等の発注をして、地元への税収還元を。例：道路の維持管理、水路はコンクリート護岸ではなく、自然と調和する護岸にし、メンテナンスを小さく発注する。
- 本屋さんがあればよい。
- 出会いの場にもなる簡易宿泊休憩所をつくりたい（土佐町立）
- 土佐町プレミアム商品券をモデルケースとして、全国に発信したらいいのでは？（かなりよかった）
- 夜が活気づいてほしい。（酒）
- 仕事・産業大学キャンパスの誘致し第1次産業を教えたり新しい産業も設立。キャンパスができることで若者が増え、シェアハウスの運営や食堂なども活用でき、新たな発展につながる。
- 花も咲いて檜山トンネルも通ったら、そこでみんなが産業を持ち、生計を立てていけるような未来を。
- 自営業したいという高校生。起業ができるまちづくりを。
- 電話注文できる店ができ、配達してほしい。
- 働ける場があって生活できれば、土佐町に帰ってきたい人が沢山います。町外の流出について、建設業については、地元の職人が育たない状況にある。町外から建設業が入って仕事をする状況がでてくる。高校生中学生も地域の仕事の環境をみせていくことが必要。
- 修行としていくのに補助をしていただくような補助出資があると良い。修行してきて、地元に戻ってきて仕事してくれるのであれば返す必要ないという仕組み。働き出したらすぐ収入も必要、結婚してすぐ生活しなければならぬ若い子に、そのような訓練しやすい環境をつくっていただければと思う。

- 高知県は林業大進校ができ、学校で林業を覚えるスタイルができてきた。そこの就職説明会では雇用の待遇が掲示され、「有給が望んでとれるのか」、「住宅があるのか」、「ボーナスがあるのか」で、横並びでみられて、就職候補からはじかれる経験をしている。また、実際きてもらってもまた続くかが別の問題であり、ずっとお客さん扱いにするわけでない。ここ7~8年は新規の方を入れる仕事もしてきたが、全然解決できない状況。
- いくら地域に魅力があっても入口の労働条件でふるいに落とされてしまう状況。就職仕事の情報について、土佐町の求人が伝わってこない。



## 「目標(ゴール)6 愛(地域愛)」

---

子どもたちが心から「土佐町が好き」と言える町。

世界に羽ばたいた子どもたちが「帰ってきたい」と思える町。

そのためには、大人たちが心から土佐町を愛していること。

土佐町で生まれた子どもたち、土佐町で育つ子どもたちが、心から「好き」と言える土佐町にしたい。進学や就職で町外に羽ばたいても、いつか「住みたい」「帰ってきたい」そう思える土佐町にしたい。そのために最初にできることは、土佐町で暮らす大人ひとりひとりが土佐町を好きと言えること。

### 【“2030年の土佐町” ゴール6の実現に向けた具体的行動(ターゲット)】

- 6-1 2030年までに、土佐町のことを好きになる・好きでいられる機会がある状態とし、土佐町のことを心から好きである大人や子どもが増えるようにする。
- 6-2 2030年までに、誰ひとり取り残されることないかたちで地域の様々な活動を応援できるようにする。
- 6-3 2030年までに、町で暮らす全ての人にとって、暮らしやすい、美しい町にする。

【“2030年の土佐町” ゴール6の実現状況を把握するための指標（インディケーター）及び施策】

ターゲット (具体的行動)	インディケーター（指標）							施策
	目標値	単位	方針	現状値	当初値	頻度	測定指標	
6-1 2030年までに、土佐町のことを好きになる・好きでいられる機会がある状態とし、土佐町のことを心から好きである大人や子どもが増えるようにする。	4	回	↑	14	0	年	地域資源を活用した体験学習実施回数	ふるさと教育事業（再掲）
	20	事業者	→	19	20	年	体験型観光実施事業者数	体験型地域資源開発・活用事業
	5	人	↑	7	3	年	地域の魅力を発信できるレジャーカヌーガイド人数	レジャーカヌーガイド育成事業
	55	%	↑	38.1	38.1	年	5年後の幸福度	町民幸福度調査
	65	%	↑	49.7	49.7	年	現在幸福度	町民幸福度調査
6-2 2030年までに、誰ひとり取り残されることないかたちで地域の様々な活動を応援できるようにする。	4	所	↑	4	2	年	集落活動センター設置数	小さな拠点づくり事業（集落活動センター推進事業）
	10	件	→	17	10	年	実施事業数	がんばる地域応援事業
6-3 2030年までに、町で暮らす全ての人にとって、暮らしやすい、美しい町にする。			↓			年	排出されるゴミや食品ロスの削減	マイバック、マイボトルの推進、廃棄食品の堆肥化（保育や学校の給食の残飯など）
		語	↑	1	1	年	対応言語数（日本語を含む）	窓口業務の多言語での案内パンフレット（予定）

## 【現状と課題】

2019年に実施した「土佐町幸福度調査アンケート」では、回答者の90%以上が普通以上の幸福感を感じて生活している一方、5年後の幸福感については減少傾向が見られ、近い将来の生活について不安を抱いているという調査結果となりました。また、人生満足度についても、日本人の平均値と比べて、やや高め傾向となっていました。

幸福度の高さに関連が深い要因としては、「健康状態が良好であること」「知的興味や知識、能力を伸ばしたりする機会に恵まれていると感じていること」「土佐町の文化や特色に対し愛着を感じていること」「自然環境や地域の食材についての身近に感じていること」「経済的に余裕のある生活を送ることができていると感じていること」が挙げられます。

また、幸福度が高い人ほど、「次世代を確立させて導くことへの関心」や「自然環境を守るために何らかの負担をしても良いと感じる」割合が高くなっています。

前述したように、5年後の幸福感について現在よりも減少傾向が見られるということは、町の将来についての不安感の現れとも考えられます。土佐町が持続可能なまちであるためには、次代を担う子どもたちが「好き」と言える町、「住みたい」「帰ってきたい」と思える町としていくことが必要です。その

ためにはまず、土佐町で暮らす大人ひとりひとりが「土佐町が好き」「土佐町で暮らしていて幸せ」と言える、そんなまちづくりを進めていくことが必要となっています。

(関連する町の代表的な計画)

- ・土佐町幸福度調査アンケート
- ・土佐町 SDGs 未来都市計画

## 【SDGs から見えてくる 2030 年の世界の姿】

○SDGs の推進にあたり ESD（持続可能な開発のための教育）が重視されています。ESD の基本的な考え方では、環境やエネルギー、国際理解、気候変動、生物多様性等の学習に加えて、地域の文化財等に関する学習も重視されています。ESD を通じて、環境・経済・社会の統合的な発展や、持続可能な社会づくりの担い手を育むことが目指されています。

○ESD（持続可能な開発のための教育）は、持続可能な社会を目指す上で基盤となる学習活動として目されています。ESD はローカルな社会課題や問題の解決に向けた目標設定で重要です。例えば、林業、漁業などでは、高齢化だけでなく後継者不足が差し迫る中で、森は荒廃し、漁業就労者が著しく減少している。森が荒れると水産資源も枯渇し、さらには温暖化による海水温の上昇も一因とされる沿岸漁業の漁獲高の減少——など、森の話は暮らしている里や川海まで影響しており、地域には SDGs に関連した課題が山積していることが分かります。

今後、子どもたち自身が地域を知るための調べ学習を通じて自然資本価値を認識し、ローカルな循環社会を作りあげていく創造性と共生力や多様性を育みながら、地元を愛する心に種を蒔く投資として ESD が取り入れられていきます。

○シビックプライド（地域に対する住民の誇り）の醸成に力を入れることで、定住人口が減少しても「地域の価値」を向上させることは可能であることを、関東学院大学 法学部の牧瀬稔准教授は指摘しています。シビックプライドの醸成は地域活動に参画活動する人（活動人口）の増加を促します。地域内の住民だけでなく、地域外の関係人口も活動人口に含まれていくことで持続可能な地域づくりが進められてくと考えられます。

## 2030年の土佐町の「愛（地域愛）」において

### 地域のみなさんの声

- 生きちよって良かった!!こんなに楽しいなんて!
- 子どもたちが増え、町を愛する子に成長してほしい。
- 家におったら絶対さわる。することないき。
- みんながおいしい物が食べれて、幸せな気分で自然を眺められて。
- 町民が町の自然の良さに気付き、自然を楽しむ人が増えてほしい。
- 子どもから老人が生活できる地域であること。
- 仕事があり生活でき、子どもを育てれる地域
- 高校生まで地元で通える
- 年がいても家で暮らせれる支援体制
- 子・孫がここに住みたいと思える町、帰ってきたいと思える町、お互いに思いやりの心もてる町
- うら年。アップダウン
- 地域全体で地域を愛でる
- 子供たちが見る大人が土佐町のことを好きにならないと、子供たちが土佐町を好きにならない
- 今を楽しむ
- 郷土愛を育む取り組み
- 郷土愛
- 子供に伝えていく
- ふるさとを誇りに見えるまちづくり
- 愛に生きる
- 愛こそ全て
- ゆとりのある町
- パートナーが見つかる
- 総合企業をつくる
- 郷土愛はウソくさい
- うそくさくない郷土愛
- 子供に教える教員に土佐町の魅力に気づいてもらう
- 大学の友達に魅力発信、地元民自信持つ
- 郷土愛を育む取り組み
- 土佐町が好きといえる雰囲気づくり
- 地域でしていることを見せるかしていく
- 大人がまず姿を見せる

- 地域にいる大人が地域を愛する
- あなたの自慢なんですか？
- 帰ってきて家を建てたいのに土地がない！アパートがない！
- 「土佐町に帰ってきたい」だけなのにまず住む場所がない。
- 外に出ることが好きなので、県外にも海外にも行く。一週間に3回東京へも行く。土佐町にいるから制約されるものではなく、いろんなこと自由にできる。もっと発信してもらいたい。おいしい物を食べて自然環境が良い中で世界の仕事ができる。世界の子どもたちが帰ってきたいまち。子育てするときの拠点はここだな。また老後自分の終活となる町というところが地域愛なのではないかなと思う。
- 地域愛を知る、感じるためには、地域外を知るべき。若いうちに一度は、地域を離れるのも良い。
- 地域の良さは外から見て初めて気づくことも多い。若いうちに一度は地域から離れることも良いのではないかな。必要以上に地域で困る必要はない。

## 「目標(ゴール)7 繋がり」

---

交流や集いの機会を大事にしながら、ひとりひとりの立場も尊重することができる。様々な人が暮らしている町だからこそ、その多様性をまちづくりの力に。

若い世代とシニア世代。土佐町で生まれ育った人と土佐町へ移住してきた人。以前と比べても、世代や背景が異なる色々な人々が暮らしているのが今の土佐町です。昔から続いてきた土佐町の文化はもちろん大事にしながら、一方で、新しく入ってきた人とも交流していくことができる。そうした集いの機会を増やしていきます。

### 【“2030年の土佐町” ゴール7の実現に向けた具体的行動(ターゲット)】

- 7-1 2030年までに、町内の各地区や各世代など、様々な立場の多様な意見が尊重され、それらの意見がまちづくりに反映されるようにする。
- 7-2 町民どうし、世代間や、移住者と地元住民など、様々な立場の人が交流できる機会を増やす。
- 7-3 2030年までに、地域内だけでなく、地域外との様々な交流の機会できる状態にする。
- 7-4 2030年までに、町内で暮らす様々な個人の立場や想いを、お互いに尊重できるようにする。
- 7-5 2030年までに、今以上に、町の中で多様な人が暮らし続けていくことができる状態にする。

【“2030年の土佐町” ゴール7の実現状況を把握するための指標（インディケーター）及び施策】

ターゲット (具体的行動)	インディケーター（指標）							施策
	目標値	単位	方針	現状値	当初値	頻度	測定指標	
7-1 2030年までに、町内の各地区や各世代など、様々な立場の多様な意見が尊重され、それらの意見がまちづくりに反映されるようにする。	6	回	↑	5	5	年	地区長会開催数	地区長会制度見直し。地域との連携強化。
	1	回	→	0	1	任期	町政懇談会	多様な世代が参加する懇談会開催。
7-2 町民どうし、世代間や、移住者と地元住民など、様々な立場の人が交流できる機会を増やす、	4	所	↑	4	2	年	集落活動センター設置数（再掲）	小さな拠点づくり事業（集落活動センター推進事業）
		回	↑			年	町民同士が触れ合う機会	
		回	↑			年	移住者等と地元住民の交流機会	
		回	↑			年	多世代の触れ合う機会	
7-3 2030年までに、地域内だけでなく、地域外との様々な交流の機会できる状態にする。	2	回	→	0	2	年	交流回数	四国の子ども交歓会
	2	回	→	0	2	年	交流回数	都市との交流事業（十和田市・豊中市）
	1,500	人	↑	1,486	866	年	来町者数	モニターツアー造成支援事業
	3	回	↑	1	1	年	イベント開催回数	アウトドアアクティビティ推進事業
		回	↑	4	3	年	地域外の教育・研究機関（大学等）との連携回数	地域外の教育・研究機関（大学等）との連携
	1	基	↑	0	0	年	感染症対策看板設置数	インバウンド観光推進事業
7-4 2030年までに、町内で暮らす様々な個人の立場や想いを、お互いに尊重できるようにする。		回	↑			年	町民同士が触れ合う機会（再掲）	
		回	↑			年	移住者等と地元住民の交流機会（再掲）	
		回	↑			年	多世代の触れ合う機会（再掲）	
7-5 2030年までに、今以上に、町の中で多様な人が暮らし続けていくことができる状態にする。	2.25	億円	↑	0.02	0.003	年	企業版ふるさと納税寄付金額	企業版ふるさと納税
		回	↑	4	3	年	地域外の教育・研究機関（大学等）との連携回数（再掲）	地域外の教育・研究機関（大学等）との連携



## 【現状と課題】

土佐町の生産年齢人口（15歳～64歳）は1980年以降一貫して減少傾向にあり、老年人口（65歳以上）に伴い高齢化率も45%程度まで上昇してきています。一方で、年少人口（0歳～14歳）、生産年齢人口ともに、その減少は緩やかになってきており、2015年には0～4歳の女性、5歳～9歳の男性で、2010年と比較して人口が増加しています。このように、土佐町の年齢別人口構成も、以前とは少し変化してきています。

また、土佐町は高知県内でも地域外からの移住者が多い地域です。平成26年以降、270名以上が町外から転入してきており、2016年に社会増に転じて以降、変動はあるものの、社会増減も縮小傾向にあります。男女別の人口移動で見ても、40歳以降の男性、30代女性で転入超過となっており、ファミリー層が土佐町へ転入してきている傾向が見られます。

シニア世代と若い世代、土佐町で生まれ育った方と土佐町へ移住してきた方など、以前と比べても世代や背景が異なる多様な人々が暮らしているのが今の土佐町と言えます。

一方で、町民の暮らしや考え方の多様性が高まったことに伴い、住民間のトラブルや不信感が発生することも出てきました。これらには、双方のコミュニケーション不足から生じる誤解が原因となっているものも少なくありません。様々な人が暮らしている町だからこそ、交流や集いの機会が重要となってきました。昔から続いてきた土佐町の文化はもちろん大事にしながら、一方で、新しく入ってきた人とも交流していくことができる。そうした集いの機会を増やしていきながら、多様性をまちづくりの力に変えていくことが必要となっています。

（関連する町の代表的な計画）

- ・土佐町 SDGs 未来都市計画
- ・土佐町まち・ひと・しごと創生総合戦略

## 【SDGs から見えてくる 2030 年の世界の姿】

OSDGs の達成に向けて、関係機関の「繋がり（パートナーシップ）」が非常に重視されています。例えばゴール 17 には下記のターゲットが掲げられています。

- ・17.16：すべての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。
- ・17.17：さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

OSDGs において「繋がり（パートナーシップ）」が重視されているのは、環境や開発、人権問題など複雑な課題の解決に取り組むことが必要だからです。市民社会を含む多様な参加者が、課題の解決に向けて力を合わせることを求められています。そうした議論の中で、「Leave No-one Behind 誰も取り残さない」というキーワードも、重要な概念として考えられるようになりました。

○持続可能な社会をつくるために大切な5つの要素として「人間 (People)」、「地球 (Planet)」、「平和 (Peace)」、「繁栄 (Prosperity)」、「繋がり・パートナーシップ (Partnership)」が挙げられます。この中で、パートナーシップについては、「あらゆるステークホルダー (関係者) とすべての人たちの参加」が重視されています。

○MIT (マサチューセッツ工科大学) 組織学習センター共同創始者のダニエル・キム氏によって、提唱されたモデル「成功の循環 (Theory of Success)」は、組織を4つの質でとらえ、周囲との関わり方やコミュニケーションといった「関係の質」が高くなると、自然と考え方も前向きになり、目的意識が高まって「思考の質」が上がります。それが人々の積極性や主体性といった「行動の質」を高め、成果が生まれて「結果の質」につながります。すると、ますます関係の質が高くなる、といった循環を指しています。関係の質・思考の質・行動の質を高めていくことで、組織開発が進められると言われており、これは、地域コミュニティでも捉えられ、住民との関係 (=つながり) の質を高めることで持続可能なまちづくりが進められるとも考えられます。

## 2030年の土佐町の「繋がり」において

### 地域のみなさんの声

- 移住者の人々が引き続き来てくれる環境があれば…今の移住者との交流を深める
- 地域の中で年代を問わず交流する場を多くつくる（酒が入ってもよし、話し合いでもよし）
- 10年後もこんな会で話をしたい。
- みんながみんなお酒好きではない。
- 地域の連携、地域同士の連携を深める。
- 地域住民と移住者の心が触れあう場づくり
- 意見尊重しすぎ。なじむ、溶け込む努力を。移住者も。
- 地区内で顔を合わせると挨拶する関係（皆顔見知りな関係）はずっとあってほしい
- つながり・交流。とにかく空家を増やすこと、人が住める環境ができれば、移住が増え、新たな産業等も増える。
- それぞれの世代が役割と生きがいのもてる町に。
- 移住者同士で固まらないように。
- トンネル抜けたら。
- 繋がり。移住者との交流の場を設ける。区長などからの地域へのお知らせなどがあると住民も親しみを感じる。
- 様々な世代がつながる、まちづくりを支える地域・コミュニティになりたい。
- 若い世代、シニア世代、移住者みんながプラスになること、想いがつながること。
- 意見の合わん人も話ができる場をつくる。
- 今を楽しむ
- 人の目を気にしなくてよい場所が欲しい（ひとりになれる場所も欲しい）。
- 調整を認めるつながり
- 血液のような「誰1人取りこぼさない」
- まちはひとつの家族。みんなが仲良く助け合い支え合うまちに
- Hand in Hand なまちづくり
- 10年後もこんな会で話をしたい。
- 地区内で顔を合わせると挨拶する関係（皆顔見知りな関係）はずっとあってほしい
- 移住者にも地域の事を守ってもらいたい！くずさずに！
- 転出者が少なく、転入者が増えて欲しい
- 移住者が生計を立てれるように
- 地藏寺の駐在さんのような方が続いてきてくれますように！
- 自分のやりたいことをやり易い町

- 老人が気軽に食事できる場所があったらいいと思う。
- ふらりと立ち寄ってのんびりできるカフェ、喫茶店のような場所。
- 常設のギャラリーがほしい。
- ゆったりできる図書館がほしい。
- 気軽に出かけられる食堂があると良い。
- 若い世代とシニア世代の交流、相互理解が大切
- 地域に少人数でも集えてくつろげる場があってほしい。
- お年寄りの活きがいづくり
- 入院している人の家・庭の手入れ
- 活きがいへの補助をしっかりと。
- お年寄りの集まれる場所を
- 敬老会
- 今までよりもっと、移住者と地元で長年住む方が協力してしていくことは大切。
- どなたがどのお家の方か全くわからない状態。若い方を見かけても「だれだろう？」ってなる。
- 情報をきちんと伝えること
- 知らなかった、というのがないように
- 大人の社交場が必要。いろんな世代の。
- 広報を充実しなければ、みんなが知る事ができない。小さな事を、対外的にも、観光とかにも
- 世代交流で、社協の「あったかふれあいセンター」をやっているが、5年前くらいは、0歳から90何歳が集うような場所をつくって今独立した。社協さんの取組は素晴らしかった。「あの人だれぞよ」って言ったときには、知っている人が説明するとその人も安心する。一緒にお茶菓子食べる機会。楽しいと思う。
- 移住者と繋がる場が必要。また、移住者が移住者どうしで固まらないことも大切。

## 「目標(ゴール)8 安心安全な暮らし」

生涯を通じて、ひとりひとりが生きがいを持ち、  
みんなで支え合いながら、安心して暮らし続けることができるまち。  
道路や上下水道、インターネットなど、必要なインフラを維持し、  
災害にも強い安全なまち。

土佐町で暮らし続けていく上で、地域内に十分な医療・福祉サービスが受けられること、必要なインフラが整っていることは重要です。また、地球温暖化や気候変動などにより、想定される災害の形も従来とは変わってきています。自助・共助・公助それぞれを充実させていきながら、住民ひとりひとりが安全安心に暮らすことができる町をつくれます。

### 【“2030年の土佐町” ゴール8の実現に向けた具体的行動(ターゲット)】

- 8-1 2030年までに、年をとっても安心して住み慣れた町で暮らし続けることができるよう、医療・介護・福祉など、地域生活を支える仕組みを、持続可能なかたちで整備する。
- 8-2 2030年までに、障害を持つ人や、町で暮らす上での課題を抱える人に対し、医療・介護・福祉など地域生活を支える仕組みや、そうした人の自己実現を支える仕組みを整備する。
- 8-3 2030年までに、何歳になっても健康づくりや健康寿命の延伸に取り組むことができる機会を現在以上に増やすとともに、いつまでも健康で元気に住み慣れた場所で、希望する暮らしを実現できるようにする。
- 8-4 2030年までに、新興感染症の流行の兆し等を適切に捉え必要な対応を判断できるようにするとともに、それらの感染拡大防止策に町民全体でしっかりと取り組むことができるようにする。
- 8-5 2030年までに、犯罪や特殊詐欺などの被害に遭わないための対策を充実させ、そうした被害リスクに強い状態とする。
- 8-6 地域の移動手段の確保や、道路・橋梁の保守、上下水道の維持を通じた水の供給、インターネットへのアクセスなど、町で暮らし続けるために必要なインフラを今後も現在と同様の水準で維持していく。
- 8-7 2030年までに、ハードの維持及び整備だけでなく、ソフトの仕組みづくりを通じて、強靱(レジリエンス)な町を実現する。
- 8-8 2030年までに、地域の消防団を現在程度の体制で維持していくとともに、自主防災組織等の活動の活性化を通じて、地震や災害、火事等の有事に対応できる状態とする。

【“2030年の土佐町”ゴール8の実現状況を把握するための指標（インディケーター）及び施策】

ターゲット (具体的行動)	インディケーター（指標）							施策
	目標値	単位	方針	現状値	当初値	頻度	測定指標	
8-1 2030年までに、年をとっても安心して住み慣れた町で暮らしていくことができるよう、医療・介護・福祉など、地域生活を支える仕組みを、持続可能なかたちで整備する。	10	箇所	→	10	10	年	あったかふれあいセンター事業実施か所数	生活圏域（旧小学校区単位）での支えあい・交流活動・相談支援の拠点
	1	箇所	→	1	1	年	地域包括支援センター設置数	高齢者の総合相談窓口
		%	↑	0		年	バリアフリー化割合	公共施設（集会所等）のバリアフリー化
	1	回	→	1	1	年	社協ネットワーク会議開催数	社会福祉協議会等との地域の見守り支援に関する情報共有の場
	3	回	→	3	3	年	社協連携会議開催数	社会福祉協議会と行政における福祉施策全般に関する協議の場
	1	回	↑	100%	1	年	在宅医療介護連携（普及啓発）	講演会や研修の実施
8-2 2030年までに、障害を持つ人や、町で暮らす上での課題を抱える人に対し、医療・介護・福祉など地域生活を支える仕組みや、そうした人の自己実現を支える仕組みを整備する。	1	箇所	→	1	1	年	障害児者の相談支援事業	障害児者の総合相談窓口（社協委託）
	1	箇所	→	1	1	年	要保護児童対策地域協議会設置数（再掲）	児童虐待予防等に関する地域ネットワーク体制
	1	回	→	1	1	年	社協ネットワーク会議開催数（再掲）	社会福祉協議会等との地域の見守り支援に関する情報共有の場
	3	回	→	3	3	年	社協連携会議開催数（再掲）	社会福祉協議会と行政における福祉施策全般に関する協議の場
8-3 2030年までに、何歳になっても健康づくりや健康寿命の延伸に取り組むことができる機会を現在以上に増やすとともに、いつまでも健康で元気に住み慣れた場所で、希望する暮らしを実現できるようにする。	10	箇所	→	10	10	年	あったかふれあいセンター事業実施か所数（再掲）	生活圏域（旧小学校区単位）での支えあい・交流活動・相談支援の拠点
		歳	↑	0		年	健康寿命	
8-4 2030年までに、新興感染症の流行の兆しなどを適切に捉え必要な対応を判断できるようにするとともに、それらの感染拡大防止策に町民全体でしっかりと取り組むことができるようにする。	20	%以下	↓	28.8%	37.1	年	肥満者の割合を減らす	子どもの頃から食育を強化
		%	↑	0%		年	新興感染症対策に対する組織体制づくり	予防接種の推進、手洗いやうがい等の推進
8-5 2030年までに、犯罪や特殊詐欺などの被害に遭わないための対策を充実させ、そうした被害リスクに強い状態とする。	1	基	↑	0	0	年	感染症対策看板設置数	インバウンド観光推進事業
	12	回	→	12	12	年	相談会開催回数	消費者行政推進事業
8-6 地域の移動手段の確保や、道路・橋梁の保守、上下水道の維持を通じた水の供給、インターネットへのアクセスなど、町で暮らしていくために必要なインフラを今後も現在と同様の水準で維持していく。	28	基	↑	31	0	年	街路灯修繕数	商店街等施設耐震対策推進事業
	82.0	%	↑	63.4%	58.0	年	国・県道改良率	国道及び県道改良事業
	119	橋	↑	102	119	年	橋梁点検実施数	
	20	橋	↑	0	3	年	橋梁維持補修実施数	橋梁点検及び橋梁維持補修事業
	60	%	↑	55%	55	年	道路整備状況満足度	町道改良事業
	60	%	↑	53%	53	年	道路維持管理満足度	道路維持修繕、重機借上げ料
8-7 2030年までに、ハードの維持及び整備だけでなく、ソフトの仕組みづくりを通じて、強靱（レジリエンス）な町を実現する。	100	%	→	100%	100	年	公共交通普及地域率	嶺北観光自動車等への補助金事業、実証実験
	30	棟以上	↑	24	65	年	耐震改修棟数（2021～2030年実施）	施策の定期的なPR。設計士と建築士の連携強化
8-8 2030年までに、地域の消防団を現在程度の体制で維持していくとともに、自主防災組織等の活動の活性化を通じて、地震や災害、火事等の有事に対応できる状態とする。	100	%	↑	100%	0	年	脆弱性調査実施率	国土強靱化地域計画
	240	名	→	240	240	年	消防団員数（定数維持）	普及啓発活動を行う。
	100	%	↑	99%	99	年	自主防災組織設置率	自主防災組織の見直し。
	100	%	↑		15	年	自主防災組織の避難訓練実施率（年に1回実施）	地域と連携した自主防災組織の見直し

## 【現状と課題】

第6次土佐町振興計画町民アンケートでは、「健康づくりの総合的推進」「地域福祉の充実」「高齢者支援の充実」「障害者支援の充実」などの健康福祉分野、「消防・防災の充実」等の危機管理、「上下水道の整備」や「道路網の充実」などのインフラ整備について、いずれも重要度・実感度ともに高い状況にあり、これまでの取組の成果を一定反映しているものと考えられます。一方で、「公共交通の充実」や「住宅施策の推進」では、重要度は高い一方、施策の実感度としては低い状況にあり、今後の取組の充実が求められていると考えられます。

町の現在の高齢化率は約45%。今後、2030年ごろには50%を超え、町の高齢化のピークを迎える推計となっています。これに対し、現在の町の介護保険サービス利用者や、要支援・要介護認定者数は横ばいからやや減少傾向で推移しています。これまでのフィールド医学の取り組みや、地域福祉の取

り組み等を軸にしながら、今後も自助・共助・公助それぞれを充実させていながら、住みよい町、生涯にわたって健康で安心して暮らせる町としていくことが必要です。

町で暮らしていく上で必要なインフラは一定整っており、これから新たに新設等していく必要があるものは少ないと考えられます。一方で、施設の老朽化も進んできており、今後はこれらの必要なインフラを維持していながら、町内の各地域で今後も暮らし続けていくことができるようにしていくことが必要となっています。

土佐町では、今後発生が見込まれる南海トラフ地震における津波等のリスクは大きくありません。一方で、近年懸念されている気候変動や異常気象、それらに伴う豪雨災害等のリスクは高まっているとも考えられます。放置山林や耕作放棄地が増加し、山の保水力が落ちているというような指摘もあります。まずは土佐町の水源保全・涵養力の実態を把握しながら、ソフト・ハード両面で、災害に強い強靱な町、安全に暮らせる町としていくことが必要です。

(関連する町の代表的な計画)

- ・ 防災、インフラ：土佐町地域防災計画、国土強靱化地域計画、循環型社会形成推進地域計画、上・下水道経営戦略
- ・ 健康福祉：土佐町地域福祉計画、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画、障害福祉計画・障害児福祉計画、健康増進計画・食育推進計画

## 【SDGs から見えてくる2030年の世界の姿】

OSDGsでは、全ての人々が「幸福」に暮らせる世界の実現が目指されています。この「幸福」は、英語ではwell being（ウェルビーイング）と表記され、人々が身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味しています。このウェルビーイングの実現を通じ、2030年に下記のような世界が目指されています。

- ・ 妊産婦の死亡率や新生児死亡率の減少。伝染病や感染症への対処。
- ・ すべての人が、お金の心配をすることなく予防接種やワクチンといった基礎的な保健サービスを受け、値段が安く、かつ質の高い薬を手に入れ、予防接種を受けられる。

- 道やダム、電気をつくる発電所など、私たちの毎日の生活を支えている基本的なものや、病院や学校や公園など、安心・安全に暮らしていくためになくてはならない施設・インフラがすべての人に公平に利用できる。
- すべての人が、住むのに十分に安全な家に、安い値段で住むことができ、基本的なサービスが利用できる。女性や子ども、障がい者、高齢者などのニーズに配慮した公共交通機関が充実し、弱い立場の人々の住環境も改善される。

○世界的な人口増加に伴い、飲料水等の不足が懸念されています。気候変動に起因する水不足や、水に関する災害も問題となっており、特に近年は、集中豪雨や台風の影響により、各地で干ばつや水害が起きています。適切な水の管理を行うことは災害対策としても重要な視点となっています。このような水資源の管理をするためには、水に関する生態系の保護や回復が重要であり、そのためには、地域住民・コミュニティが参加・関与することが求められています。

○2030年までにCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）または温室効果ガスの実質排出ゼロを実現することについて、世界中の国々が表明しています。太陽光発電は電力供給の新たな中心となり、大規模な拡大が見込まれます。2020～2030年に、太陽光発電は年間平均13%成長し、この期間の電力需要の伸びのほぼ3分の1を占めることが予想されています。

○自然エネルギー財団が運営する「RE-Users（自然エネルギーユーザー企業ネットワーク）」は化石燃料から再生可能エネルギーへの転換に向けて、政府と電気事業者に対して3つの戦略と9つの施策を提言し、戦略では、「2030年までに国全体の発電電力量の44%以上を再生可能エネルギーで供給すること」などを求めています。

○気候変動対策については、あらゆる緊急対策が必要となっています。災害におけるレジリエンスと適応の強化や対策を国の政策、戦略、計画に盛り込むことをはじめ、緩和、適応、影響軽減、早期警戒に関する教育、啓発など包括的に気泡変動問題解決を目指しています。そのため、ゼロ炭素技術をつかった送電網や車道、ビルは予想よりも遥かに拡大していくことが考えられます。現在クリーンテクノロジーのコストが下がり続けているため、再生可能エネルギーは劇的に増え、世界の電気容量は再生可能エネルギーでまかなわれていきます。2030年までには、事実上、石炭火力技術から生まれる新たな発電能力はないとも言われています。

○再生可能エネルギーが広がる中、発電だけでなく熱利用も組み込んだ「地域内エコシステム」としての小規模な木質バイオマス利用が注目されています。地元の森の材を集荷・加工し、自家発電方式で発電して集落内に電力と温水を供給する、エネルギーの地産地消であり、同様に、小水力発電や市民ソーラー発電などの取り組みも広がり、自然資源を活用したCO<sub>2</sub>排出量削減のみならず、雇用の創出や地域創生などにもつながっています。森林資源の積極的な利活用が今後の将来に期待されます。



## 2030年の土佐町の安心安全な暮らしにむけて

### 地域のみなさんの声

- 災害に強い土佐町。
- 安全（災害）。
- 定期的に停電するとか
- 誰もが安心して安全に暮らせるまちに
- 防災士を…頼って下さいませ。
- もし南海トラフが起きていなかったら、地域の避難計画を新しくすべき。
- 安心安全に住む場所。
- 安心して暮らせる。過ごしやすい
- 保育園のセキュリティ
- 東南海・南海トラフ&首都直下型地震は、起きているかももうすぐ起こる。
- Face to Face なまちづくり
- 総合病院が充実し、市内等に行かなくてもよいようになってほしい
- 気がねなく介護サービスなど社会資源の利用ができています。
- 小児科、小児歯科ほしい
- 耳鼻科毎日ほしい。
- 医療機関充実を
- 地域医療のサポート。
- 年寄りが安心して死ねる環境。
- 私はこの地域で子育てしてたい。（病気と付き合いながら）
- 福祉の町づくり。安心して自宅で死ねる医療体制の整った町に住みたい
- 各家にタブレット端末が貸付されていてほしい。情報化対応、地域内の連絡コミュニケーション、防災時利用など
- 町が運営する水道に切り替えてほしい。（高齢者が多くなり、地元管理が難しくなってきた）
- フィールド医学の充実で高齢者が元気に。
- 健全なチャンスをつくらないかん。
- せめて地域のライフライン（水・道・橋）などは維持。直して使っていく。
- お年寄りの行き場がなくなる？
- 小さな労力で大きな効果を（新しい技術の導入）
- 水道工事に対応できる業者さんがわずか
- 散歩コースにちょっと休めるイスがあればうれしい！
- 携帯電話の不感知がなくなる様に。

- 歩道に屋根がほしい。(所々)
- 公共施設に。Free Wi-fiがあると便利
- カラスが多い。対策をしてほしい
- 檜山トンネル開通。
- 外灯を増やしてほしい。
- 町民全員が暮らすまちづくり
- 基盤整備四国の中の土佐町
- アップダウンを乗り越えやす安心安全
- ライフラインを守る！（インフラ維持管理）
- ワンコインで町内を回ってくれるバスがあれば（小さな）。
- タクシー8時まで？
- 車の運転をやめた後の移動手段が整っている。
- 自転車の人多くなって運転こわい。自転車ゾーンあれば
- バス停に屋根がほしい。
- 買い物はドローンで出来るように。
- 高須町道を全線改良すべし。
- アクセスよい。
- 高須地区の街並みすべてが部分改良されて、老後になっても安全に車の運転が出来たら良いと思う。
- 高齢者も安心して住めるまち
- 施設、人間的に十分な介護が受けられる体制がある
- 高齢でもアルバイト的に働ける場所がある(シルバー人材センター含む)
- 生きがいがある（趣味を持てる）
- 移動手段がある（四国新幹線も含む）
- 買い物に困らない（店舗の維持）
- 高齢者が何でもいいので活躍できるものがある
- 災害に強いまち
- 各家庭及び避難場所も含めしつかりとした備蓄体制がとれている
- 農業の維持(国土保全や食料自給率の維持)
- 森林がきれい
- まず自分のことは自分で守るという意識が高い(自分の家のことはまず自分で)
- 地域でお互いのことを見守れる
- 乗り合いタクシー的なほしい。
- 山の中のポツンと一軒家は老後生活できない。
- 高齢者の見守り。
- 孤独死のようなことが絶対ないように。

- ライフラインは重要。特にお店。車でぱっと市内へ買い物することもあるが、土佐町で頑張っている店は沢山あり、そこを維持することで安心して暮らせる人もいる。さらにこれから人が減っている。商売の相手が減ってくる中でしんどくなる。地域にある小さなお店について、末広もないと困る。戦略的に行政で考えてほしい。
- 耳鼻科が欲しい。赤ちゃんの中耳炎はしょっちゅうあること。半日休みとって毎日いかんといけなくなる。医療も手厚くしてほしい。
- 他地域に先駆けて「自動運転」に積極的に取り組んでほしい。土佐町限定や嶺北地域限定の特区的な取り組みをつくることで、買い物難民対策にもなる。

## 「目標(ゴール)9 人口減少」

---

ひとが増えるまち。

若者が増え、子どもたちが増えるまち。

土佐町の2030年人口推計は約3,000人。日本全体の人口が減っていくのと同様に、土佐町の人口も減っていくことが予想されています。しかし、たとえそうであったとしても「ひとが増えていく」ということにこだわりたい。子どもがたくさん生まれ、若者が帰ってきたいと思える町を実現していきます。

### 【“2030年の土佐町” ゴール9の実現に向けた具体的行動(ターゲット)】

- 9-1 2030年までに、複数年継続して人口の社会増が社会減を上回る状態とする。
- 9-2 2030年までに、合計特殊出生率が人口置換率を上回る状態とするとともに、複数年継続して、2020年水準の出生数の維持又は上回る状態とする。
- 9-3 2030年までに、住む場所や、働く場を増やすことを通じて、若い世代が暮らすことができ、町外に暮らす出身者が帰ってくる状態とする。

【“2030年の土佐町” ゴール9の実現状況を把握するための指標（インディケーター）及び施策】

ターゲット (具体的行動)	インディケーター（指標）							施策
	目標値	単位	方針	現状値	当初値	頻度	測定指標	
9-1 2030年までに、複数年継続して人口の社会増が社会減を上回る状態とする。	3,600	人	↑	3,500	3,724	年	土佐町現在人口推計（住民基本台帳人口）	住民課施策
	40	人	→	51	63	年	移住者数	移住促進事業
		人	↑			年	定住者数（移住者定着割合）	
9-2 2030年までに、合計特殊出生率が人口置換率を上回る状態とするとともに、複数年継続して、2020年水準の出生数の維持又は上回る状態とする。	2.10	TFR	↑	1.66	1.66	年	合計特殊出生率	
	18		→	18	18	年	年間出生数	
9-3 2030年までに、住む場所や、働く場を増やすことを通じて、若い世代が暮らすことができ、町外に暮らす出身者が帰ってくる状態とする。		円	↓			年	国保税額	インセンティブ事業
	135	戸	→	193	193	年	町営住宅戸数	町営住宅整備（長寿命化）
						年	子育て支援	
		戸	↑			年	居住可能な住宅戸数	住宅の建築および改修の促進（町営住宅に限らない）
	10	戸	↑	15	6	年	空き家登録数（利用可能分）	空き家発掘事業

## 【現状と課題】

国立社会保障・人口問題研究所による土佐町の2030年人口推計は約3,100人。高齢化率は50%を超え、人口の約半分が老年人口（65歳以上）となります。これに対し、生産年齢人口（15歳～64歳）は約1,250人、年少人口（0歳～14歳）は約300人と、いずれも現在よりは減少していく推計となりますが、以前の推計値と比較すると、多少改善傾向にあります。（2013年時点の2030年推計人口は3,073人。これに対し、2018年時点での2030年推計人口は3,189人）

自然増減（出生及び死亡）の推移では、1995年以降一貫して自然減（出生数に対し死亡数が超過）となっています。高知県内他地域と比較して土佐町の合計特殊出生率は高く、出生数が毎年一定して20人～30人程度であるのに対し、死亡数は近年減少傾向ではありますが、それでも毎年60人前後の自然減は今後も続くことが予想されます。

社会増減（転入・転出）で見ると、転入数では2013年以降、多少の上下はあるものの増加傾向が続いています。これは土佐町外からの移住者の増加が一因と考えられます。一方、転出数は、1995年以降減少傾向にあります。このため、2016年に社会増に転じて以降、変動あるものの、社会減は縮小傾向にあります。

また、男女いずれにおいても、20代で転出超過となる傾向が見られています。就職や進学をきっかけに、土佐町外へ転出していると考えられます。

既に高齢化率は45%程度となっている等、年齢構成に偏りが生じているため、当面の人口減少は避けられないと考えられます。一方で、中長期的に少しずつでも「人が増えていく」地域を目指していくことは不可能ではありません。子供がたくさん生まれ、進学や就職で地域外に出ても「いつかは帰ってこよう」と思える町。生涯健康で長生きできる町。土佐町外からも引っ越してきたいと思える町。様々な取り組みを通じて、そのような地域を実現していくことが必要です。

（関連する町の代表的な計画）

- ・土佐町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・土佐町人口ビジョン

## 【SDGs から見えてくる2030年の世界の姿】

○土佐町や日本全体の人口はこれから減少していくことが予想されますが、一方、世界人口はさらに増加していく見通しです。国連経済社会局人口部が発行した『世界人口推計2019年版』では、2030年には世界人口は85億人を超え、2050年には100億人となると予測されています。

○こうした人口増加は、一部の国々で急速に発生する見込みです。インド、ナイジェリア、パキスタン、コンゴ民主共和国、エチオピア、タンザニア連合共和国、インドネシア、エジプト、米国の9カ国で、現在から2050年までの間の世界の人口増加の過半数が発生すると言われており、それ以外の地域では人口減少に転じる地域も多く存在します。

○全世界の合計特殊出生率は2050年までには、2.2人程度まで下がっていくことが予測されています。同時に、高齢化や平均寿命の伸びも進行する見通しとなっています。日本の現在の状況は、こうした世界の未来の姿を先駆けているとも言えます。

## 2030年の土佐町の人口減少にむけて

### 地域のみなさんの声

- 今の人口をキープ。
- 土佐町は人口減少が進む。過疎化、限界集落が多く、無くなる集落も多いのでは？ 宮古野地区も…
- 土佐町に老人を呼ぶ。若者の。
- 移住者が増えればよいが、定着が難しい。理由：仕事がない。
- 耕作放棄地を移住者に作らせる。仕事になる。
- 子どもの数がたくさんになったらよい。
- 人口減少をくいとめることができるかが最大の課題。
- 子どもが増える。
- 子どもたちが増え、町を愛する子に成長してほしい。
- 若者がふえてほしい。
- 人口が減らないようにしてほしい
- 子どもが帰ってきてほしい。
- 若者がたくさんいる地区で。
- 人口が減少しない施策を。
- 人口増×新規事業
- 若者・子どもの多い地区。
- 若い人ふえてもらいたい。
- 子どもが少ない
- 増えてほしい（人口）
- 若い人！
- 人口が良くて2,000人台では。
- 限界集落みたいになる。
- 少子高齢化がもっと進む。
- 高齢者と子どもたちの交流できる場があればよい。
- いまより人口増であってほしい
- 多様な人々で構成され、すべての人々が生き生きと暮らせる土佐町
- 人口が増えるために、何をせないかんか。
- 過疎化対策過疎化が進み対策が進んでいる所の対策を参考にする。（町職員が視察に行くべきでは？）
- 人口が増えて欲しい！動物と触れ合う場所を増やして欲しい！
- 移住者が増え、また住民の子・孫が帰ってきたい様な町となってほしい。
- 若い家庭に魅力的な町づくり

- 移住者に頼る。
- 若い人は、何があれば土佐町にずっと住んでくれる？
- 移住者が増えても空き家の確保が難しい
- 地元に関わる活動に参加しよったら、愛着もわく？
- 土佐町嫌いじゃない（好きでもない。産まれた所やし）
- 地区外からの人が土佐町を選んで住んでくれる町。
- 移住者が来ているかどうかあまり分からない…（消防などで会う機会があれば分かるが…）
- 医療費、学費免除（子ども）なのは◎
- 家が少ない。移住したいのに…
- 一度来たら土佐町を好きになる（リピーター）は多い
- 受け入れ態勢充実
- 使われていない家をリフォームして住めるように…
- 移住してきてどこに何があるかわからない
- 全体的な職場の給料UP
- コロナでリモートでも仕事できる。
- 移住者がすぐ出て行ってしまうような政策ではだめ。
- パソコンあれば仕事できる時代。
- 都会の生活で疲れた人が増える。
- 転入を増やすことが大切であることを、きちんとそれが伝わっていけば、地域の方も納得して、一緒に地域をよくしていくことができるのではないかと。
- トンネルも開通し、市内に通う、通ってくる人もいる、川之江にもアクセスできる、他所へ出て住みやすい町にして行けるのではないかと思う。
- 人が一番多い地区。世代間の交流は大切やと思う。
- とにかくまず住居と土地を！直ぐ簡単に入居できる家。
- 消防団員の不足（若い人）、地域の代表者として位置づけることでやりがいになるのでは。
- 大学から帰ってきてアパートがない。親と住めない。一人暮らし、気軽に入れる单身アパートがない。とりあえず帰ってきてすんでもらえるものが必要。



## 「目標(ゴール)10 持続可能な行財政」

---

町民と役場が一体で協働する開かれたまちづくりを推進し、  
職員ひとりひとりが地域に溶け込み、主体的に地域の  
課題解決に取り組む職員を育てていく。

社会の先行きが見通しにくい現代。10年先を見据えた健全な財政運営を基本としながら、一方で、新しい施策にも積極的に取り組むことも必要ともなっています。地域を愛し、地域が直面している様々な課題の解決に柔軟に取り組んでいくことができる。そのような職員を増やしていくための人材育成を積極的に進めていきます。

### 【“2030年の土佐町” ゴール10の実現に向けた具体的行動(ターゲット)】

- 10-1 2030年までに、土佐町役場の職員数の確保や、健全な財政状況の確立を通じ、持続可能な行政運営を実現する。
- 10-2 2030年までに、これからの土佐町を支えていくために必要な役場職員人材育成の仕組みを整備し、それを通じて地域に積極的に関わる職員が育つようにする。
- 10-3 2030年までに、行政だけでなく、議会や関連機関についても、様々な世代や属性で構成を実現し、持続可能な状態とする。

【“2030年の土佐町” ゴール10の実現状況を把握するための指標（インディケーター）及び施策】

ターゲット (具体的行動)	インディケーター（指標）							施策
	目標値	単位	方針	現状値	当初値	頻度	測定指標	
10-1 2030年までに、土佐町役場の職員数の確保や、健全な財政状況の確立を通じ、持続可能な行政運営を実現する。	79	名以上	↑	77	75	年	土佐町役場職員数（会計年度任用職員除く）	退職者数に関係なく採用試験を毎年実施。
	2	名以上	↑	3	1	年	土佐町役場障害者雇用人数（会計年度任用職員含む）	採用試験を毎年実施。労働環境整備。
	8	%以内		7.4	7.5	年	実質公債費比率（健全化判断比率）	交付税措置率の高い起債借入を中心に行い、健全な財政運営を行う。
	90	%以内	↑	79.4	89.9	年	経常的経費割合（毎年度連続して固定的に支出される経費（人件費、維持管理など））	公共施設の見直し（公共施設等総合管理計画改訂等）
10-2 2030年までに、これからの土佐町を支えていくために必要な役場職員人材育成の仕組みを整備し、それを通じて地域に積極的に関わる職員が育つようにする。	3	回	↑	1	2	年	職員向け研修の実施回数（総務課）	目標値設定なし
	12	回	↑	6	0	年	職員向け研修の開催（企画推進課主催）	地域担当職員制度
10-3 2030年までに、行政だけでなく、議会や関連機関についても、様々な世代や属性で構成を実現し、持続可能な状態とする。		%	↑	0	0	年	土佐町議会議員女性比率	
	1	億円	→	3	1	年	ソーシャルボンド・グリーンボンド投資額	基金運用

## 【現状と課題】

第6次土佐町振興計画住民アンケートや、第7次土佐町振興計画の策定に向けた地域での話し合い・ワークショップ、いずれの場面においても、町の行政運営や行財政についてのご意見を多数いただきました。職員が地域に溶け込み、地域の課題解決や活性化に取り組むことが求められています。

近年の土佐町の一般会計当初予算は約40億円強程度。このうち、町税等の自主財源は10億円程度であり、予算の3/4を地方交付税（地方税収入が不足する地方公共団体に対して、一定の基準により国から交付される資金）を代表とする依存財源が占めています。このため町の財政力の強さを示す「財政力指数」（毎年の行政活動に必要な資金を、どれくらい自力で調達できるかを示す）も、全国平均の0.50程度に対し、0.20で横ばいを続けています。

令和2年4月1日現在の一般行政職の合計は54人。近年は退職者数の増加もあり、全体の職員数は減少してきています。町は平成27年から「地域担当職員制度」を設けており、保育士を含む全職員を8つの旧小学校区単位で各地域に配置し、地域の実情や課題の把握、地域の活性化や課題解決に向けた支援及び情報提供等に取り組んでいます。

前述のように、町の財政には課題も多く存在することから、10年先を見据えた健全な財政運営に取り組んでいく必要があります。一方で、人口減少や高齢化の進行に伴い、地域の課題も増加してきており、時には新しい施策や思いきったことにも積極的に取り組んでいくことも必要となってきています。2030年の「土佐町のありたい姿」の実現に向けて、町民と役場が一体となって協働する開かれたまちづくりを推進するとともに、職員ひとりひとりが地域に溶け込み、主体的に地域の課題解決に取り組んでいくことが必要となっています。そして、そのためにも町職員の人材育成を積極的に進めていくことが必要となっています。

（関連する町の代表的な計画）

- ・土佐町財政計画

## 【SDGs から見えてくる 2030 年の世界の姿】

○SDGs の中では、2030 年に向けて下記のゴールが掲げられています。

- ・ゴール 16.6：あらゆるレベルにおいて、有効で説明責任のある透明性の高い公共機関を発展させる。
- ・ゴール 17.14：持続可能な開発のための政策の一貫性を強化する。
- ・ゴール 12.7：国内の政策や優先事項に従って持続可能な公共調達の慣行を促進する。
- ・ゴール 5.5：政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。

## 2030年の土佐町のその他（行財政）において

### 地域のみなさんの声

- 職員の土佐町への課題への意識が低い。ワークショップを開くなら、町からの提案もあるべきでは？（こういう土佐町にしたらどうか等）
- 後輩が上司を評価する制度を導入しては？
- 職員が地域に透け込んでいない
- 要望しても職員が動かない。住民の要望に対応する課やチームの編成を行うべき
- 職員教育を徹底せよ!! パワハラが職員間で行われているのではないか
- 職員以外の住民が職員を評価する制度を導入して!!
- 虫送りに職員として参加するならば、伝統行事を盛り上げるような働きをしてほしい。（ただ座っているだけではなく）
- コロナは精神的な負担。一緒にご飯食べたり、飲んだりできない。入院しても家族に会えない。→自殺者増加。
- コロナ患者増えている。GOTO トラベル GOTO イートの影響→経済を止める訳にもいかない… 難しい。
- きっと田舎の良さがコロナをきっかけに理解される→強み
- コロナもあっておまつりをやる事に心配もある。
- いずれは土佐町にもコロナが入ってくる。→病院関係の連携ができていくか
- 若い人はPCR検査を受けない。検査料（3万円～）が高い→補助金を!!
- 地区でお金使えるように
- がんばる補助金拡充
- 何もできないのでは。
- 目玉政策が必要
- 10年後に備えて何を準備しておくか、考えるべき。
- 思い切ったことしよう。
- 空き家はあるが、借家はない。
- 空き家を買って、別荘として売る
- 町外者でも土佐町に家を建てたい人はいる!
- 長期入院で家が荒れる
- 住宅施策
- 独身住宅ほしい。
- 住環境いる
- 檜山トンネル。ベッドタウン

- 町営住宅で不在者の家の管理
- 家が少ない。移住したいのに…
- 柔軟な発想ができる
- きちんと住民のみんなにも浸透した計画になる
- ストーンと胸に落ちる、明確な目標を住民に与えてあげると良い。
- お忙しいでしょうが、とりあえず庁舎に入ったら声かけてほしい。
- 昔は役場のお兄さんに学校で遊んでもらいました。
- 絵本読んですぐ帰ってしまうのはさみしい・・・。
- 子どもを知っていれば地区のイベントにも職員の方も入ってきやすいのでは？
- 各地区の公民館・体育館、住民が安く借りられることが知られていない！もったいない！少しだけど町の収入にもなると思う。借り方、料金表を住民にもっと知らせて！調理室とか借りたい人いっぱいいる。
- 老朽化している施設をどう修繕していくか課題。維持修繕していくとなると専門分野での技術者が必要。町としても専門の技術者の人、技術を持った方が維持管理をどういう風にしていくかしっかりしていけないといけない。
- 町内に不要な建物とか、利用率の低い物について、適切な方法をしていただけたら。
- 土佐町のHP 分かりづらい。欲しい情報ない。
- 「捨てる」はマイナス。プラスの言葉が良い。
- 老若男女が一体となって守るべき、「オリジナルの土佐町」に
- 全体的に若者、子どもが中心に前にでている。もっと高齢者も大事に言葉を振興計画に入れてもらいたいです。
- 土佐町はすべての分野に対して対応できる、施設や仕組みはあると思う。町民のPR方法を考えて伝えていけば、地域の声に対応できると思います。（広報紙の充実+α、町内放送の利用方法）
- 今あるもののやり方、使い方を工夫すれば、お金を使わなくても地域の声には対応できる！
- ジェンダーの問題。夫の飲酒禁止、家でおるように。
- あるべき姿を示す際に、それが「実現可能かどうか」の精査が大事。足すことばかりになってしまうと、人が減っていく中では持続できない。ヒト、モノ、コト、カネ、ココロ。新しいことを始めるために、どのように余裕・余白をつくるかという視点も必要であると考える。



---

永遠の水源地

Origin × 【3,500】 × X = Sustainable

水源に生きる【3,500】人、ひとりひとりの個性を最大化することが、まちの持続可能性となる

第7次土佐町振興計画 副本編

編集・発行 高知県土佐町企画推進課  
〒781-3492 高知県土佐郡土佐町土居 194  
電話 0887-82-0480 FAX 0887-82-2681

令和6年4月

---